

新たな中・長期的計画策定のための市政アンケート調査 集 計 結 果

平成 26 年 9 月
鈴 鹿 市

目 次

第1章 調査の概要 1

第2章 調査結果

回答者属性 3

住みやすさについて 10

定住意向について 13

まちづくりの満足度・重要度について 16

満足度割合の状況 17

満足度評価結果 18

重要度割合の状況 30

重要度評価結果 31

満足度及び重要度評価のグラフ化について 43

まちづくりの視点について 47

まちづくりを推進していくために必要なことについて . . . 48

推進組織への関わり方について 49

市政全般についての御意見，御提案（一部抜粋） 51

第3章 参考資料

他団体との比較について 53

アンケート調査票 56

第1章 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、市民のまちづくりに対する満足度及び重要度や、将来のまちづくりのあり方に対する意向を把握することにより、新たな中・長期的計画の策定において、市民の声を政策等の形成に反映させることを目的として実施しました。

2 調査の設計

- (1) 調査対象 18歳以上の市民
- (2) 対象者数 4,000人
- (3) 抽出方法 多段階無作為抽出（平成26年5月13日現在の住民基本台帳から抽出）
- (4) 調査方法 郵送法
- (5) 調査時期 平成26年6月10日から7月8日まで

3 回収結果

- (1) 有効回答数（率） 1,580人（39.5%）
- (2) 無効調査数（率） 2,420人（60.5%）

【内訳】	転居・住所不明	36人
	期日後回収	66人
	返送なし	2,318人

4 調査地域区分

地域別の分析を行うに当たり、鈴鹿市を下記の4地域に区分しました。

西部地域（9地区）	庄野，加佐登，石薬師，井田川，久間田，椿，深伊沢，鈴峰，庄内
中央地域（5地区）	牧田，飯野，河曲，玉垣，神戸
南部地域（5地区）	国府，稻生，栄，天名，合川
東部地域（4地区）	白子，一ノ宮，箕田，若松

5 集計方法

全 67 項目における回答についての単純集計に加え、一部項目については、設問間（クロス）集計（年代別、地域別など）を実施しています。

集計は、まず家族構成や居住地域などの基礎項目（クロス集計の基礎となる項目）から実施しています。このことから調査時と集計時における各項目掲載順は異なります。

また、市民の満足度・重要度を問う設問については、設問間の差や全体の水準をはかるため、重みづけを行った上で評価しました。さらに、満足度と重要度の相関傾向を計るため、重要度評価の指標を縦軸に、満足度評価の指標を横軸に分布図を作成しました。

なお、集計結果については、全て小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、比率の合計が 100%にならないことがあります。

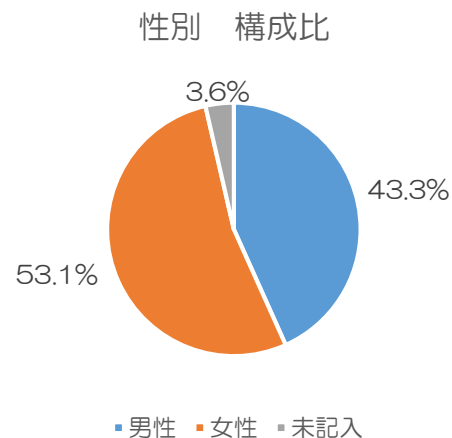
第2章 調査結果

回答者属性

1. 性別構成について

【性別構成比】

項目	依頼数 (人)	構成比①	回答数	構成比② (人)
男性	1,990	49.8%	684	43.3%
女性	2,010	50.3%	839	53.1%
未記入	-	-	57	3.6%
合計	4,000	100.0%	1,580	100.0%



※構成比①：アンケート対象者総数に占める性別対象者数の割合

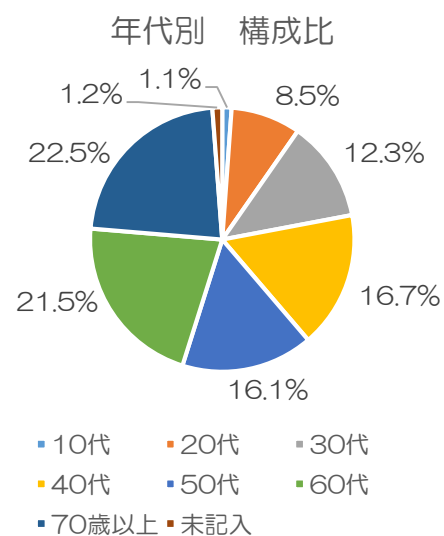
※構成比②：回答数合計に占める性別回答者数の割合

前回のアンケート調査（平成16年8月実施 回答数1,523人 回答率50.7% 男性44.5% 女性53.1% 未記入2.4%）と比べ、回答者の性別の構成比については、ほとんど変化ありませんでした。

2. 年代構成について

【年代別構成比】

年代	依頼数 (人)	構成比①	回答数 (人)	構成比②
10代	101	2.5%	18	1.1%
20代	524	13.1%	135	8.5%
30代	668	16.7%	195	12.3%
40代	764	19.1%	264	16.7%
50代	565	14.1%	255	16.1%
60代	652	16.3%	339	21.5%
70歳以上	726	18.1%	355	22.5%
未記入	-	-	19	1.2%
合計	4,000	100.0%	1,580	100.0%



※構成比①：アンケート対象者総数に占める年代別対象者数の割合

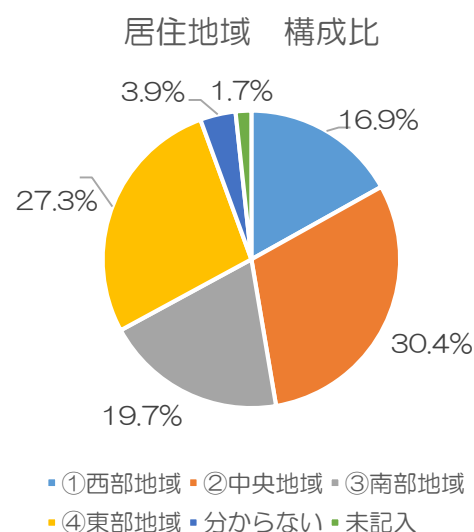
※構成比②：回答数合計に占める年代別回答者数の割合

10代、20代、30代の若い年齢層の回答率が低く、前回調査結果と同様、年代層が高くなるにつれて回答率も高くなりました。

3－1．居住地域別構成について

【居住地域構成比】

地域	依頼数 (人)	構成比①	回答数 (人)	構成比②
西部地域	626	15.7%	267	16.9%
中央地域	1,387	34.7%	481	30.4%
南部地域	784	19.6%	312	19.7%
東部地域	1,203	30.0%	432	27.3%
分からない	-	-	61	3.9%
未記入	-	-	27	1.7%
合計	4,000	100.0%	1,580	100.0%



※構成比①：アンケート対象者総数に占める地域別対象者数の割合

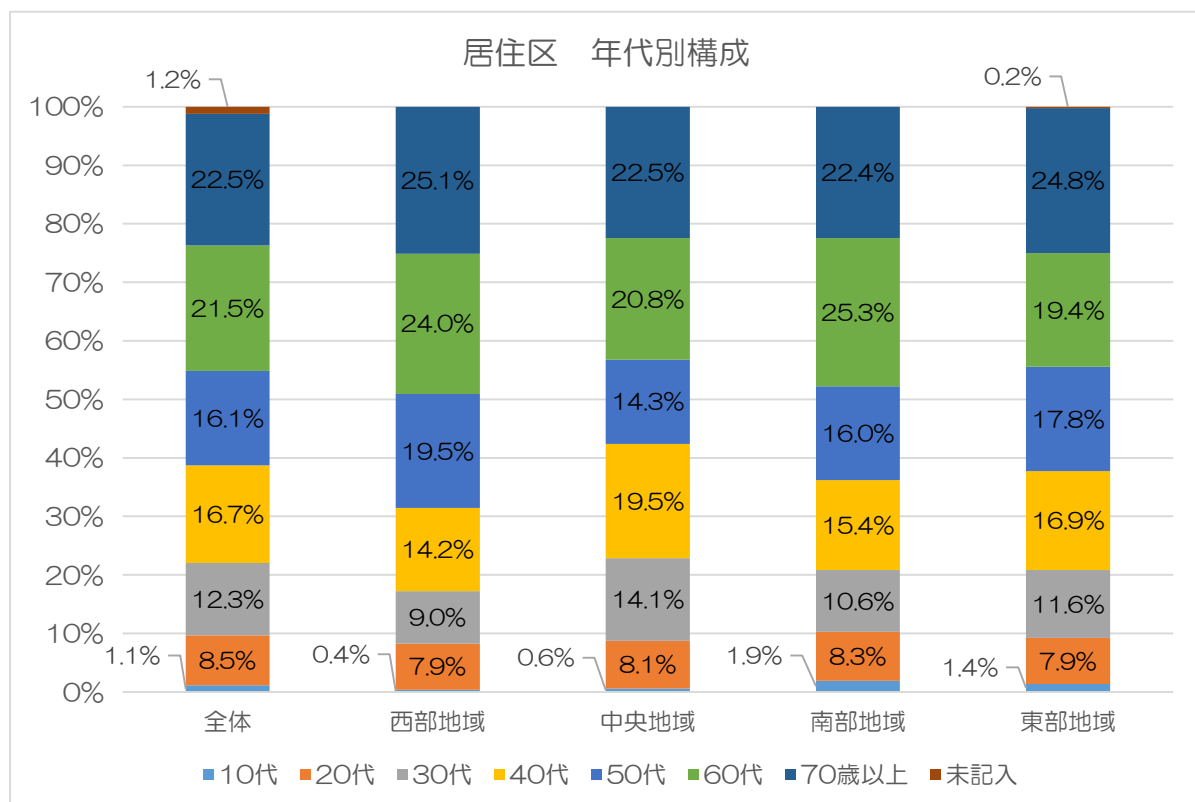
※構成比②：回答数合計に占める地域別回答者数の割合

西部地域と南部地域の構成比が少なくなっているのは、依頼数が少ないことによるものですが、各地区から抽出した対象者の比率と、回答者に占める居住地域別構成比は、ほとんど同じとなりました。

3－2．地域別年代構成について

【地域別の年代構成（比）】 ※数値の単位については、（）外は人、（）内は構成比で%

年代	全体	西部地域	中央地域	南部地域	東部地域	地域不明
10代	18(1.1)	1(0.4)	3(0.6)	6(1.9)	6(1.4)	2(2.3)
20代	135(8.5)	21(7.9)	39(8.1)	26(8.3)	34(7.9)	15(17.0)
30代	195(12.3)	24(9.0)	68(14.1)	33(10.6)	50(11.6)	20(22.7)
40代	264(16.7)	38(14.2)	94(19.5)	48(15.4)	73(16.9)	11(12.5)
50代	255(16.1)	52(19.5)	69(14.3)	50(16.0)	77(17.8)	7(8.0)
60代	339(21.5)	64(24.0)	100(20.8)	79(25.3)	84(19.4)	12(13.6)
70歳以上	355(22.5)	67(25.1)	108(22.5)	70(22.4)	107(24.8)	3(3.4)
未記入	19(1.2)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(0.2)	18(20.5)
合計	1,580	267	481	312	432	88

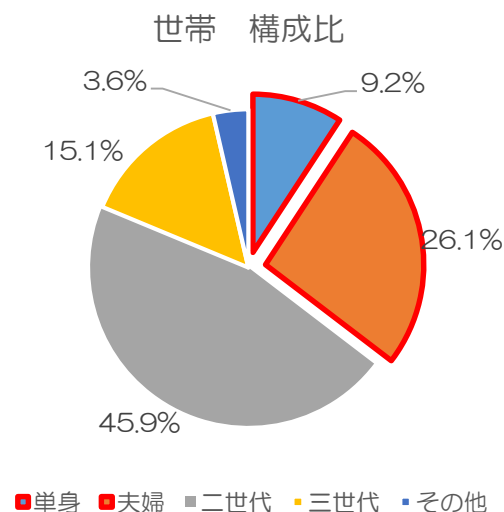


全ての地域における 60 代以上の割合は、40%以上となりました。特に、西部地域及び南部地域につきましては、50%に近い割合となりました。

4－1．世帯構成について

【世帯構成比】

	項目	回答数 (人)	構成比
(4－2)	単身	146	9.2%
(4－3)	夫婦のみ	413	26.1%
	二世帯（親・子）	725	45.9%
	三世帯（親・子・孫）	239	15.1%
	その他（兄弟姉妹等）	57	3.6%
	合計	1,580	100.0%

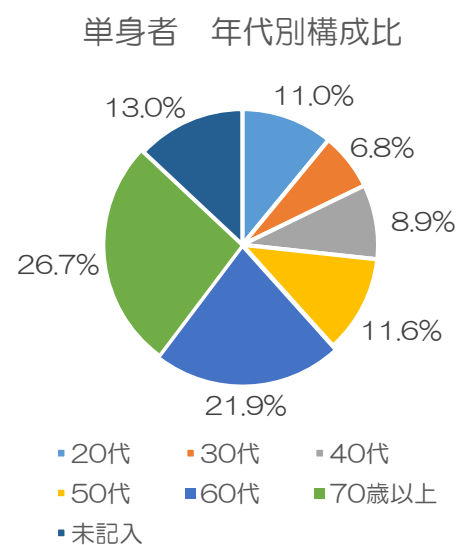


世帯構成についても、前回アンケート結果からは、ほとんど変化はありませんでした。赤枠で示している「単身」と「夫婦のみ」については、「4－2」，「4－3」で、さらに分析を行いました。

4－2．単身者のさらなる分析について

【単身者の年代別構成比】

年代	人数	構成比
10代	0	0.0%
20代	16	11.0%
30代	10	6.8%
40代	13	8.9%
50代	17	11.6%
60代	32	21.9%
70歳以上	39	26.7%
未記入	19	13.0%
合計	146	100.0%

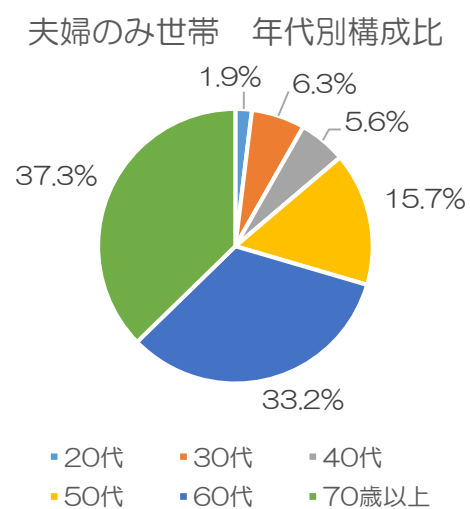


単身者の約半数は60代以上が占める結果となりました。年代が高まるにつれて構成比が増加している傾向にありました。

4－3．夫婦のみ世帯のさらなる分析について

【夫婦のみ世帯の年代別構成比】

年代	人数	構成比
10代	0	0.0%
20代	8	1.9%
30代	26	6.3%
40代	23	5.6%
50代	65	15.7%
60代	137	33.2%
70歳以上	154	37.3%
未記入	0	0.0%
合計	413	100.0%

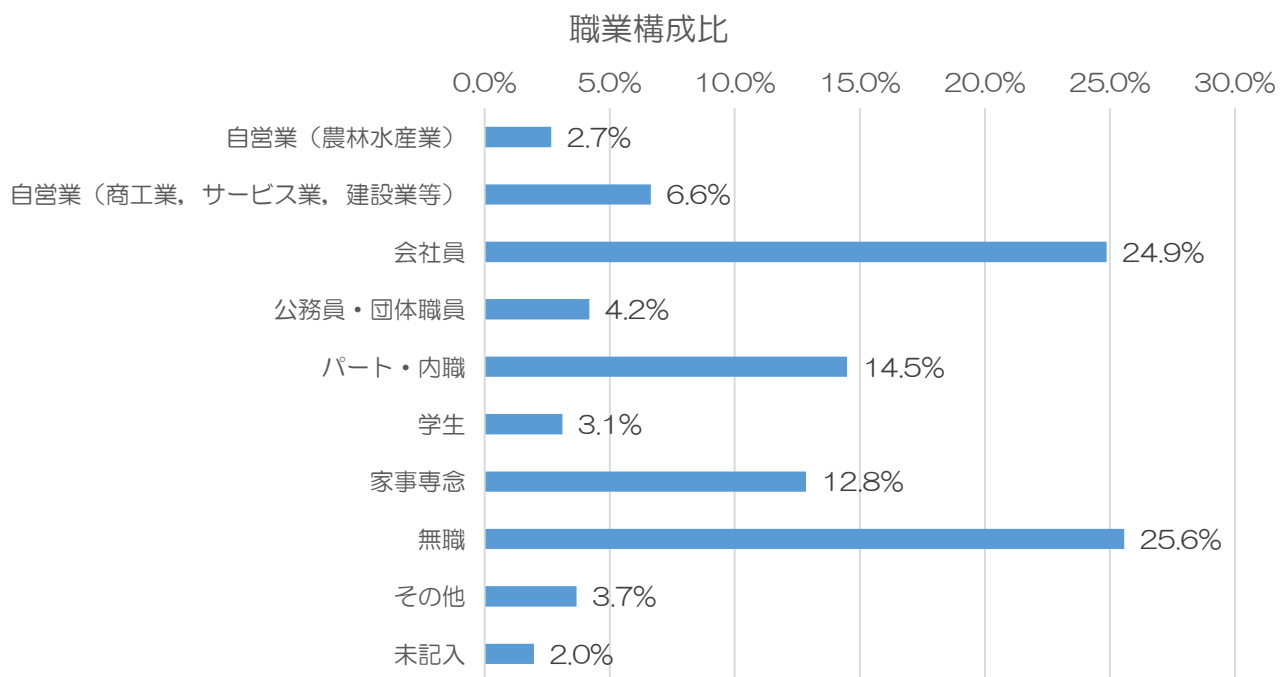


ここでの年代とは、回答者の年齢に基づくものであり、夫婦いずれか一方の年代を表しています。このことから、夫婦のみ世帯における7割以上は、夫婦のうち、いずれかの年齢が60代以上である高齢世帯が占める結果となりました。

5. 職業等について

【職業構成比】

項目	回答数	構成比
自営業（農林水産業）	42	2.7%
自営業（商工業，サービス業，建設業等）	105	6.6%
会社員	393	24.9%
公務員・団体職員	66	4.2%
パート・内職	229	14.5%
学生	49	3.1%
家事専念	203	12.8%
無職	404	25.6%
その他	58	3.7%
未記入	31	2.0%
合計	1,580	100.0%

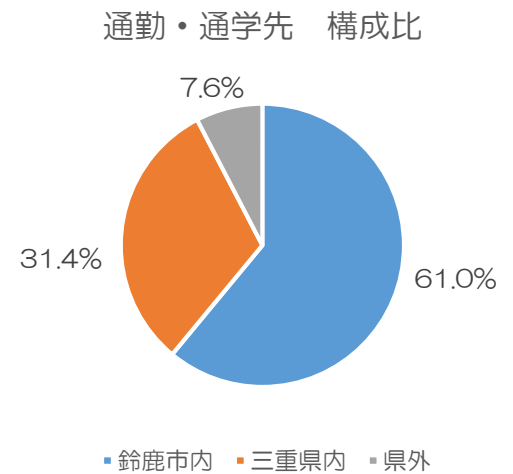


前回アンケート結果では、会社員の割合が29.4%と最も高く、無職が20.4%で2番目となっていました。今回は、無職の割合が5.2%増加し逆転した結果となりました。

6. 通勤・通学について

【通勤・通学先構成比】

項目	回答数（人）	構成比
鈴鹿市内	488	61.0%
三重県内	251	31.4%
県外	61	7.6%
合計	800	100.0%

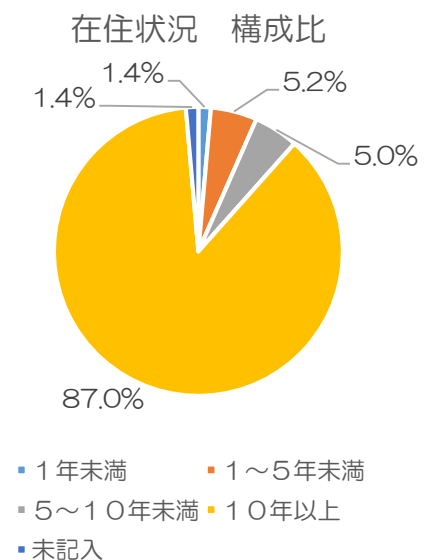


前回アンケート結果と比べると、鈴鹿市内又は三重県内に通勤・通学している方の割合が減少しており、その分、県外に通勤・通学している方の割合が増加しました。

7. 在住年数について

【在住年数構成比】

項目	回答数（人）	構成比
1年未満	22	1.4%
1～5年未満	82	5.2%
5～10年未満	79	5.0%
10年以上	1375	87.0%
未記入	22	1.4%
合計	1580	100.0%

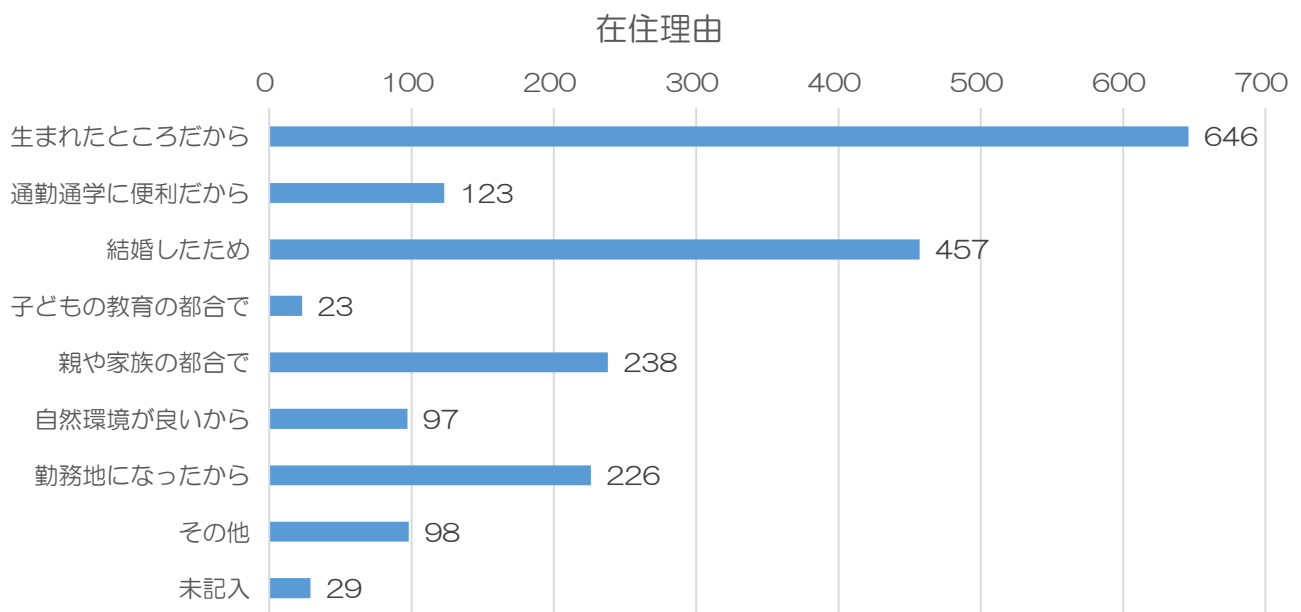


10年以上在住している市民が87%と最も多く、また前回調査結果よりも約5%増加しました。

8. 在住理由について（複数回答）

【在住理由】

項目	回答数
生まれたところだから	646
通勤通学に便利だから	123
結婚したため	457
子どもの教育の都合で	23
親や家族の都合で	238
自然環境が良いから	97
勤務地になったから	226
その他	98
未記入	29



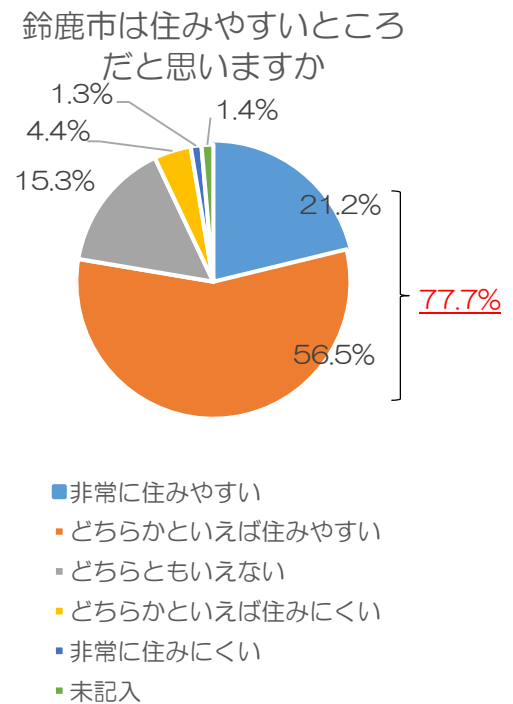
在住理由は、「生まれたところだから」と「結婚したため」が突出している一方、「子どもの教育の都合で」と「自然環境が良いから」が低い数値となりました。

9-1. 住みやすさについて

【住みやすさ】

項目	回答数	構成比
非常に住みやすい	335	21.2%
どちらかといえば住みやすい	892	56.5%
どちらともいえない	242	15.3%
どちらかといえば住みにくい	69	4.4%
非常に住みにくい	20	1.3%
未記入	22	1.4%
合計	1,580	100.0%

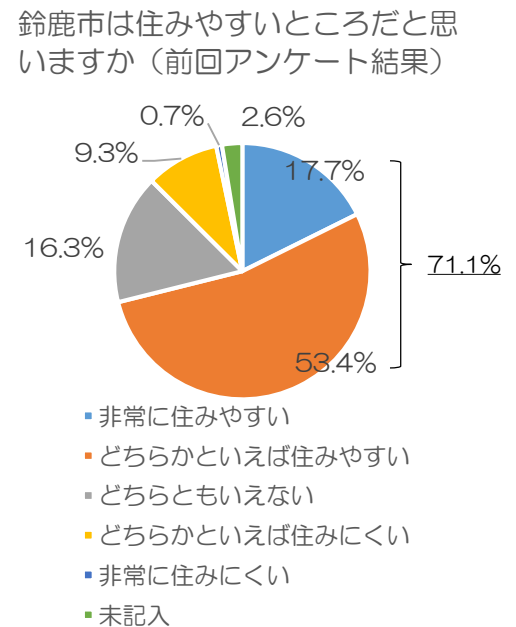
77.7%



(参考) 前回アンケート結果について 【住みやすさ(前回結果)】

項目	回答数	構成比
非常に住みやすい	269	17.7%
どちらかといえば住みやすい	814	53.4%
どちらともいえない	249	16.3%
どちらかといえば住みにくい	141	9.3%
非常に住みにくい	11	0.7%
未記入	39	2.6%
合計	1,523	100.0%

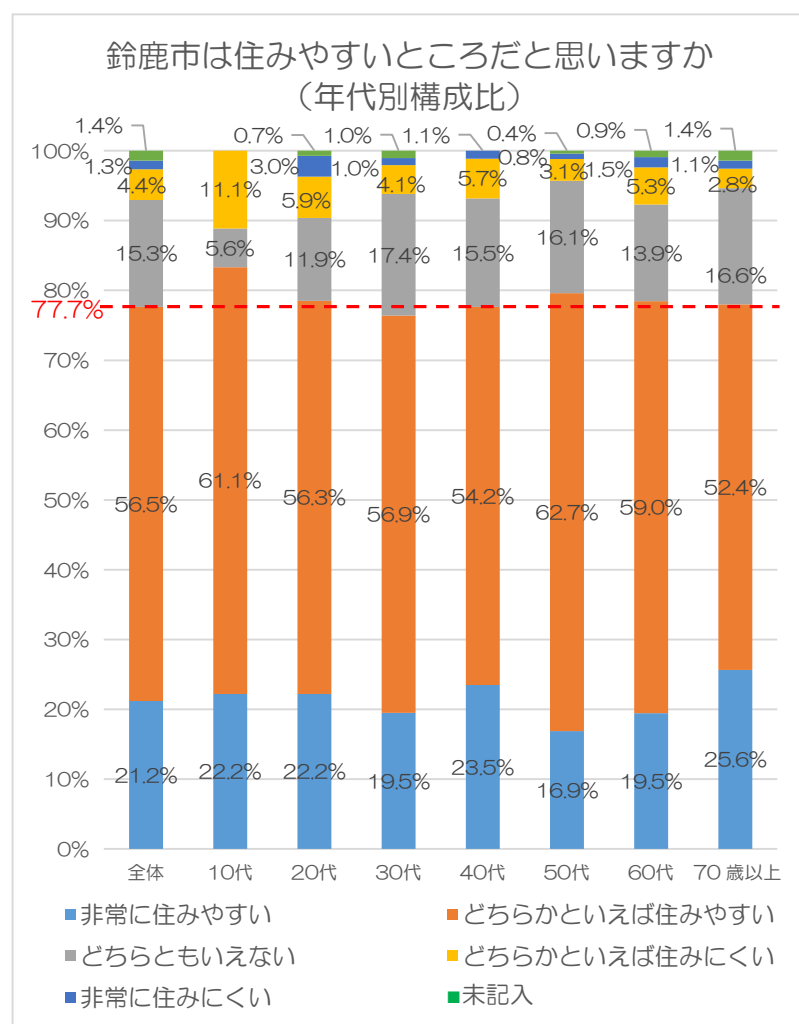
71.1%



将来都市像の達成を図るための指標である当項目について、77.7%という結果でした。前回アンケート結果からは6.6ポイント上昇したものの、第5次鈴鹿市総合計画における将来都市像の達成に向けた目標値である80%には、2.3ポイント届きませんでした。

9-2. 住みやすさについて（年代別）

項目	全体		10代		20代		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
非常に住みやすい	335	21.2%	4	22.2%	30	22.2%	38	19.5%	62	23.5%	43	16.9%
どちらかといえば住みやすい	892	56.5%	11	61.1%	76	56.3%	111	56.9%	143	54.2%	160	62.7%
どちらともいえない	242	15.3%	1	5.6%	16	11.9%	34	17.4%	41	15.5%	41	16.1%
どちらかといえば住みにくい	69	4.4%	2	11.1%	8	5.9%	8	4.1%	15	5.7%	8	3.1%
非常に住みにくい	20	1.3%	0	0.0%	4	3.0%	2	1.0%	3	1.1%	2	0.8%
未記入	22	1.4%	0	0.0%	1	0.7%	2	1.0%	0	0.0%	1	0.4%
合計	1,580	100.0%	18	100.0%	135	100.0%	195	100.0%	264	100.0%	255	100.0%

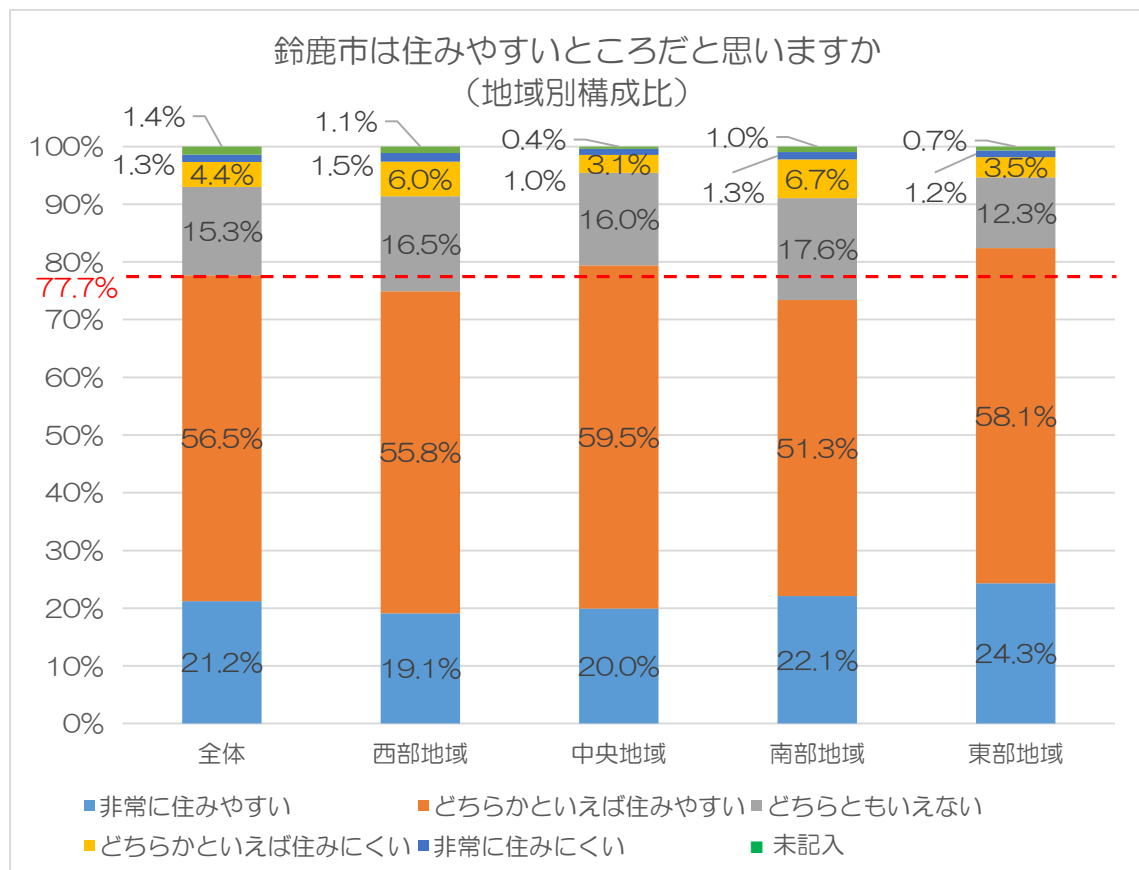


60代		70歳以上		年齢不明	
人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
66	19.5%	91	25.6%	1	5.3%
200	59.0%	186	52.4%	5	26.3%
47	13.9%	59	16.6%	3	15.8%
18	5.3%	10	2.8%	0	0.0%
5	1.5%	4	1.1%	0	0.0%
3	0.9%	5	1.4%	10	52.6%
339	100.0%	355	100.0%	19	100.0%

各年代とも、8割弱の方が、「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」という意向を示しました。「非常に住みやすい」は70歳以上が、「非常に住みにくい」は20代が他の世代よりも多くなりました。

9-3. 住みやすさについて（地域別）

項目	全体		西部地域		中央地域		南部地域		東部地域		地区不明	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
非常に住みやすい	335	21.2%	51	19.1%	96	20.0%	<u>69</u>	<u>22.1%</u>	<u>105</u>	<u>24.3%</u>	14	15.9%
どちらかといえば住みやすい	892	56.5%	149	55.8%	286	59.5%	<u>160</u>	<u>51.3%</u>	<u>251</u>	<u>58.1%</u>	46	52.3%
どちらともいえない	242	15.3%	44	16.5%	77	16.0%	55	17.6%	53	12.3%	13	14.8%
どちらかといえば住みにくい	69	4.4%	16	6.0%	<u>15</u>	<u>3.1%</u>	<u>21</u>	<u>6.7%</u>	15	3.5%	2	2.3%
非常に住みにくい	20	1.3%	4	1.5%	<u>5</u>	<u>1.0%</u>	<u>4</u>	<u>1.3%</u>	5	1.2%	2	2.3%
未記入	22	1.4%	3	1.1%	2	0.4%	3	1.0%	3	0.7%	11	12.5%
合計	1,580	100.0%	267	100.0%	481	100.0%	312	100.0%	432	100.0%	88	100.0%



中央地域，東部地域に対して，南部地域，西部地域は，住みやすさを感じる人の割合が低い傾向がありました。

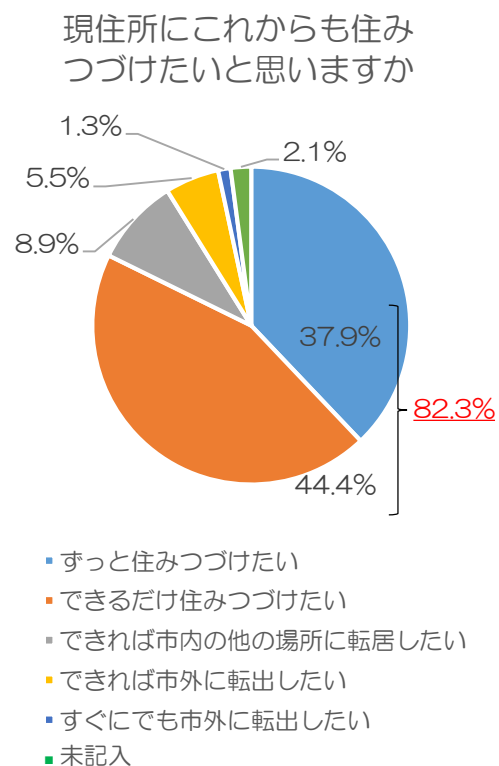
10-1. 定住意向について

【定住意向】

項目	回答数	構成比
ずっと住みつづけたい	599	37.9%
できるだけ住みつづけたい	701	44.4%
できれば市内の他の場所に転居したい	140	8.9%
できれば市外に転出したい	87	5.5%
すぐにでも市外に転出したい	20	1.3%
未記入	33	2.1%
合計	1,580	100.0%

82.3%

15.7%



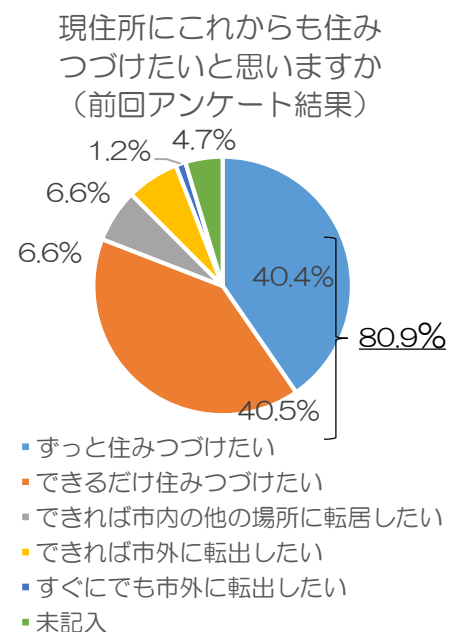
(参考) 前回アンケート結果について

【定住意向（前回結果）】

項目	回答数	構成比
ずっと住みつづけたい	615	40.4%
できるだけ住みつづけたい	617	40.5%
できれば市内の他の場所に転居したい	101	6.6%
できれば市外に転出したい	100	6.6%
すぐにでも市外に転出したい	19	1.2%
未記入	71	4.7%
合計	1,523	100.0%

80.9%

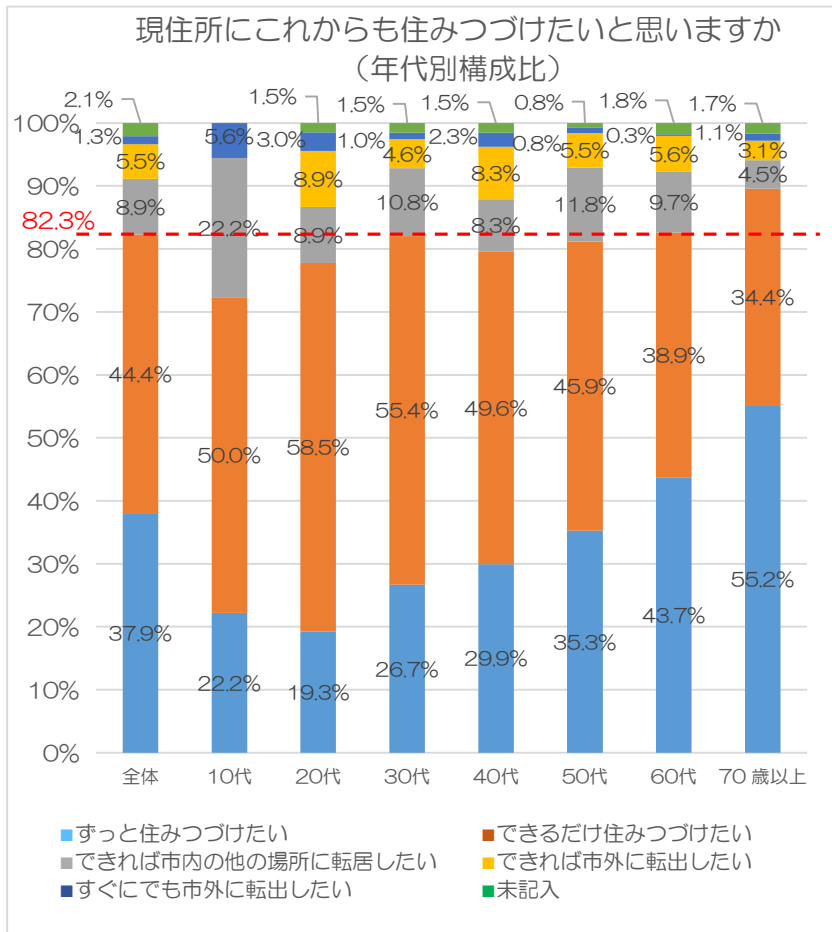
14.4%



定住に肯定的な回答が、前回アンケート結果から 1.4%上昇し、引き続き 80%を上回った半面、定住に否定的な回答も 1.3%増加しました。

10-2. 定住意向について（年代別）

項目	全体		10代		20代		30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ずっと住みつづけたい	599	37.9%	4	22.2%	26	19.3%	52	26.7%	79	29.9%	90	35.3%
できるだけ住みつづけたい	701	44.4%	9	50.0%	79	58.5%	108	55.4%	131	49.6%	117	45.9%
できれば市内の他の場所に転居したい	140	8.9%	<u>4</u>	<u>22.2%</u>	<u>12</u>	<u>8.9%</u>	21	10.8%	22	8.3%	30	11.8%
できれば市外に転出したい	87	5.5%	<u>0</u>	<u>0.0%</u>	<u>12</u>	<u>8.9%</u>	9	4.6%	22	8.3%	14	5.5%
すぐにでも市外に転出したい	20	1.3%	<u>1</u>	<u>5.6%</u>	<u>4</u>	<u>3.0%</u>	2	1.0%	6	2.3%	2	0.8%
未記入	33	2.1%	0	0.0%	2	1.5%	3	1.5%	4	1.5%	2	0.8%
合計	1,580	100.0%	18	100.0%	135	100.0%	195	100.0%	264	100.0%	255	100.0%

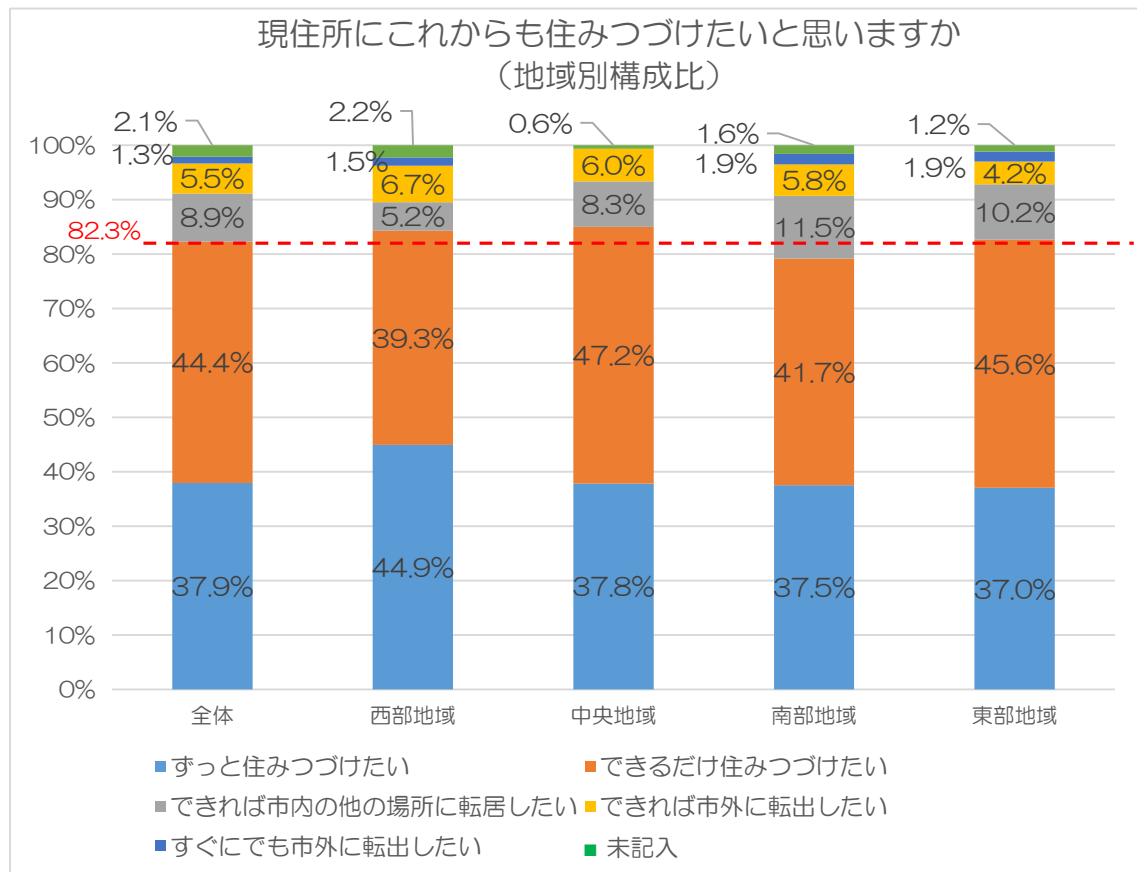


60代		70歳以上		年齢不明	
人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
148	43.7%	196	55.2%	4	21.1%
132	38.9%	122	34.4%	3	15.8%
33	9.7%	16	4.5%	2	10.5%
19	5.6%	11	3.1%	0	0.0%
1	0.3%	4	1.1%	0	0.0%
6	1.8%	6	1.7%	10	52.6%
339	100.0%	355	100.0%	19	100.0%

高齢になるにつれ、定住意向が高まる傾向にあり、全体と比べて10代、20代においては、定住意向が低い結果となりました。

10-3. 定住意向について（地域別）

項目	全体		西部地域		中央地域		南部地域		東部地域		地区不明	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ずっと住みつづけたい	599	37.9%	<u>120</u>	<u>44.9%</u>	<u>182</u>	<u>37.8%</u>	117	37.5%	160	37.0%	20	22.7%
できるだけ住みつづけたい	701	44.4%	<u>105</u>	<u>39.3%</u>	<u>227</u>	<u>47.2%</u>	130	41.7%	197	45.6%	42	47.7%
できれば市内の他の場所に転居したい	140	8.9%	14	5.2%	40	8.3%	<u>36</u>	<u>11.5%</u>	44	10.2%	6	6.8%
できれば市外に転出したい	87	5.5%	18	6.7%	29	6.0%	<u>18</u>	<u>5.8%</u>	18	4.2%	4	4.5%
すぐにでも市外に転出したい	20	1.3%	4	1.5%	0	0.0%	<u>6</u>	<u>1.9%</u>	8	1.9%	2	2.3%
未記入	33	2.1%	6	2.2%	3	0.6%	5	1.6%	5	1.2%	14	15.9%
合計	1,580	100.0%	267	100.0%	481	100.0%	312	100.0%	432	100.0%	88	100.0%



西部地域，中央地域が比較的定住意向が高い一方，南部地域では定住意向が最も低い結果になりました。

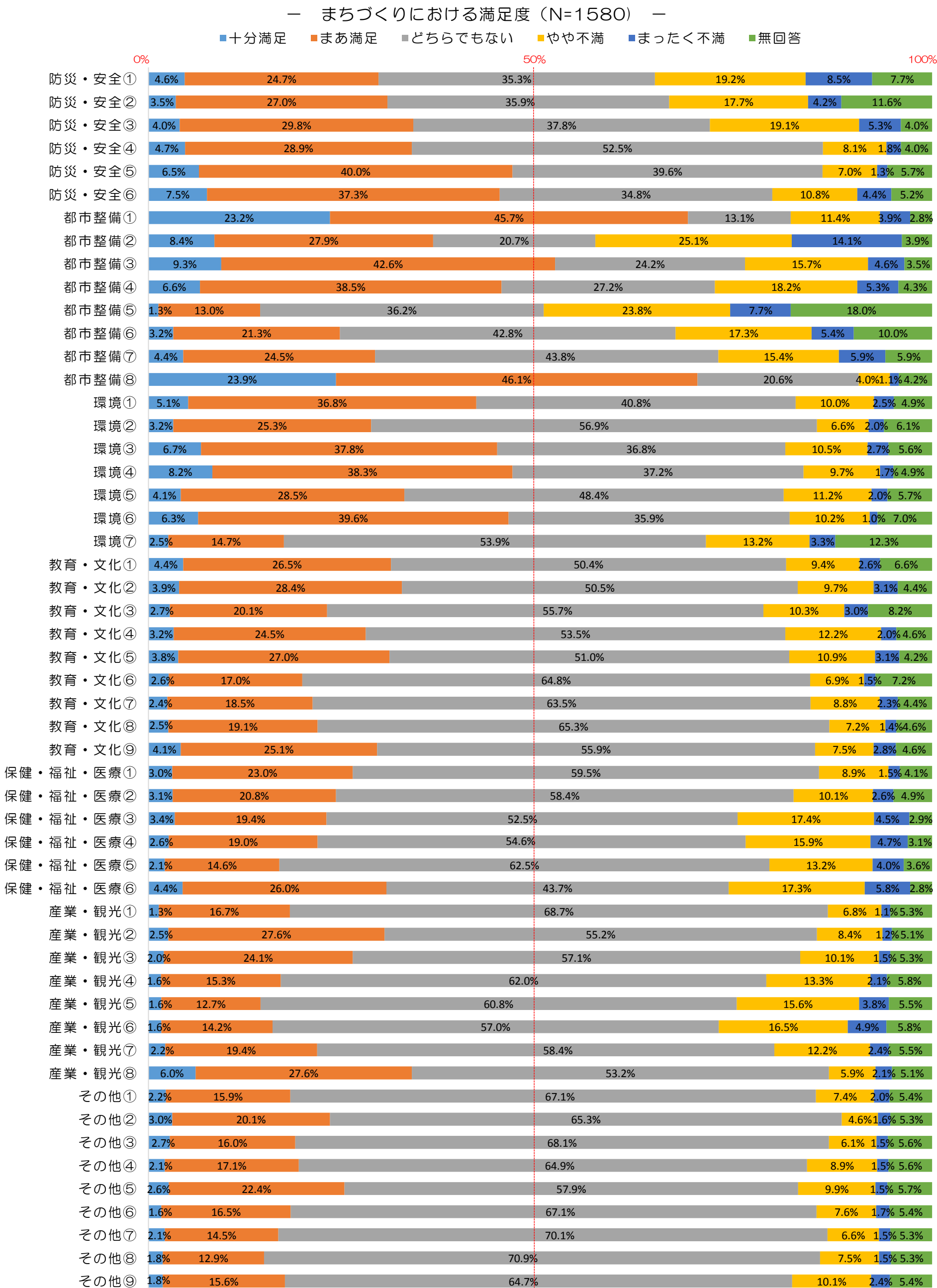
1 1. まちづくりの満足度・重要度について

(1) 調査分野・項目について

7 分野・53項目について、現在の満足度と今後の重要度について各 5 段階で回答いただきました。

分野	No	項 目 内 容
防災・安全	①	地震・水害など自然災害からの安全性確保（防災・減災対策）
	②	暴力や犯罪などからの安全性確保（防犯対策）
	③	交通安全確保（交通事故防止等）
	④	公害，防疫（感染症対策）等危機管理体制の充実
	⑤	火災予防，消防体制の充実
	⑥	救急体制の充実
都市整備	①	日用品・食料品などの買い物の便利さ
	②	鉄道・バスなどの公共交通機関の便利さ
	③	身近な生活道路の便利さ
	④	広域的に移動できる幹線道路の便利さ
	⑤	高齢者等すべての人が移動しやすい環境の整備（道路や公共施設のバリアフリー化等）
	⑥	雨水排水施設の整備（河川改修等）
	⑦	公園・広場などの整備・便利さ
	⑧	水道水の安定供給
環境	①	海・川など水辺の豊かさなど自然環境の保全
	②	市街地周辺農地の保全
	③	生活排水の処理（下水道整備等）による水質の保全
	④	公園や緑地など緑の豊かさ
	⑤	まち並みや景観の保全
	⑥	ごみの減量化や再資源化（リサイクル）
	⑦	省エネルギーや太陽光発電等再生可能エネルギーの促進
教育・文化	①	幼稚園など幼児教育の充実
	②	小中学校教育の充実
	③	高校・大学・専門学校教育の充実
	④	幼稚園，学校等における安全対策
	⑤	生涯学習の充実（公民館，図書館等）
	⑥	人権教育の充実
	⑦	芸術・文化の振興（文化施設，芸術・文化活動等）
	⑧	文化財の保全・活用，伝統芸能の継承
	⑨	スポーツの振興（スポーツ施設，スポーツ活動等）
保健・福祉・医療	①	健康づくり事業の充実
	②	保育や子育て相談など子育て支援の充実
	③	高齢者福祉の充実
	④	介護サービスの充実
	⑤	障がい者の自立支援や社会参加
	⑥	医療体制の充実
産業・観光	①	農林水産業の振興
	②	地産地消の推進
	③	商業やサービス産業の活性化
	④	企業誘致の推進
	⑤	中小企業の活性化
	⑥	労働環境の充実
	⑦	観光振興による地域活性化
	⑧	モータースポーツの振興による地域活性化
その他	①	男女共同参画社会の実現
	②	人権の尊重
	③	国際交流の推進，多文化共生社会の推進
	④	高度情報化時代への対応（情報通信ネットワークの充実）
	⑤	市政や地域に関する情報発信の充実
	⑥	住民参加によるまちづくりの推進
	⑦	NPO，ボランティアなど市民活動の支援
	⑧	近隣市町との連携強化（広域行政の推進）
	⑨	市外における知名度の向上（シティセールスやPRの強化）

(2-1) 満足度割合の状況について



(2-2) 満足度評価の状況について

各項目における満足度に関する回答状況について、下記計算式に基づき満足度評価を行いました。

【満足度評価に関する計算式】

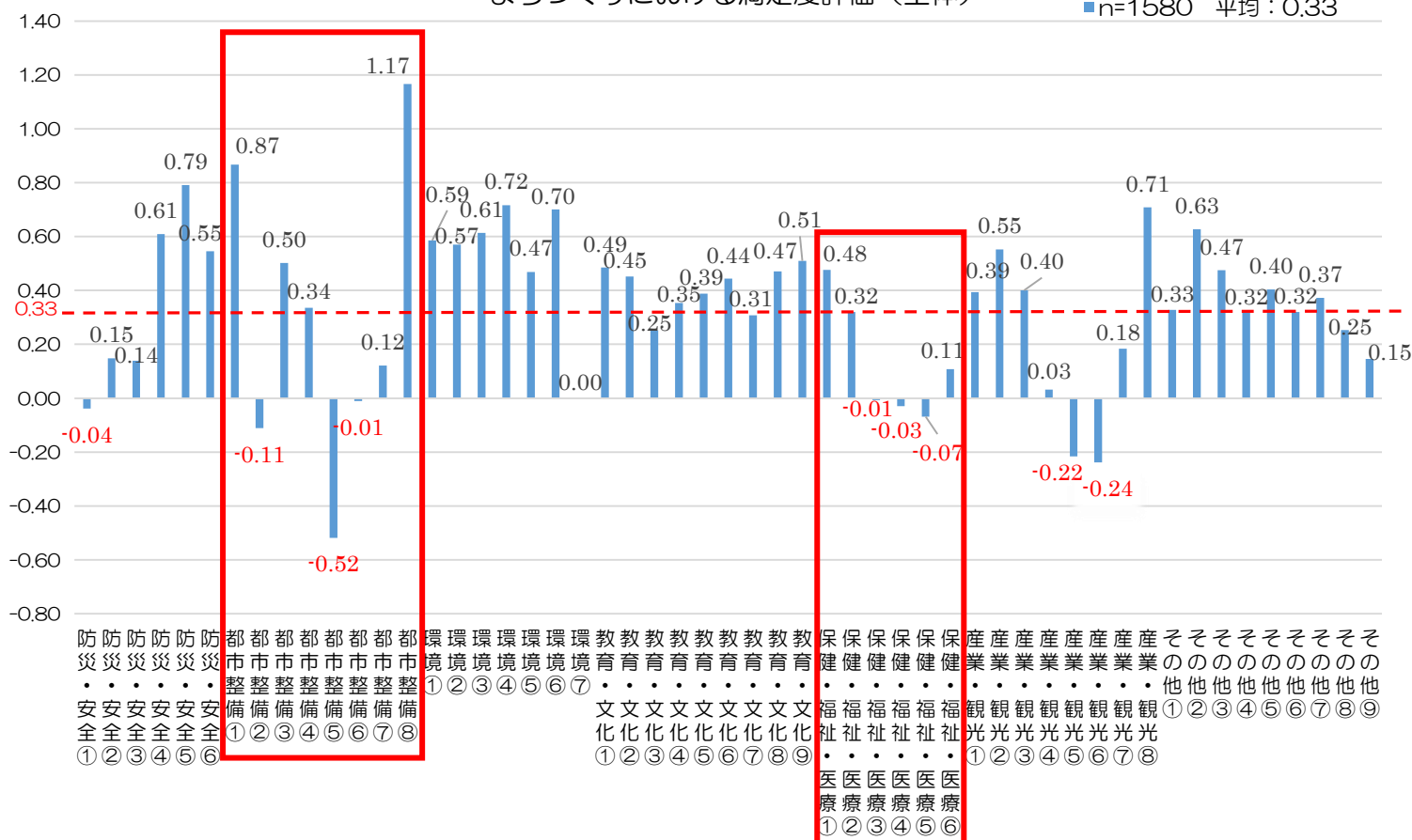
$$\text{満足度} = \frac{\text{「十分満足」} \times 2 + \text{「まあ満足」} \times 1 + \text{「やや不満」} \times (-1) + \text{「まったく不満」} \times (-2)}{\text{全回答数}(n) - \text{未記入数} - \text{「どちらでもない」}}$$

項目	満足度評価	順位	項目	満足度評価	順位
防災・安全①	-0.04	48	保健・福祉・医療①	0.48	17
防災・安全②	0.15	38	保健・福祉・医療②	0.32	32
防災・安全③	0.14	40	保健・福祉・医療③	-0.01	45
防災・安全④	0.61	9	保健・福祉・医療④	-0.03	47
防災・安全⑤	0.79	3	保健・福祉・医療⑤	-0.07	49
防災・安全⑥	0.55	13	保健・福祉・医療⑥	0.11	42
都市整備①	0.87	2	産業・観光①	0.39	25
都市整備②	-0.11	50	産業・観光②	0.55	12
都市整備③	0.50	15	産業・観光③	0.40	24
都市整備④	0.34	29	産業・観光④	0.03	43
都市整備⑤	-0.52	53	産業・観光⑤	-0.22	51
都市整備⑥	-0.01	46	産業・観光⑥	-0.24	52
都市整備⑦	0.12	41	産業・観光⑦	0.18	37
都市整備⑧	1.17	1	産業・観光⑧	0.71	5
環境①	0.59	10	その他①	0.33	30
環境②	0.57	11	その他②	0.63	7
環境③	0.61	8	その他③	0.47	18
環境④	0.72	4	その他④	0.32	33
環境⑤	0.47	20	その他⑤	0.40	23
環境⑥	0.70	6	その他⑥	0.32	31
環境⑦	0.00	44	その他⑦	0.37	27
教育・文化①	0.49	16	その他⑧	0.25	35
教育・文化②	0.45	21	その他⑨	0.15	39
教育・文化③	0.25	36	満足度評価平均値：0.33		
教育・文化④	0.35	28			
教育・文化⑤	0.39	26			
教育・文化⑥	0.44	22			
教育・文化⑦	0.31	34			
教育・文化⑧	0.47	19			
教育・文化⑨	0.51	14			

53 項目の満足度評価平均値は 0.33 となり、30 位の「その他①」の満足度評価がそれにあたります。なお、マイナス評価になったもの（赤字で標記）は 9 項目になりました。

— まちづくりにおける満足度評価（全体） —

■n=1580 平均：0.33



【分野別満足度評価平均値】

分 野	満足度評価平均値
防災・安全（6項目）	0.37
都市整備（8項目）	0.29
環境（7項目）	0.52
教育・文化（9項目）	0.41
保健・福祉・医療（6項目）	0.13
産業・観光（8項目）	0.23
その他（9項目）	0.36

全項目中、都市整備⑧「水道水の安定供給」が最も高く 1.17 となりました。一方、都市整備⑤「高齢者等すべての人が移動しやすい環境の整備（道路や公共施設のバリアフリー化等）」が最も低く -0.52 となりました。都市整備分野 8 項目中 4 項目が平均値を上回った一方、3 項目がマイナス評価となり、同分野内で不均衡な評価結果となりました。

保健・福祉・医療分野では、6 項目中、平均値を上回った項目が 1 項目のみとなり、その他の 3 項目ではマイナス評価となり分野別平均値では 0.13 と最も低い結果となりました。

【満足度評価が高い上位 5 項目】

	項 目 内 容	満足度評価
1	水道水の安定供給（都市整備⑧）	1.17
2	日用品・食料品などの買い物の便利さ（都市整備①）	0.87
3	火災予防、消防体制の充実（防災・安全⑤）	0.79
4	公園や緑地など緑の豊かさ（環境④）	0.72
5	モータースポーツの振興による地域活性化（産業・観光⑧）	0.71

「水道水の安定供給」の満足度評価 (1.17) が他の項目と比べ最も高い結果となりました。

次いで、「日用品・食料品などの買い物の便利さ」(0.87) となりました。前回アンケート結果においても、住みやすさを問う設問では「日常の買い物や飲食に便利」という項目が最も高い評価であったことから、この分野に対する市民満足度は引き続き高い傾向にあります。

【満足度評価が低い上位 5 項目】

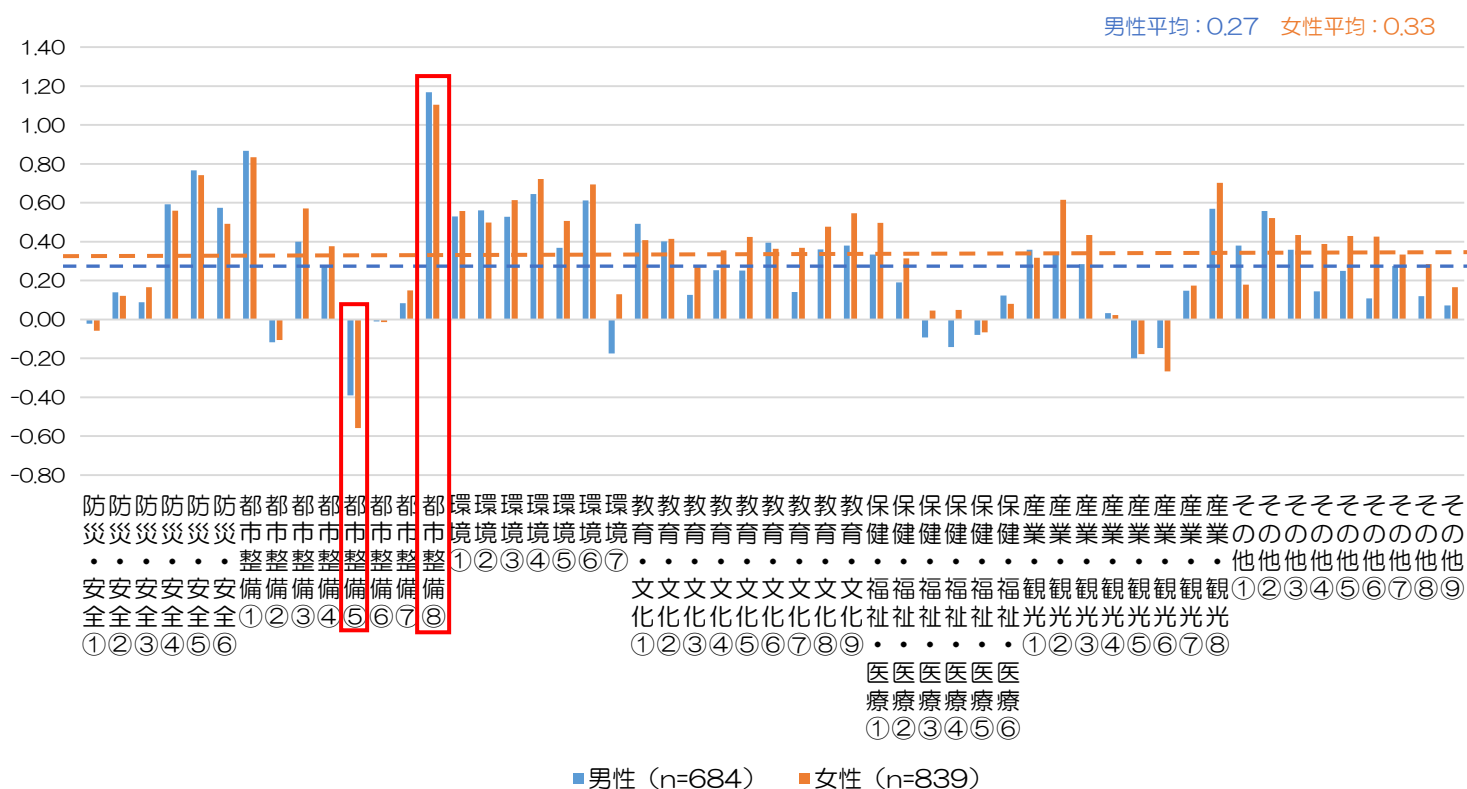
	項 目 内 容	満足度評価
1	高齢者等すべての人が移動しやすい環境の整備 （道路や公共施設のバリアフリー化等）（都市整備⑤）	-0.52
2	労働環境の充実（産業・観光⑥）	-0.24
3	中小企業の活性化（産業・観光⑤）	-0.22
4	鉄道・バスなどの公共交通機関の便利さ（都市整備②）	-0.11
5	障がい者の自立支援や社会参加（保健・福祉・医療⑤）	-0.07

「高齢者等すべての人が移動しやすい環境の整備（道路や公共施設のバリアフリー化等）」の満足度評価（-0.52）が最も低い結果となりました。また、「鉄道・バスなどの公共交通機関の便利さ」（-0.11）や、「障がい者の自立支援や社会参加」（-0.07）についても低い結果となりました。

前回アンケート結果においても、住みやすさを問う設問において、「お年寄り、障がいのある人、妊娠している人、子どもなどへの配慮がある」という項目が非常に低い評価でありました。

今回の分野別満足度評価においても、保健・福祉・医療分野が最も低い結果であったことから、当該分野のハード・ソフト両面に対する市民満足度は引き続き低い傾向にあります。

【満足度評価（性別）】



都市整備⑧「水道水の安定供給」が、男女ともに最も高い結果となりました。

一方、都市整備⑤「高齢者等すべての人が移動しやすい環境の整備（道路や公共施設のバリアフリー化等）」が、男女ともに最も低い結果となりました。

【満足度評価が高い上位3項目（性別）】

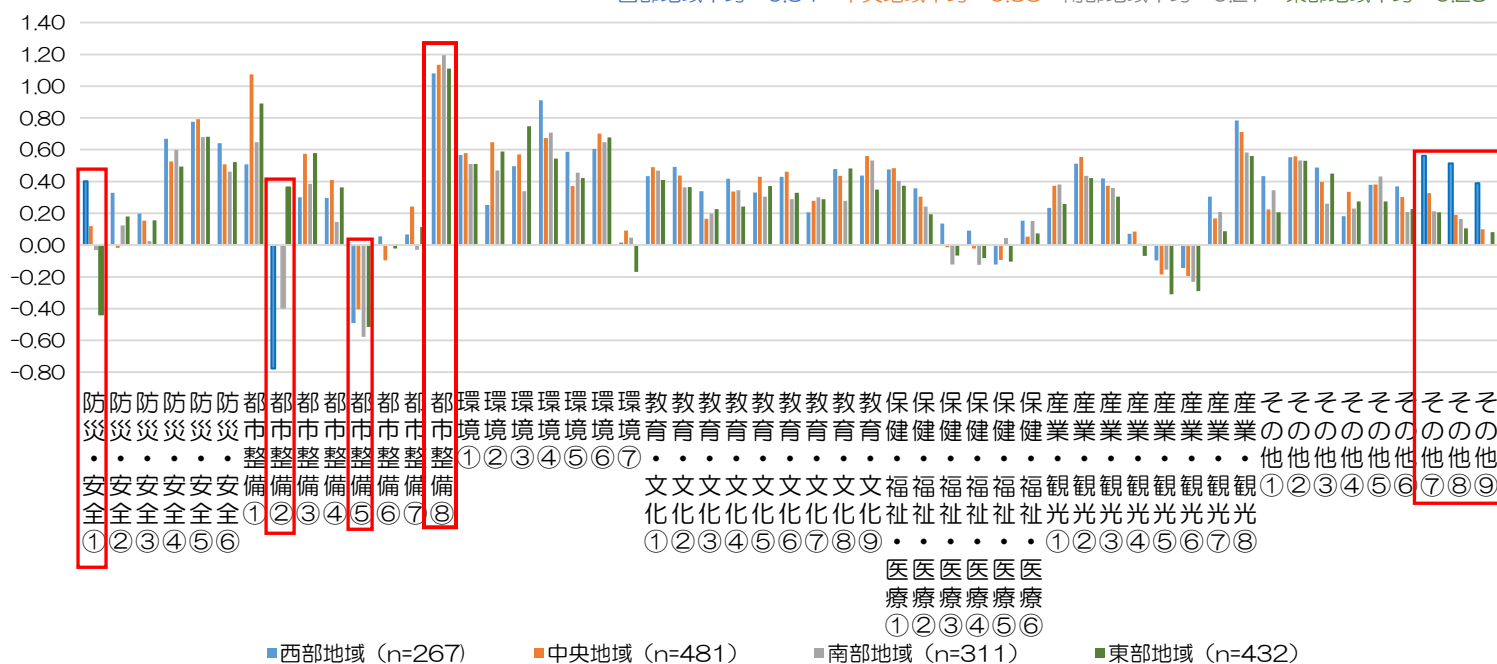
性別	トップ1	トップ2	トップ3
男性	都市整備⑧	都市整備①	防災・安全⑤
女性	都市整備⑧	都市整備①	防災・安全⑤

【満足度評価が低い上位3項目（性別）】

性別	ワースト1	ワースト2	ワースト3
男性	都市整備⑤	産業・観光⑤	環境⑦
女性	都市整備⑤	産業・観光⑥	産業・観光⑤

【満足度評価（地域別）】

西部地域平均：0.34 中央地域平均：0.33 南部地域平均：0.27 東部地域平均：0.28



都市整備⑧「水道水の安定供給」の満足度評価が、いずれの地域においても最も高い結果となりました。

一方、都市整備⑤「高齢者等すべての人が移動しやすい環境の整備（道路や公共施設のバリアフリー化等）」の満足度評価が、中央地域・南部地域・東部地域において最も低い結果となりました。

なお、西部地域においては、都市整備②「鉄道・バスなどの公共交通機関の便利さ」の満足度評価が最も低い結果となりました。同項目においては、南部地域においても同地域で2番目に低い満足度評価になった一方、東部地域では同地域の平均値を上回る結果となり、地域による偏りが大きくなりました。

防災・安全①「地震・水害など自然災害からの安全性確保（防災・減災対策）」の満足度評価では、西部地域では同地域の平均値を上回る結果となった一方、海岸沿いにあたる東部地域では同地域において2番目に低い結果となりました。また、その他⑦「NPO、ボランティアなど市民活動の支援」、その他⑧「近隣市町との連携強化（広域行政の推進）」、その他⑨「市外における知名度の向上（シティセールスやPRの強化）」の3項目では、西部地域を除く3地域では各平均値を下回る結果となった一方、西部地域では同地域の平均値を上回る結果となりました。

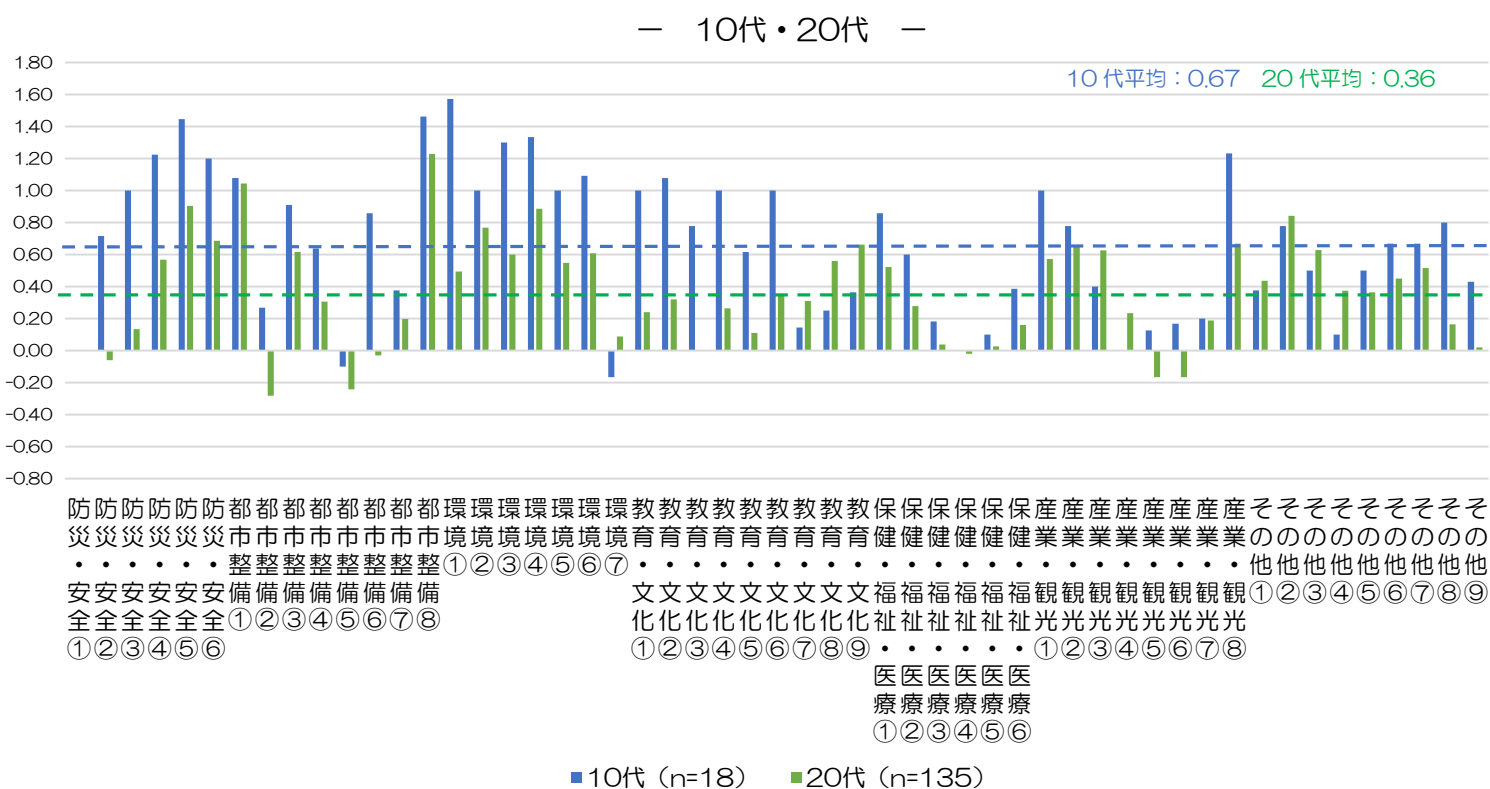
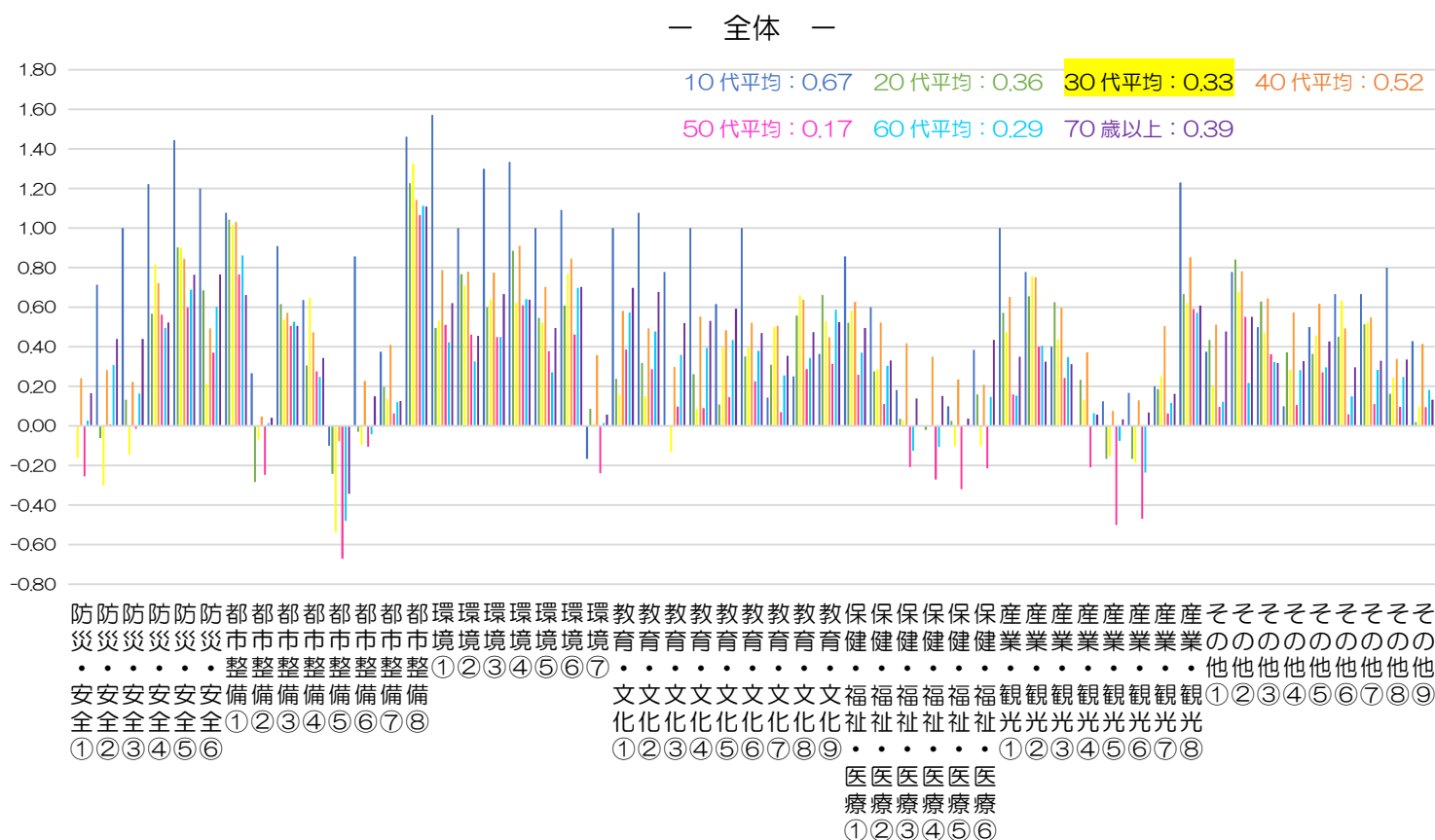
【満足度評価が高い上位3項目（地域別）】

地域	トップ1	トップ2	トップ3
西部地域	都市整備⑧	環境④	産業・観光⑧
中央地域	都市整備⑧	都市整備①	防災・安全⑤
南部地域	都市整備⑧	環境④	防災・安全⑤
東部地域	都市整備⑧	都市整備①	環境③

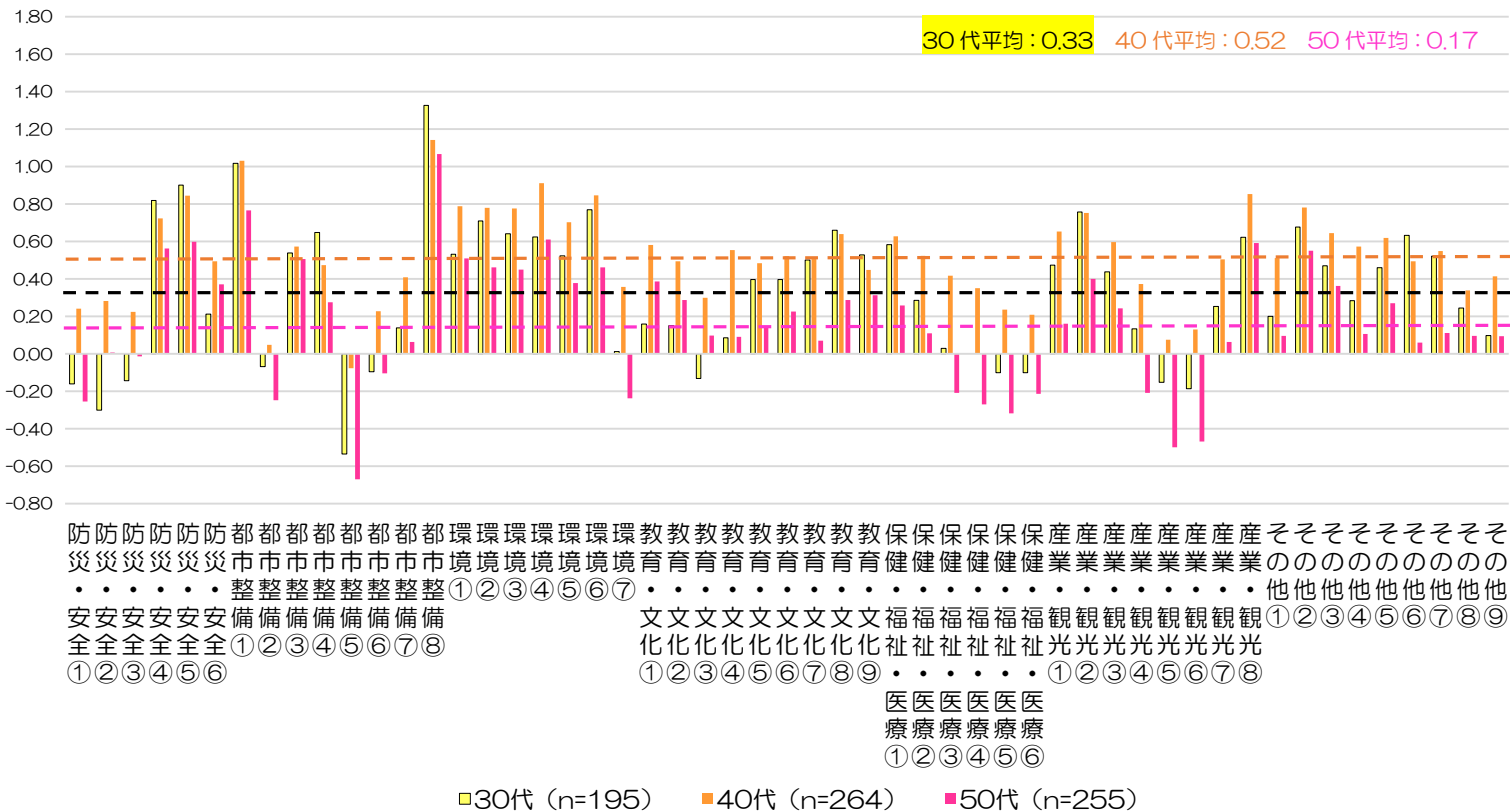
【満足度評価が低い上位3項目（地域別）】

地域	ワースト1	ワースト2	ワースト3
西部地域	都市整備②	都市整備⑤	産業・観光⑥
中央地域	都市整備⑤	産業・観光⑥	産業・観光⑤
南部地域	都市整備⑤	都市整備②	産業・観光⑥
東部地域	都市整備⑤	防災・安全①	産業・観光⑤

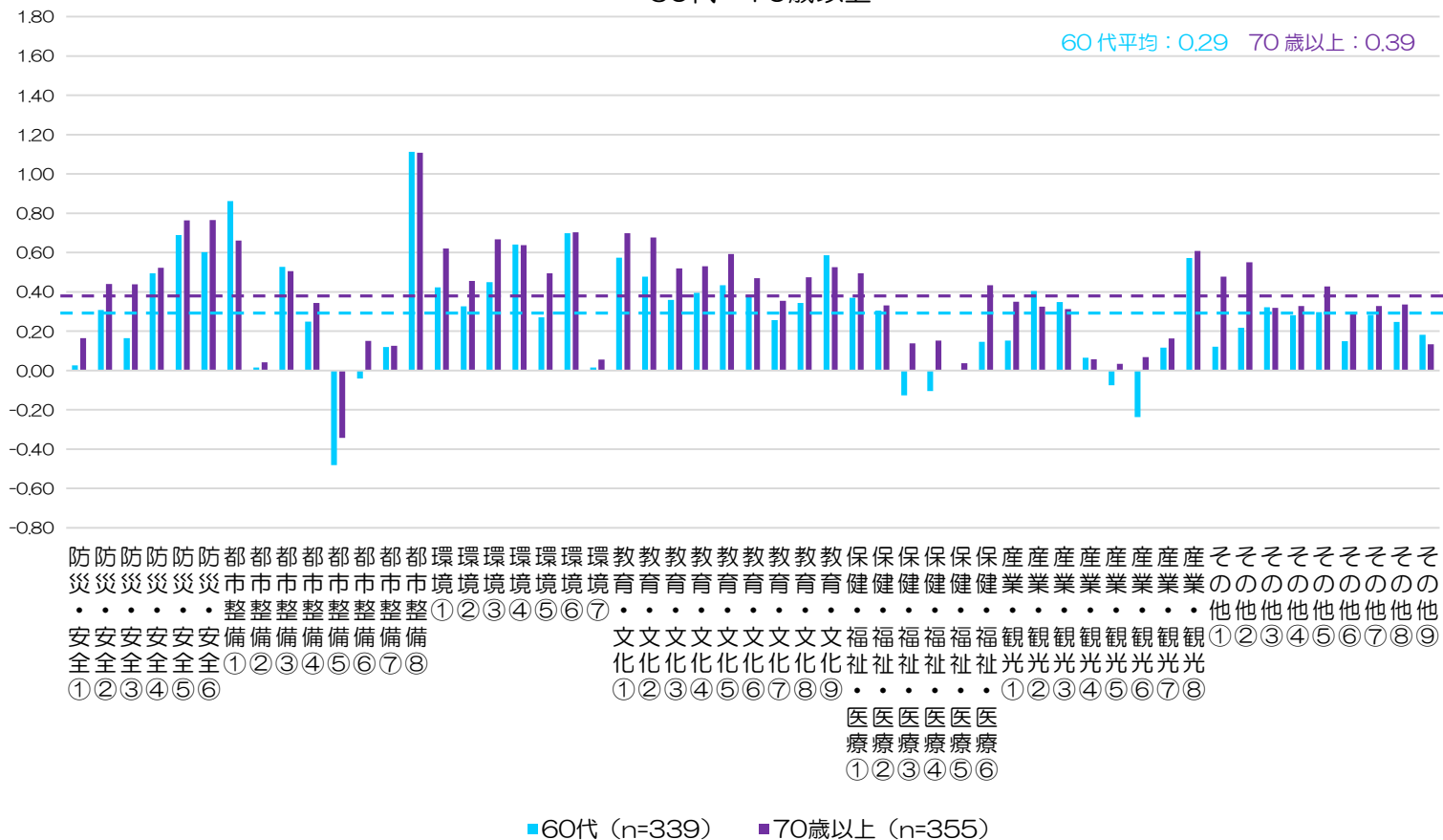
【満足度評価（年代別）】



— 30代・40代・50代 —



— 60代・70歳以上 —



【満足度評価が高い上位3項目（年代別）】

年代	トップ1	トップ2	トップ3
10代	環境①	都市整備⑧	防災・安全⑤
20代	都市整備⑧	都市整備①	防災・安全⑤
30代	都市整備⑧	都市整備①	防災・安全⑤
40代	都市整備⑧	都市整備①	環境④
50代	都市整備⑧	都市整備①	環境④
60代	都市整備⑧	都市整備①	環境⑥
70歳以上	都市整備⑧	防災・安全⑥	防災・安全⑤

都市整備⑧「水道水の安定供給」や都市整備①「日用品・食料品などの買い物の便利さ」、防災・安全⑤「火災予防、消防体制の充実」など日常生活に直結する項目では、いずれの年代においても満足度評価が高い結果となりました。

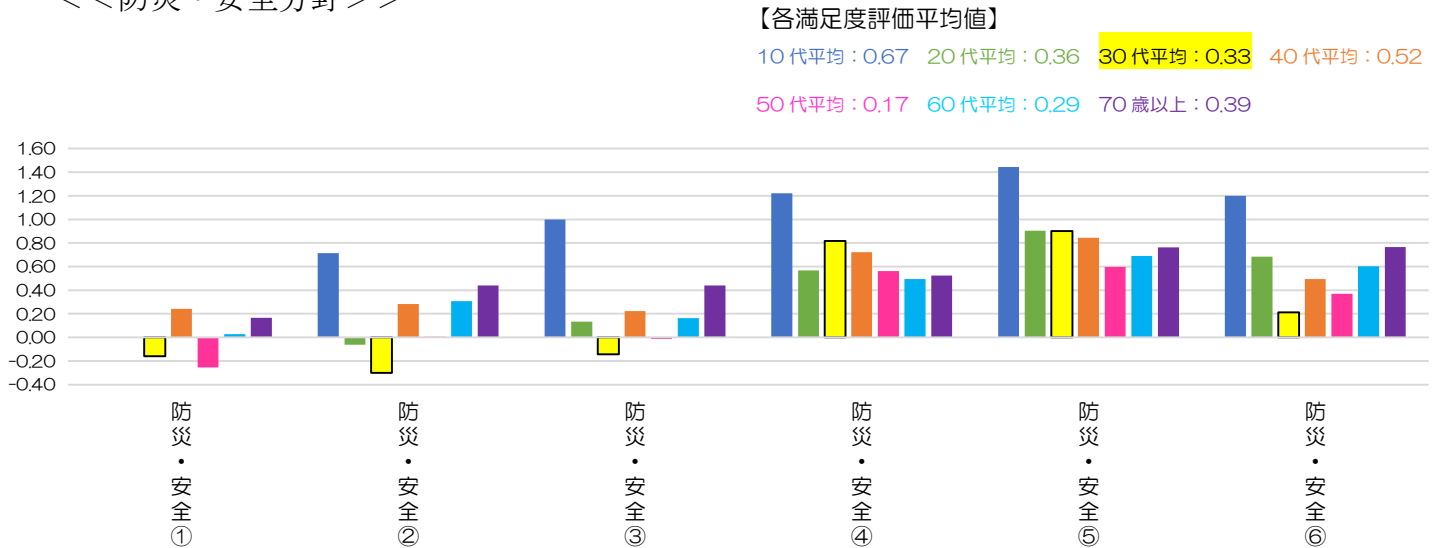
【満足度評価が低い上位3項目（年代別）】

年代	ワースト1	ワースト2	ワースト3
10代	環境⑦	都市整備⑤	防災・安全①
			保健・福祉・医療④
			産業・観光④
20代	都市整備②	都市整備⑤	産業・観光⑤
			産業・観光⑥
30代	都市整備⑤	防災・安全②	産業・観光⑥
40代	都市整備⑤	都市整備②	産業・観光⑤
50代	都市整備⑤	産業・観光⑤	産業・観光⑥
60代	都市整備⑤	産業・観光⑥	保健・福祉・医療③
70歳以上	都市整備⑤	産業・観光⑤	保健・福祉・医療⑤

都市整備⑤「高齢者等すべての人が移動しやすい環境の整備（道路や公共施設のバリアフリー化等）」の満足度評価が、いずれの年代においても低い結果となりました。

その他には、10代では環境⑦「省エネルギーや太陽光発電等再生可能エネルギーの促進」、20代では都市整備②「鉄道・バスなどの公共交通機関の便利さ」の満足度評価が、最も低い結果となりました。

<<防災・安全分野>>

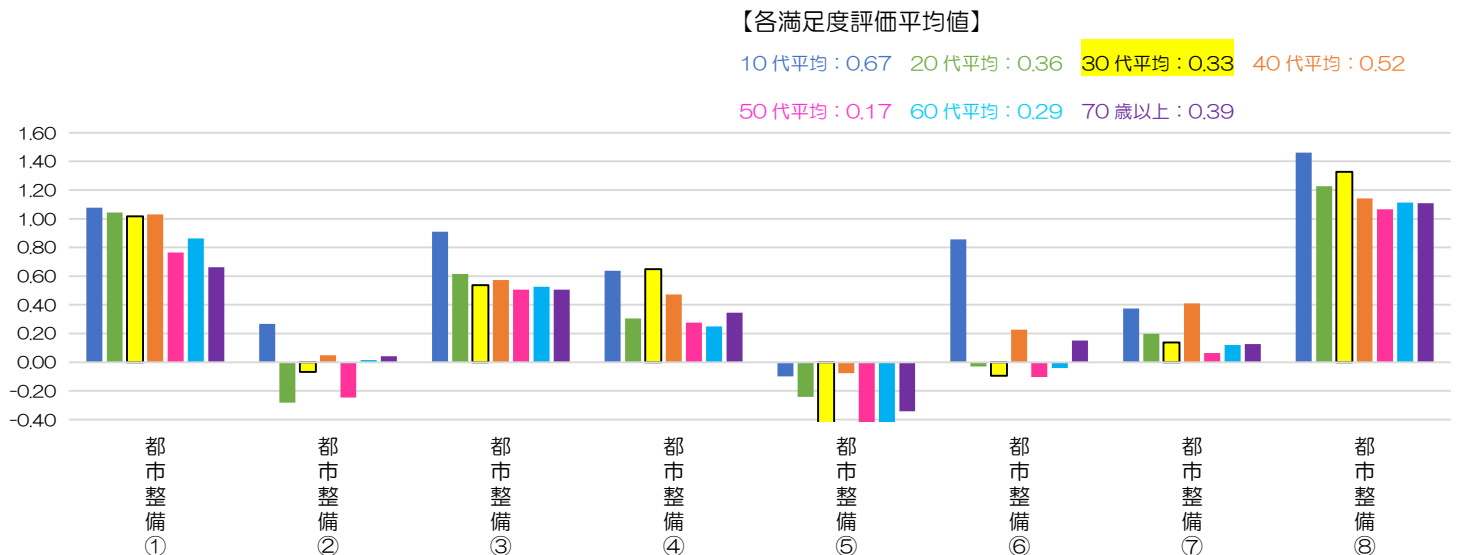


①「地震・水害など自然災害からの安全性確保（防災・減災対策）」では、いずれの年代においても各満足度評価平均値を下回る結果となりました。

また、②「暴力や犯罪などからの安全性確保（防犯対策）」、③「交通安全確保（交通事故防止等）」では、多くの年代において各満足度評価平均値を下回る結果となりました。

一方、④「公害、防疫（感染症対策）等危機管理体制の充実」、⑤「火災予防、消防体制の充実」、⑥「救急体制の充実」では、多くの年代において各満足度評価平均値を上回るなど、同分野内で不均衡な評価結果となりました。

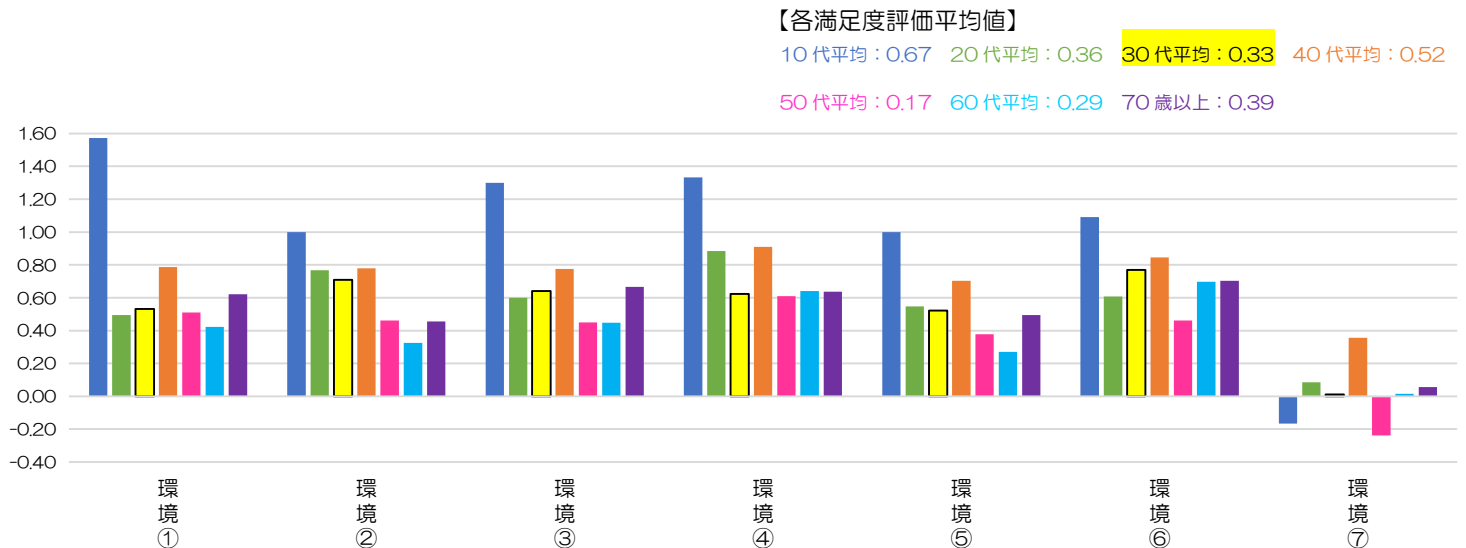
<<都市整備分野>>



②「鉄道・バスなどの公共交通機関の便利さ」、⑤「高齢者等すべての人が移動しやすい環境の整備（道路や公共施設のバリアフリー化等）」、⑦「公園・広場などの整備・便利さ」では、いずれの年代においても各満足度評価平均値を下回る結果となりました。

一方、①「日用品・食料品などの買い物の便利さ」、③「身近な生活道路の便利さ」、⑧「水道水の安定供給」では、いずれの年代においても各満足度評価平均値を上回るなど、同分野内で不均衡な評価結果となりました。

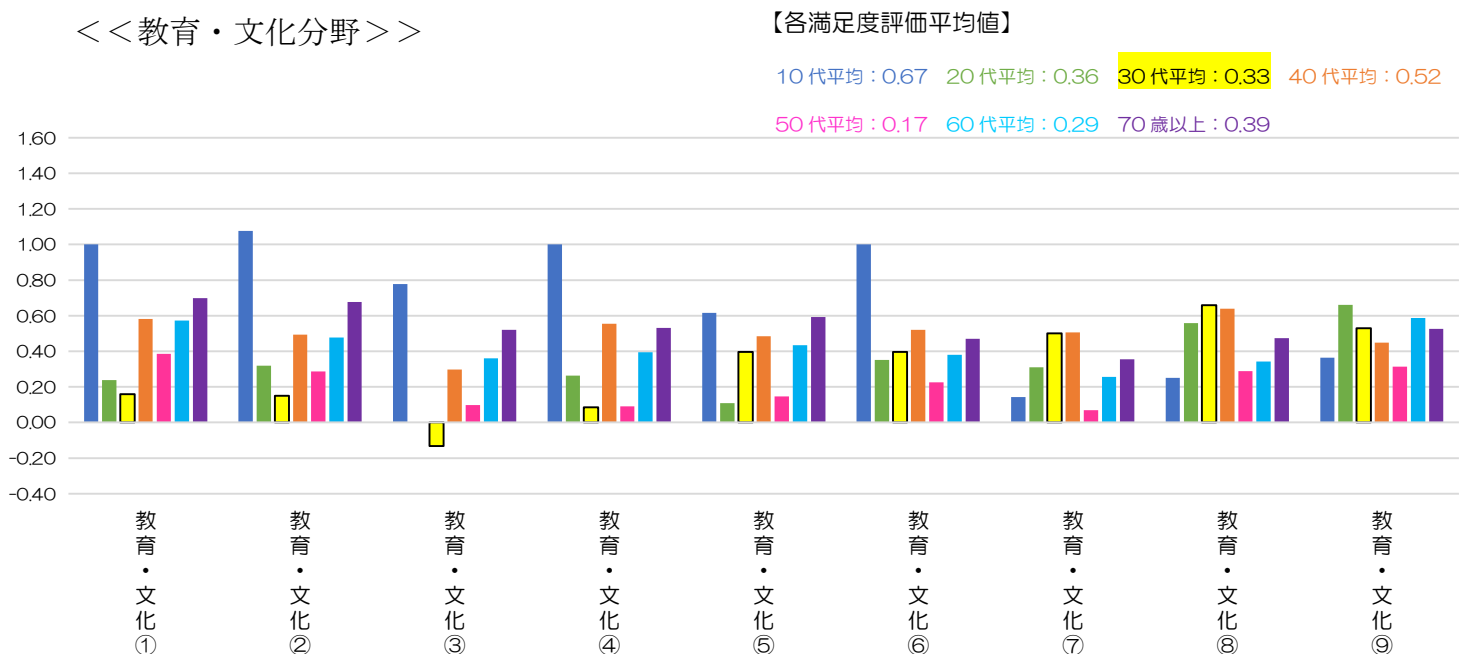
<<環境分野>>



①「海・川など水辺の豊かさなど自然環境の保全」、②「市街地周辺農地の保全」、③「生活排水の処理（下水道整備等）による水質の保全」、④「公園や緑地など緑の豊かさ」、⑥「ごみの減量化や再資源化（リサイクル）」の5項目では、いずれの年代においても各満足度評価平均値を上回り、⑤「まち並みや景観の保全」では、60代を除く年代において各満足度評価平均値を上回るなど、環境分野7項目中6項目では高い評価結果となりました。

一方、⑦「省エネルギーや太陽光発電等再生可能エネルギーの促進」では、いずれの年代においても各満足度評価平均値を下回る結果となりました。

<<教育・文化分野>>



①「幼稚園など幼児教育の充実」、②「小中学校教育の充実」、③「高校・大学・専門学校教育の充実」、④「幼稚園、学校等における安全対策」の4項目では、20代・30代の年代において各満足度評価平均値を下回るなど、子育てに携わる年代を中心に低い評価結果となりました。

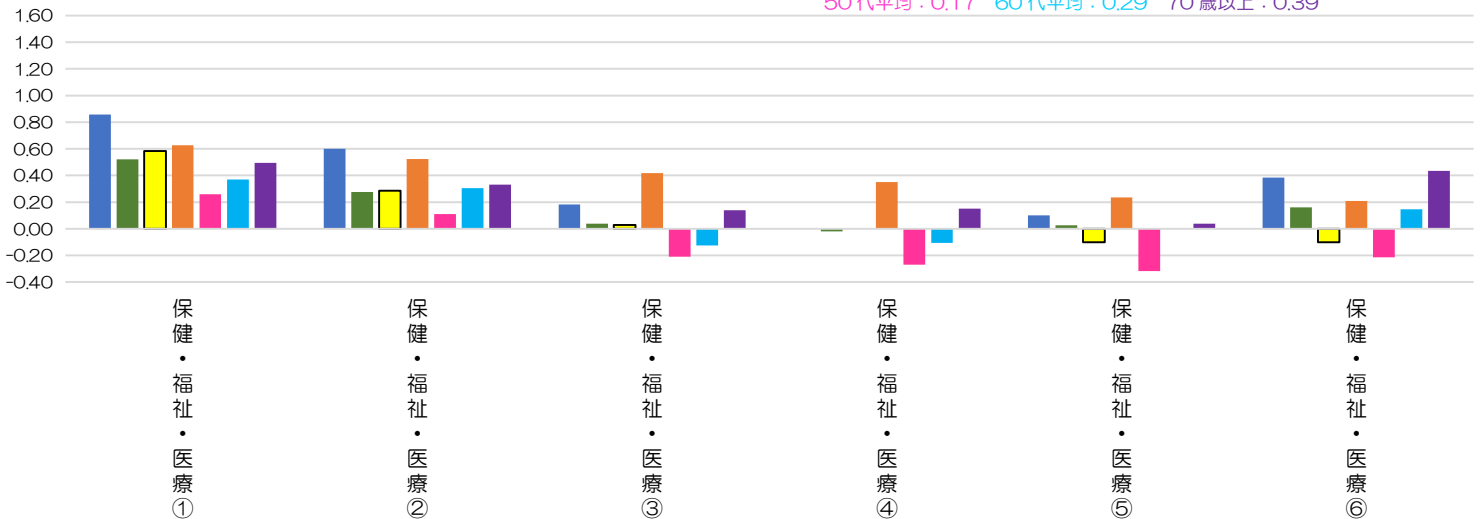
一方、⑥「人権教育の充実」、⑧「文化財の保全・活用、伝統芸能の継承」、⑨「スポーツの振興（スポーツ施設、スポーツ活動等）」の3項目では、多くの年代において各満足度評価平均値を上回るなど、同分野内で不均衡な評価結果となりました。

<<保健・福祉・医療分野>>

【各満足度評価平均値】

10代平均：0.67 20代平均：0.36 30代平均：0.33 40代平均：0.52

50代平均：0.17 60代平均：0.29 70歳以上：0.39



①「健康づくり事業の充実」では、いずれの年代においても各満足度評価平均値を上回る結果となりました。

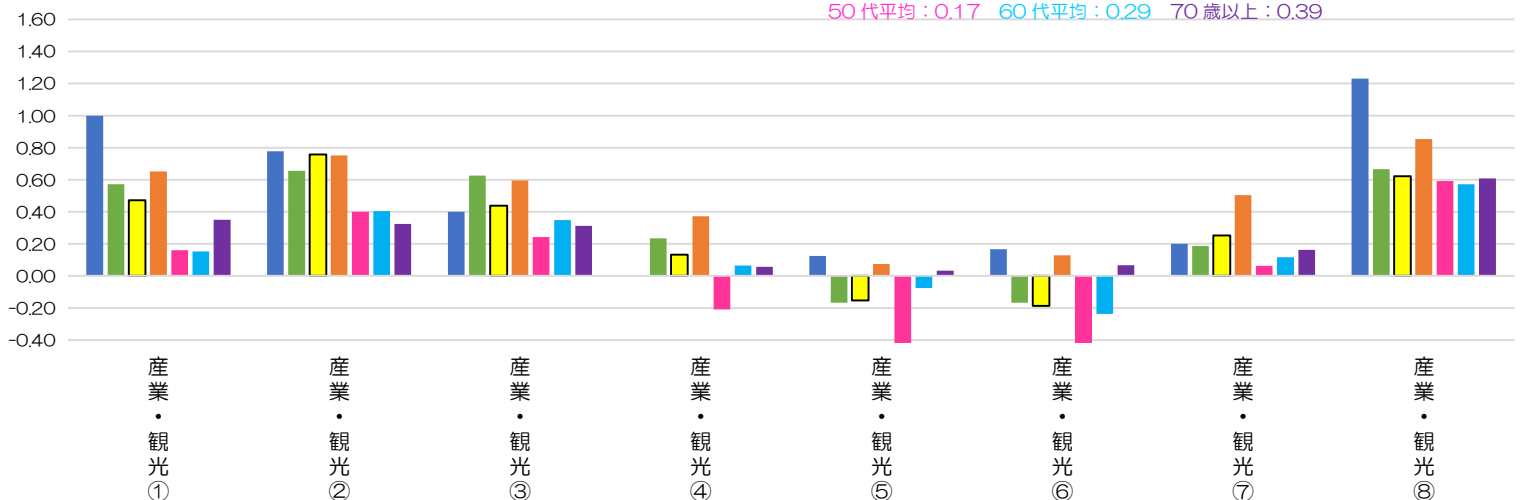
一方、②「保育や子育て相談など子育て支援の充実」③「高齢者福祉の充実」、④「介護サービスの充実」、⑤「障がい者の自立支援や社会参加」、⑥「医療体制の充実」の5項目では、多くの年代において各満足度評価平均値を下回る結果となりました。

<<産業・観光分野>>

【各満足度評価平均値】

10代平均：0.67 20代平均：0.36 30代平均：0.33 40代平均：0.52

50代平均：0.17 60代平均：0.29 70歳以上：0.39



①「農林水産業の振興」では、40代以下の年代においては各満足度評価平均値を上回る一方、50代以上の年代においては各満足度評価平均値を下回る結果となるなど、年代間で評価が分かれる結果となりました。

また、⑧「モータースポーツの振興による地域活性化」では、いずれの年代においても、②「地産地消の推進」、③「商業やサービス産業の活性化」では、多くの年代において各満足度評価平均値を上回る結果となりました。

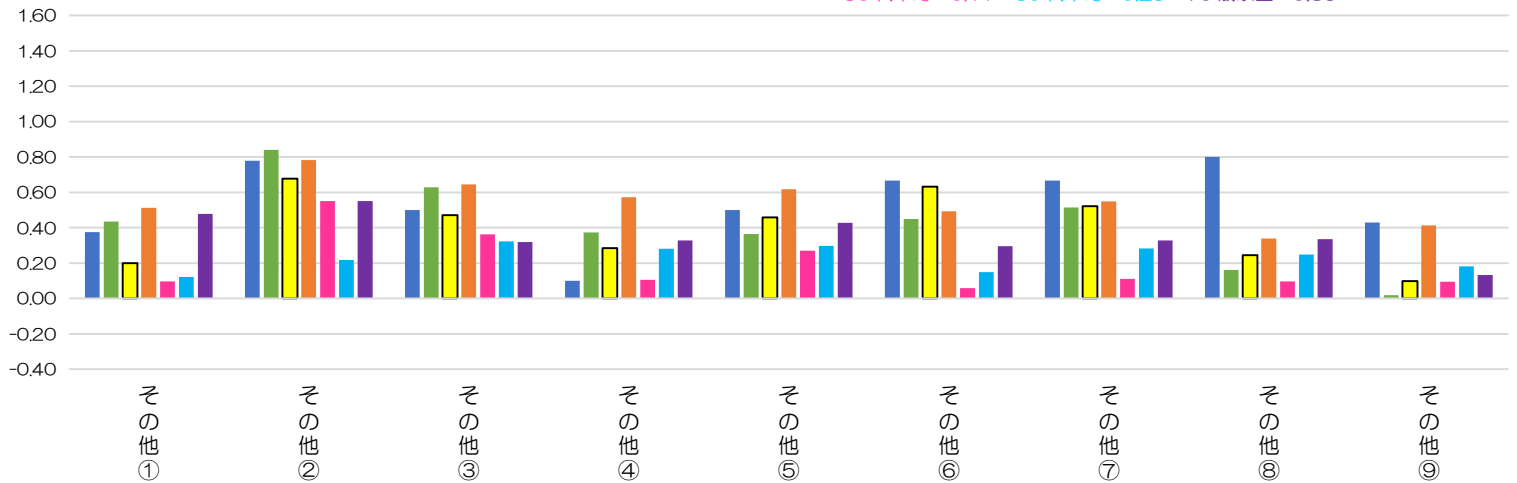
一方、④「企業誘致の推進」、⑤「中小企業の活性化」、⑥「労働環境の充実」、⑦「観光振興による地域活性化」では、いずれの年代においても各満足度評価平均値を下回る結果となりました。

<<その他分野>>

【各満足度評価平均値】

10代平均：0.67 20代平均：0.36 30代平均：0.33 40代平均：0.52

50代平均：0.17 60代平均：0.29 70歳以上：0.39



②「人権の尊重」、③「国際交流の推進，多文化共生社会の推進」、⑤「市政や地域に関する情報発信の充実」では，多くの年代において各満足度評価平均値を上回る結果となりました。

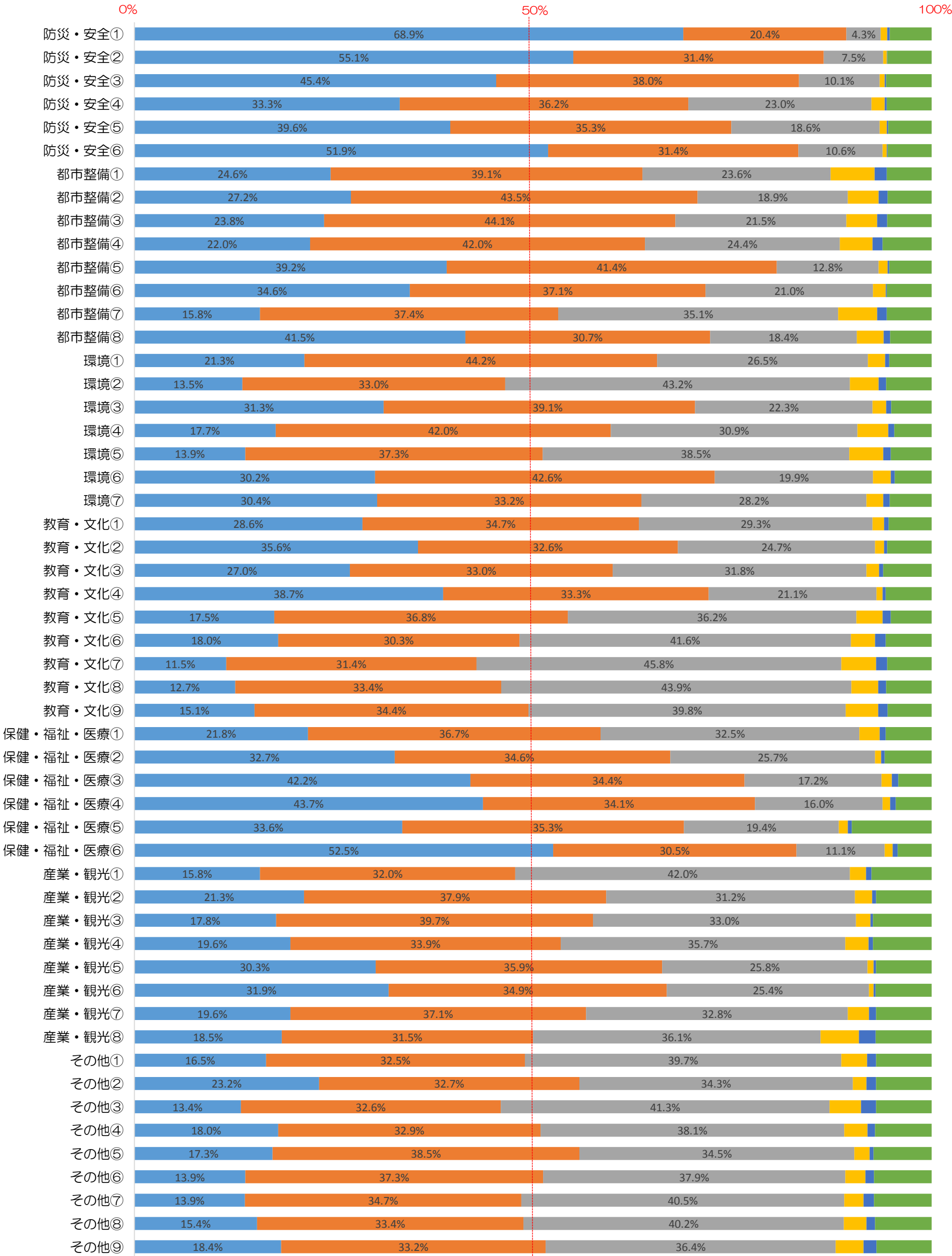
一方，⑨「市外における知名度の向上（シティセールスやPRの強化）」では，いずれの年代においても，①「男女共同参画社会の実現」，④「高度情報化時代への対応（情報通信ネットワークの充実）」，⑧「近隣市町との連携強化（広域行政の推進）」では，多くの年代において各満足度評価平均値を下回る結果となりました。

また，⑥「住民参加によるまちづくりの推進」では，30代以下の年代においては各満足度評価平均値を上回る一方，40代以上の年代においては各満足度評価平均値を下回る結果となり，⑦「NPO，ボランティアなど市民活動の支援」では，40代以下の年代においては各満足度評価平均値を上回る一方，50代以上の年代においては各満足度評価平均値を下回る結果となるなど，年代間で評価が分かれる結果となりました。

(3-1)重要度割合の状況について

— まちづくりにおける重要度（N=1580） —

■非常に重要 ■やや重要 ■どちらでもない ■さほど重要でない ■重要でない ■無回答



(3-2) 重要度評価の状況について

各項目における重要度に関する回答状況について、下記計算式に基づき重要度評価を行いました。

【重要度評価に関する計算式】

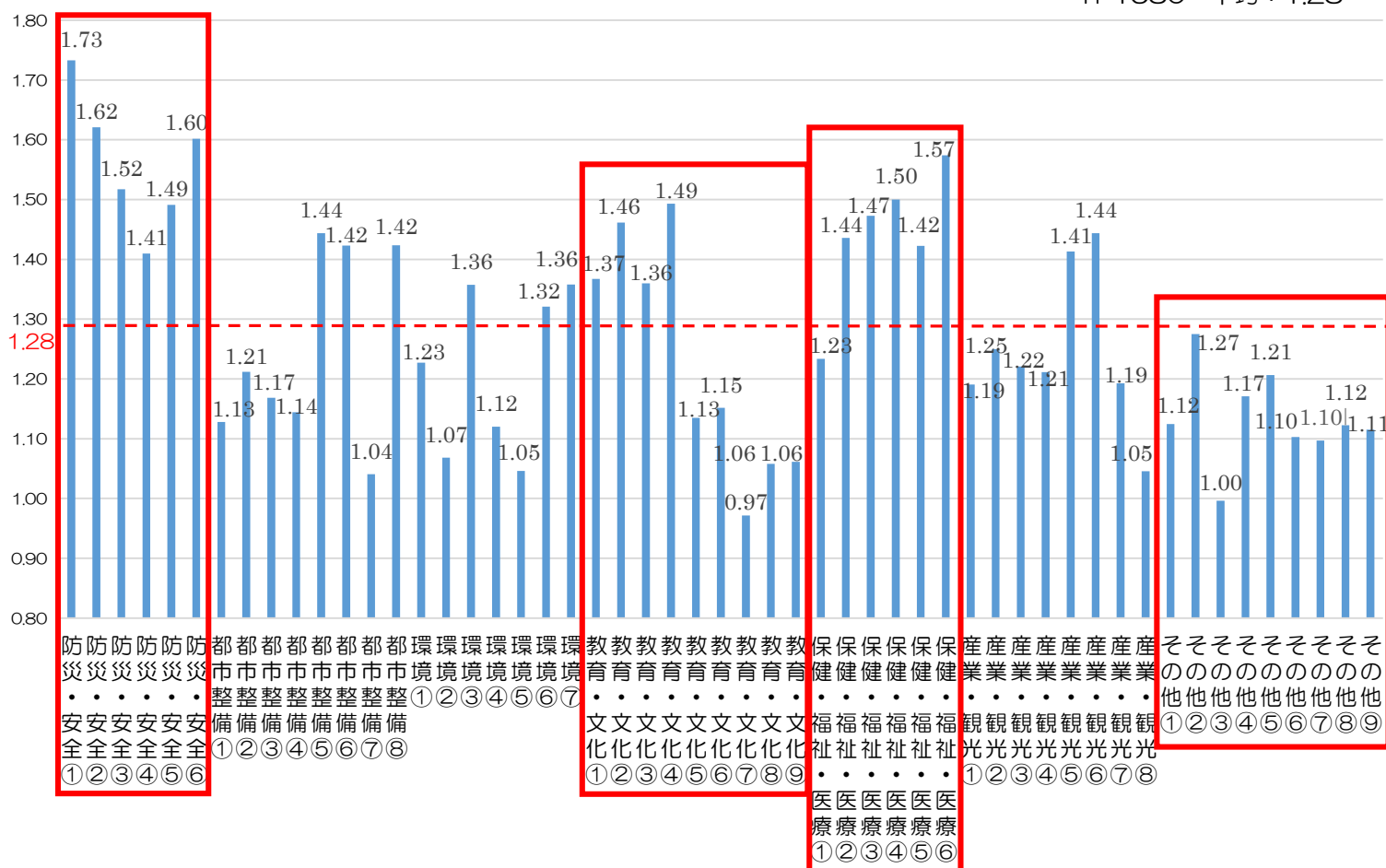
$$\text{重要度} = \frac{\text{「非常に重要」} \times 2 + \text{「やや重要」} \times 1 + \text{「さほど重要でない」} \times (-1) + \text{「重要でない」} \times (-2)}{\text{全回答数}(n) - \text{未記入数} - \text{「どちらでもない」}}$$

項目	重要度評価	順位	項目	重要度評価	順位
防災・安全①	1.73	1	保健・福祉・医療①	1.23	26
防災・安全②	1.62	2	保健・福祉・医療②	1.44	13
防災・安全③	1.52	5	保健・福祉・医療③	1.47	9
防災・安全④	1.41	18	保健・福祉・医療④	1.50	6
防災・安全⑤	1.49	8	保健・福祉・医療⑤	1.42	16
防災・安全⑥	1.60	3	保健・福祉・医療⑥	1.57	4
都市整備①	1.13	39	産業・観光①	1.19	33
都市整備②	1.21	29	産業・観光②	1.25	25
都市整備③	1.17	35	産業・観光③	1.22	28
都市整備④	1.14	37	産業・観光④	1.21	30
都市整備⑤	1.44	12	産業・観光⑤	1.41	17
都市整備⑥	1.42	15	産業・観光⑥	1.44	11
都市整備⑦	1.04	51	産業・観光⑦	1.19	32
都市整備⑧	1.42	14	産業・観光⑧	1.05	50
環境①	1.23	27	その他①	1.12	40
環境②	1.07	46	その他②	1.27	24
環境③	1.36	22	その他③	1.00	52
環境④	1.12	42	その他④	1.17	34
環境⑤	1.05	49	その他⑤	1.21	31
環境⑥	1.32	23	その他⑥	1.10	44
環境⑦	1.36	21	その他⑦	1.10	45
教育・文化①	1.37	19	その他⑧	1.12	41
教育・文化②	1.46	10	その他⑨	1.11	43
教育・文化③	1.36	20	重要度評価平均値：1.28		
教育・文化④	1.49	7			
教育・文化⑤	1.13	38			
教育・文化⑥	1.15	36			
教育・文化⑦	0.97	53			
教育・文化⑧	1.06	48			
教育・文化⑨	1.06	47			

53の重要度評価平均値1.28は、23位「環境⑥」と24位「その他②」の満足度評価の中間にあたり、平均値を下回ったものは30項目になりました。

— まちづくりにおける重要度評価（全体） —

■n=1580 平均：1.28



【分野別重要度評価平均値】

分 野	重要度評価平均値
防災・安全（6項目）	1.56
都市整備（8項目）	1.25
環境（7項目）	1.21
教育・文化（9項目）	1.23
保健・福祉・医療（6項目）	1.44
産業・観光（8項目）	1.25
その他（9項目）	1.13

防災・安全分野では全項目、保健・福祉・医療分野では6項目中5項目が平均値を上回る重要度を示すなど高い結果となりました。

一方、その他分野では、全項目が平均値を下回るなど分野別平均値で1.13と最も低い結果となりました。

また、教育・文化分野では、教育関連項目の①から④までの4項目においては全て平均値を上回るなど高い傾向がみられる反面、文化関連項目の⑤から⑨までの5項目においては全て平均値を下回り同分野内で不均衡な評価結果となりました。

【重要度評価が高い上位 5 項目】

順位	項 目 内 容	重要度評価
1	地震・水害など自然災害からの安全性確保（防災・減災対策） （防災・安全①）	1.73
2	暴力や犯罪などからの安全性確保（防犯対策） （防災・安全②）	1.62
3	救急体制の充実（防災・安全⑥）	1.60
4	医療体制の充実（保健・福祉・医療⑥）	1.57
5	交通安全確保（交通事故防止等） （防災・安全③）	1.52

上位 5 項目中 3 項目が防災・安全分野の項目が占める結果となりました。

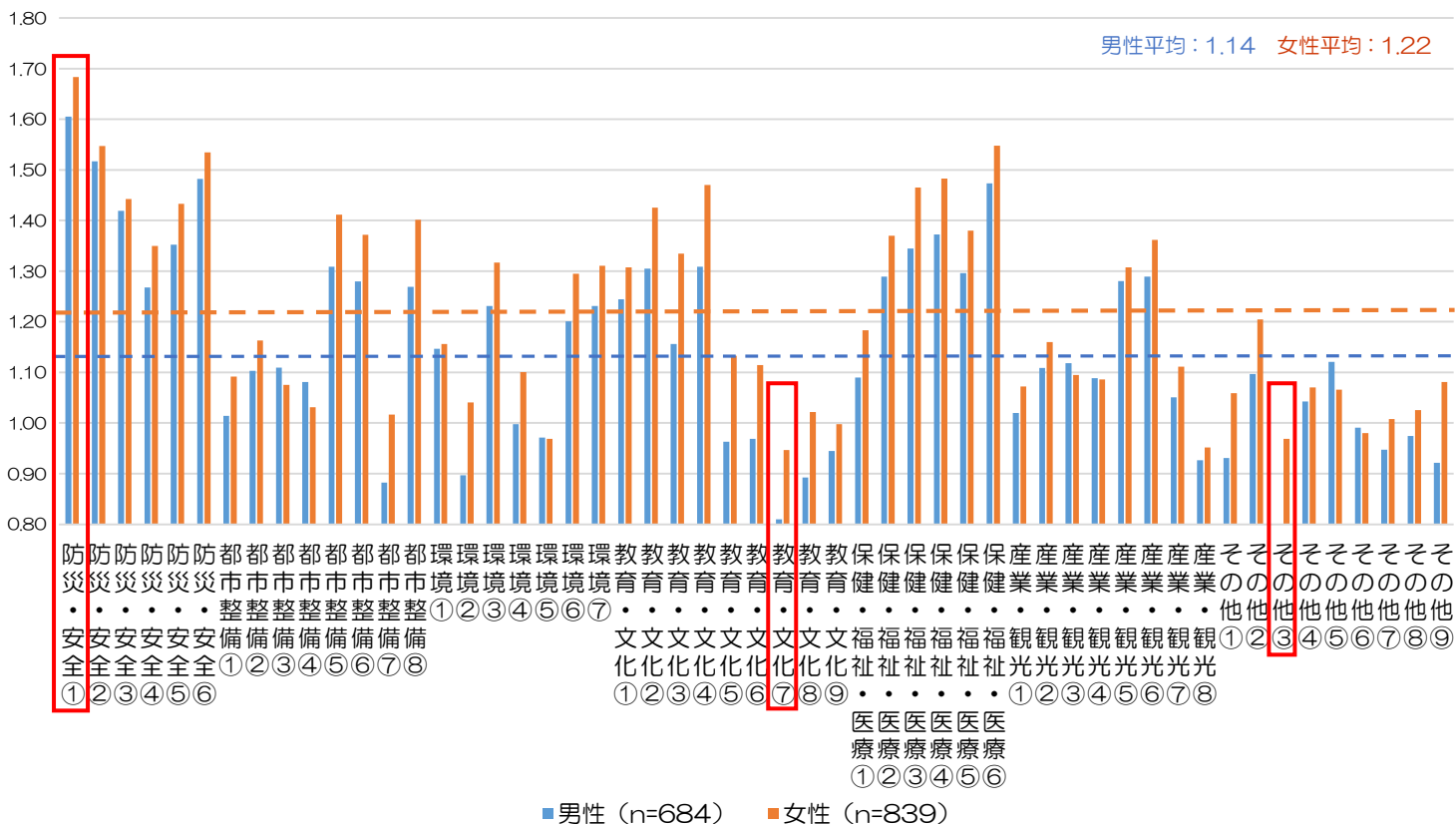
また、前回アンケート結果においても、同様に重要度を問う設問では、暴力や犯罪などからの安全性、救急医療施設の充実、交通安全対策が上位に挙げられていたことから、この分野に対する市民の重要度は引き続き高い傾向にあります。

【重要度評価が低い上位 5 項目】

順位	項 目 内 容	重要度評価
1	芸術・文化の振興（文化施設、芸術・文化活動等） （教育・文化⑦）	0.97
2	国際交流の推進、多文化共生社会の推進（その他③）	1.00
3	公園・広場などの整備・便利さ（都市整備⑦）	1.04
4	モータースポーツの振興による地域活性化（産業・観光⑧）	1.05
4	まち並みや景観の保全（環境⑤）	1.05

各分野における重要度評価が低い項目が並び、特定の分野に偏らない結果となりました。

【重要度評価（性別）】



防災・安全①「地震・水害など自然災害からの安全性確保（防災・減災対策）」の重要度評価が、男女ともに最も高いとなりました。

なお、重要度評価が最も低い項目については、女性においては、教育・文化⑦「芸術・文化の振興（文化施設、芸術・文化活動等）」、一方、男性においては、その他③「国際交流の推進、多文化共生社会の推進」となりました。

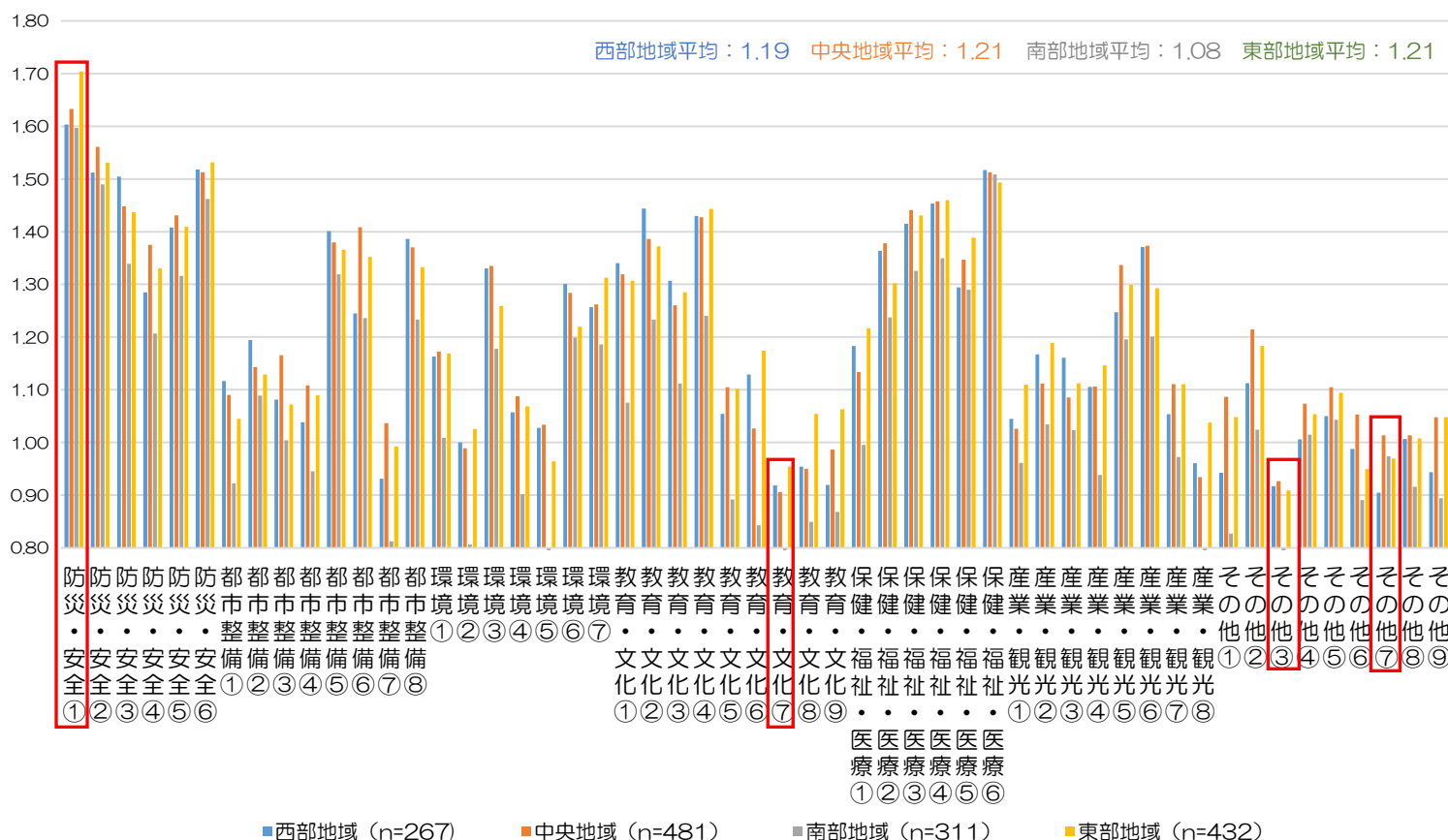
【重要度評価が高い上位3項目（性別）】

性別	トップ1	トップ2	トップ3
男性	防災・安全①	防災・安全②	防災・安全⑥
女性	防災・安全①	保健・福祉・医療⑥	防災・安全②

【重要度評価が低い上位3項目（性別）】

性別	ワースト1	ワースト2	ワースト3
男性	その他③	教育・文化⑦	都市整備⑦
女性	教育・文化⑦	産業・観光⑧	その他③

【重要度評価（地域別）】



防災・安全①「地震・水害など自然災害からの安全性確保（防災・減災対策）」の重要度評価が、いずれの地域においても最も高い結果となりました。

一方、中央地域・南部地域においては、教育・文化⑦「芸術・文化の振興（文化施設、芸術・文化活動等）」の重要度評価が最も低い結果となりました。同項目については、西部地域・東部地域においても各平均値を下回る低い結果となりました。

なお、西部地域においては、その他⑦「NPO、ボランティアなど市民活動の支援」の重要度評価が最も低い結果となりました。また、東部地域においては、その他③「国際交流の推進、多文化共生社会の推進」の重要度評価が最も低い結果となりました。この2項目については、他の3地域においても各平均を下回る低い結果となりました。

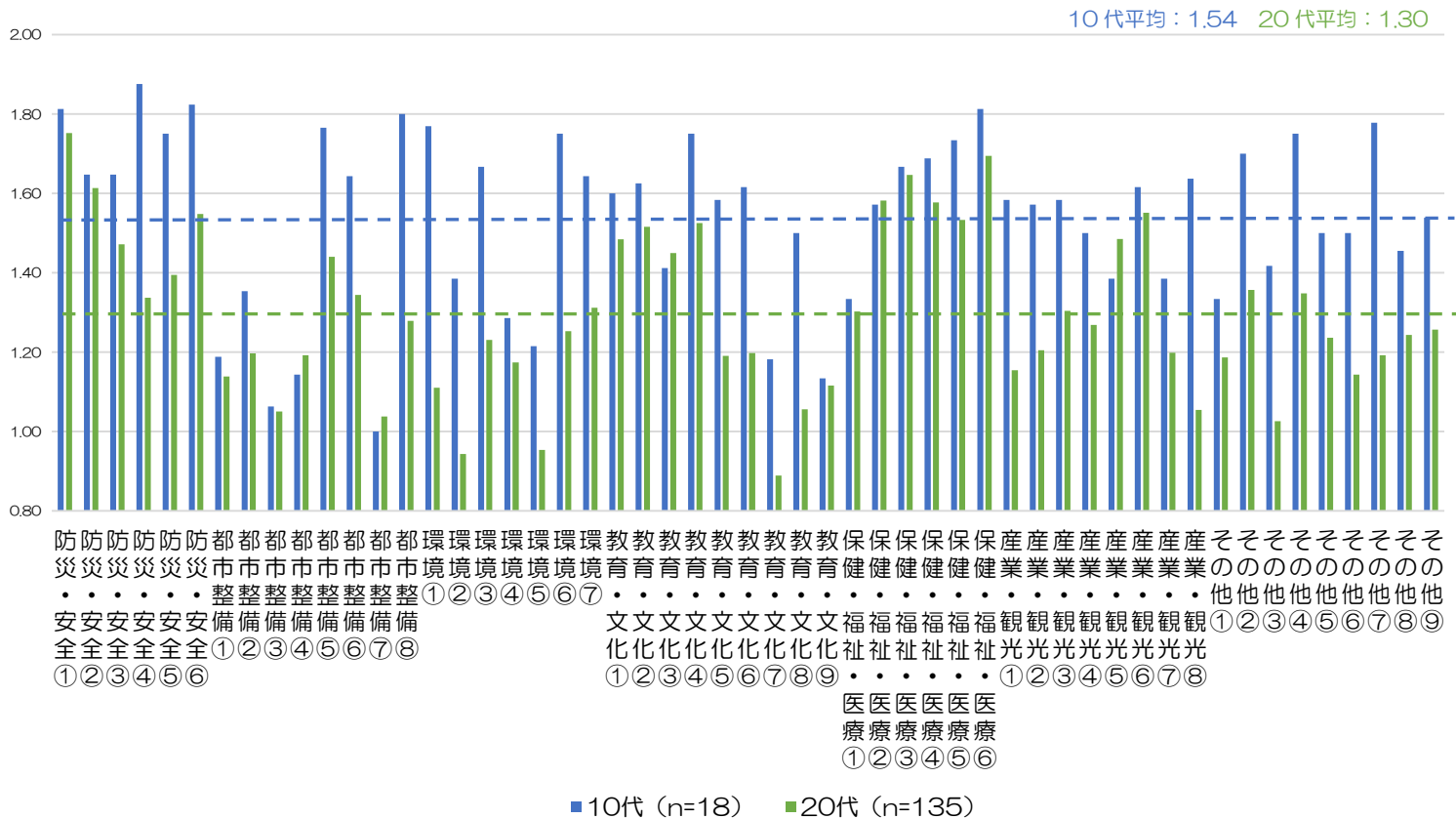
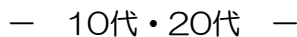
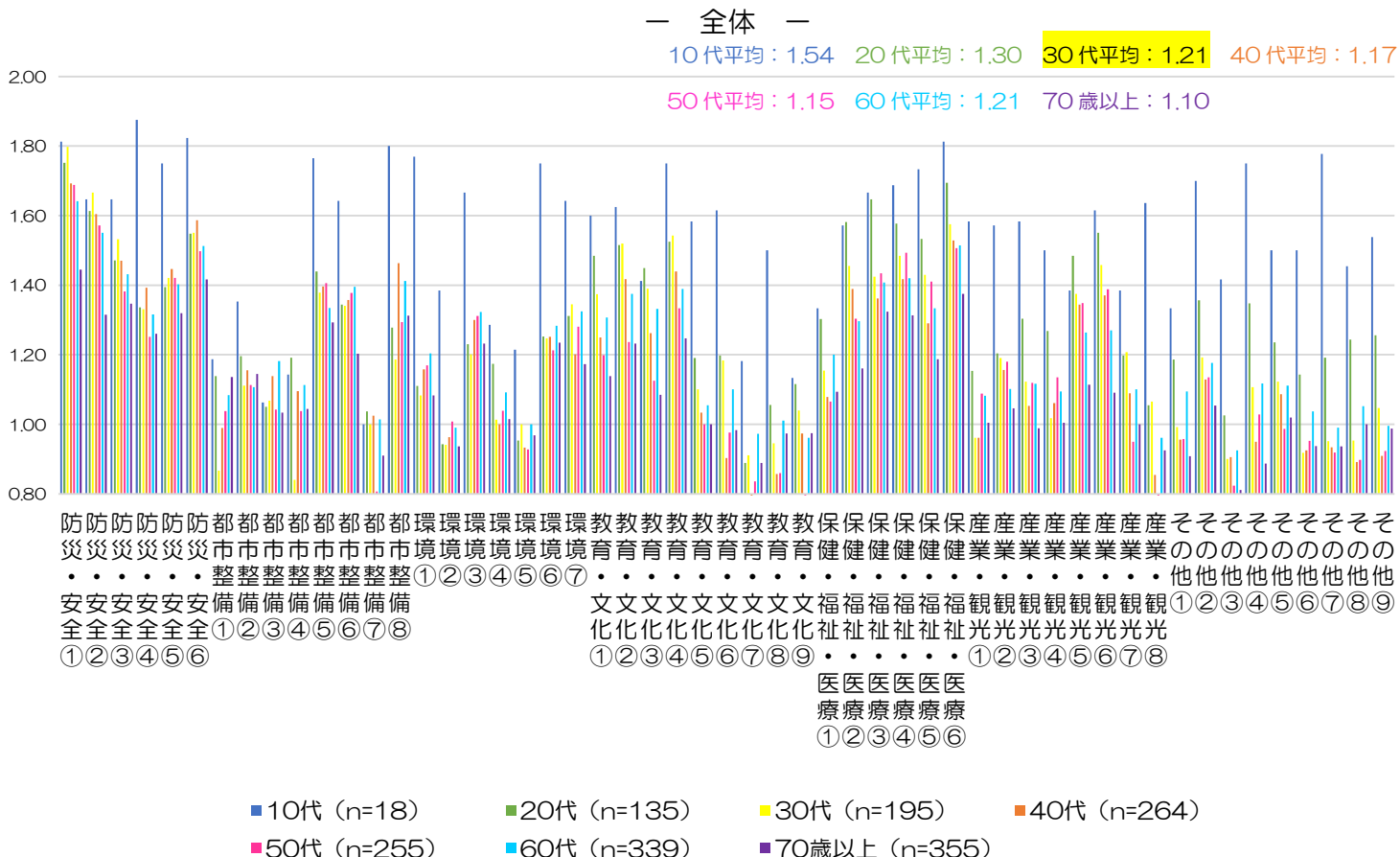
【重要度評価が高い上位3項目（地域別）】

地域	トップ1	トップ2	トップ3
西部地域	防災・安全①	防災・安全⑥	保健・福祉・医療⑥
中央地域	防災・安全①	防災・安全②	防災・安全⑥
南部地域	防災・安全①	保健・福祉・医療⑥	防災・安全②
東部地域	防災・安全①	防災・安全⑥	防災・安全②

【重要度評価が低い上位3項目（地域別）】

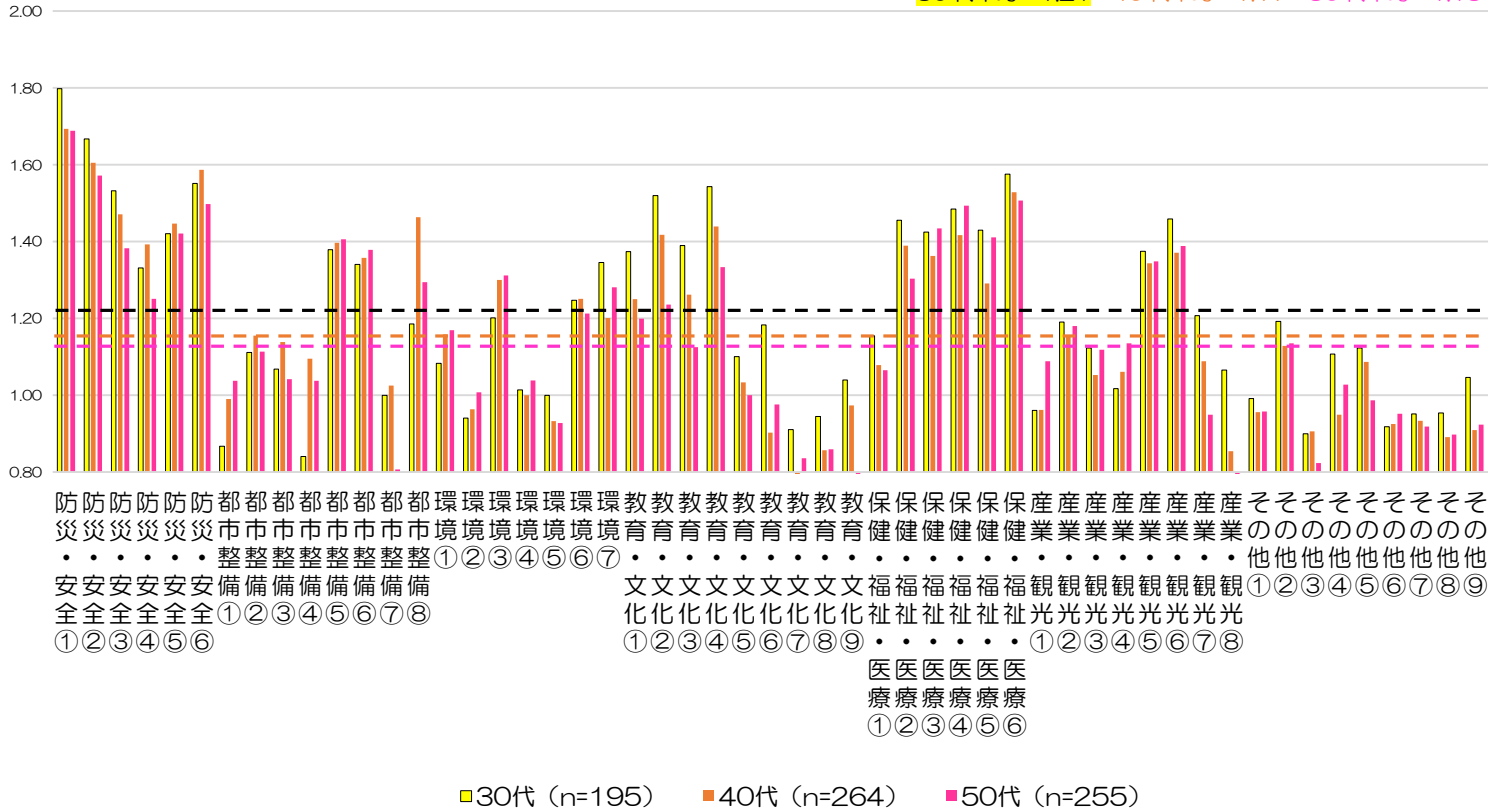
地域	ワースト1	ワースト2	ワースト3
西部地域	その他⑦	その他③	教育・文化⑦
中央地域	教育・文化⑦	その他③	産業・観光⑧
南部地域	教育・文化⑦	産業・観光⑧	その他③
東部地域	その他③	その他⑥	教育・文化⑦

【重要度評価（年代別）】



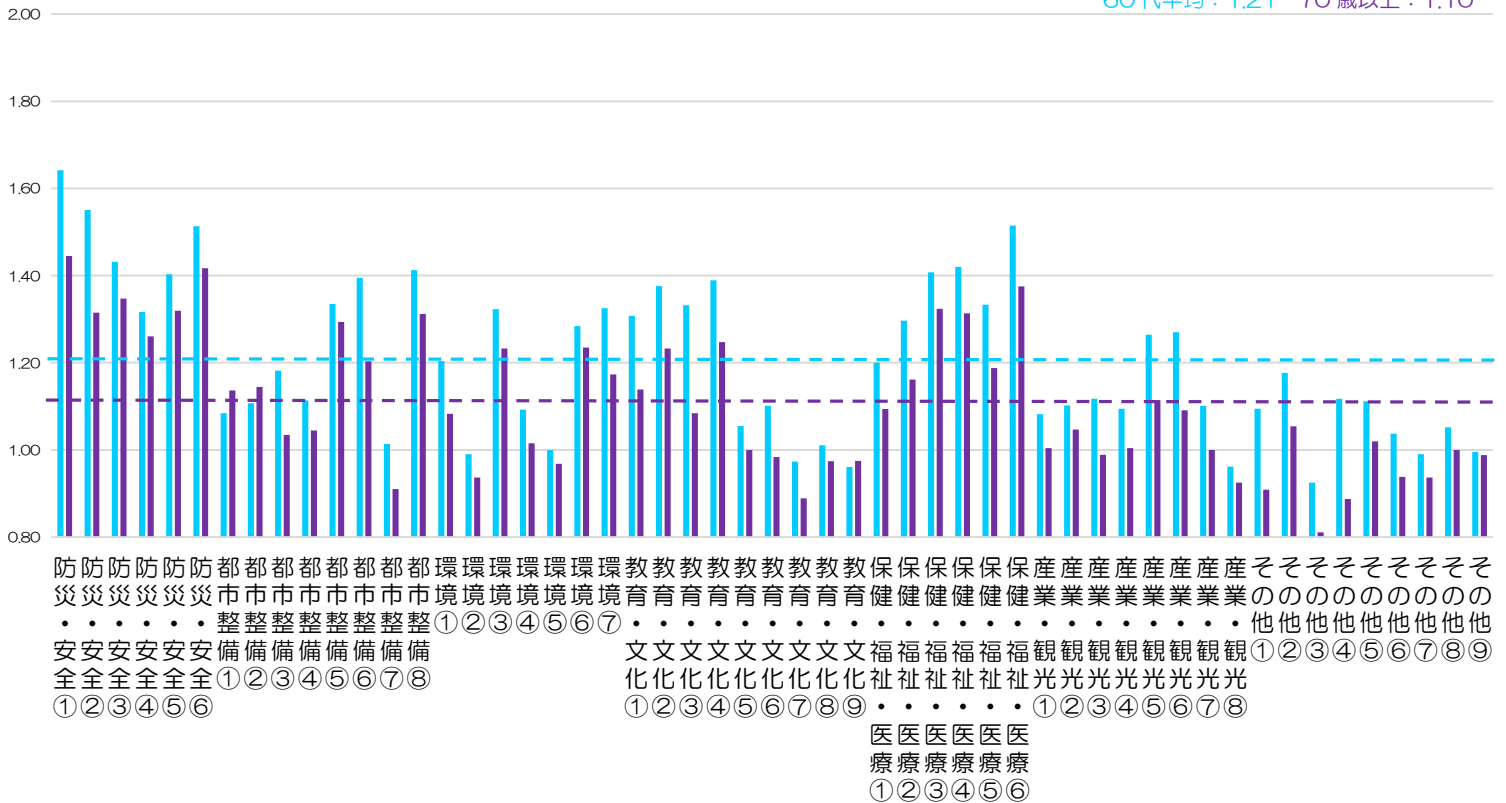
— 30代・40代・50代 —

30代平均：1.21 40代平均：1.17 50代平均：1.15



— 60代・70歳以上 —

60代平均：1.21 70歳以上：1.10



【重要度評価が高い上位3項目（年代別）】

年 代	トップ1	トップ2	トップ3
10代	防災・安全④	防災・安全⑥	防災・安全①
20代	防災・安全①	保健・福祉・医療⑥	保健・福祉・医療③
30代	防災・安全①	防災・安全②	保健・福祉・医療⑥
40代	防災・安全①	防災・安全②	防災・安全⑥
50代	防災・安全①	防災・安全②	保健・福祉・医療⑥
60代	防災・安全①	防災・安全②	保健・福祉・医療⑥
70歳以上	防災・安全①	防災・安全⑥	保健・福祉・医療⑥

防災・安全分野や保健・福祉・医療分野に関連する項目が、いずれの年代においても重要度評価が高い結果となりました。

【重要度評価が低い上位3項目（年代別）】

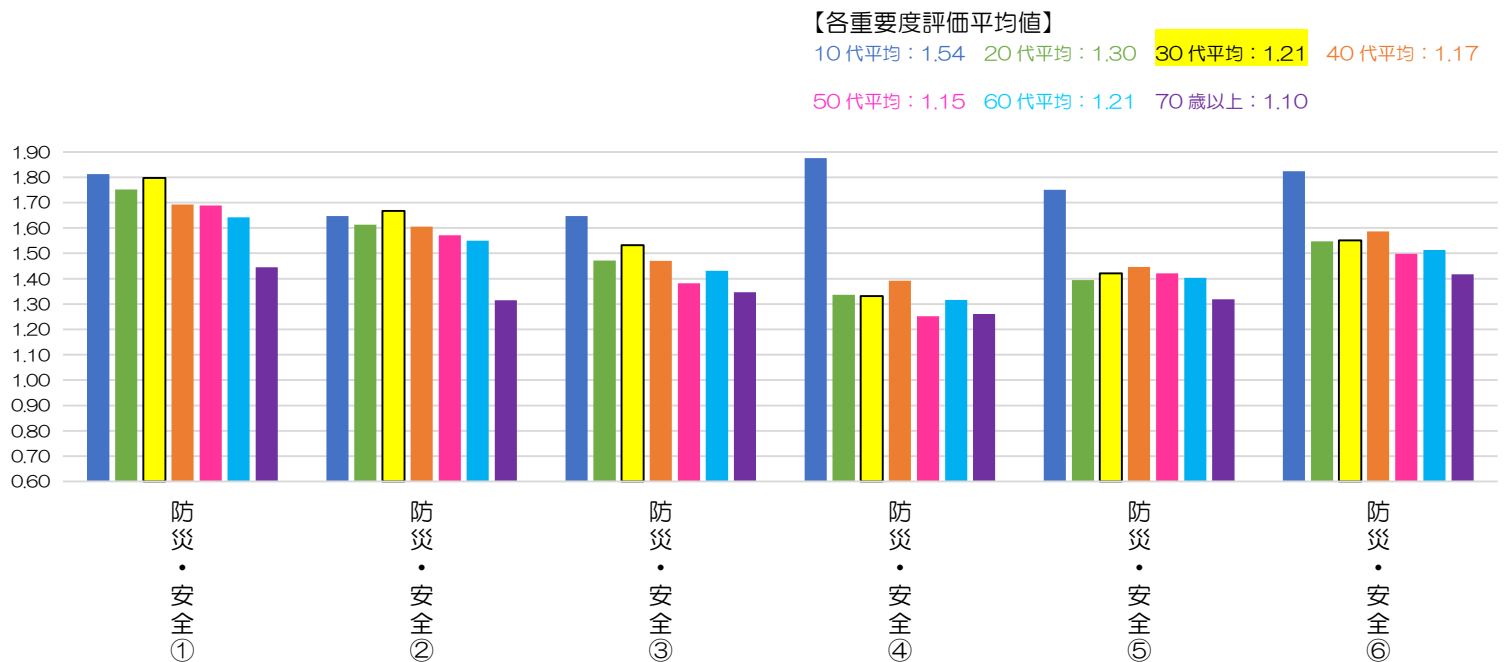
年 代	ワースト1	ワースト2	ワースト3
10代	都市整備⑦	都市整備③	教育・文化⑨
20代	教育・文化⑦	環境②	環境⑤
30代	都市整備④	都市整備①	その他③
40代	教育・文化⑦	産業・観光⑧	教育・文化⑧
50代	産業・観光⑧	教育・文化⑨	都市整備⑦
60代	その他③	教育・文化⑨	産業・観光⑧
70歳以上	その他③	その他④	教育・文化⑦

重要度評価が低い項目については、各年代において異なる結果となりました。

30代以下の年代においては、都市整備分野に関連する項目が低い結果となりました。

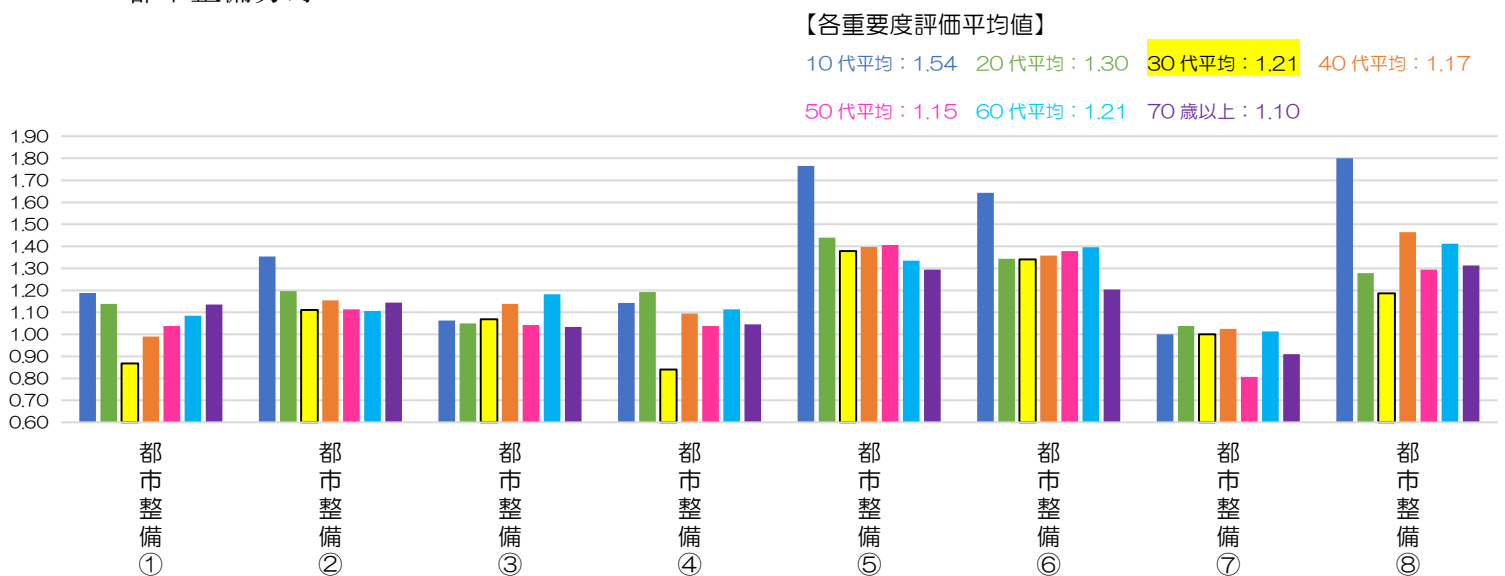
一方、40代以上の年代においては、産業・観光分野や教育・文化分野に関連する項目が低い結果となりました。

<<防災・安全分野>>



全項目、いずれの年代においても各重要度評価平均値を上回る結果となりました。

<<都市整備分野>>



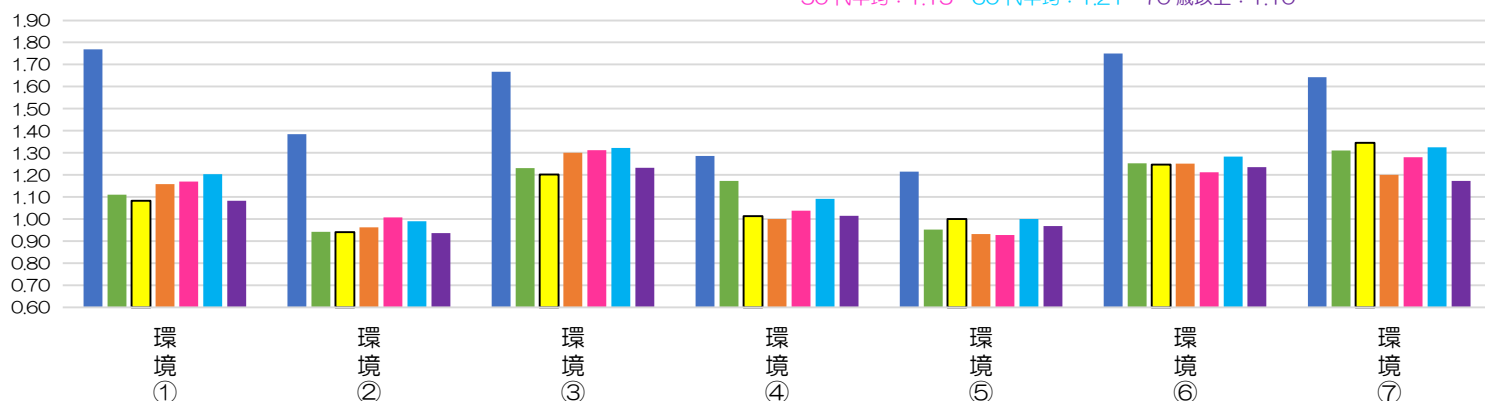
⑤「高齢者等すべての人が移動しやすい環境の整備（道路や公共施設のバリアフリー化等）」、⑥「雨水排水施設の整備（河川改修等）」では、いずれの年代においても各重要度評価平均値を上回る結果となりました。

一方、③「身近な生活道路の便利さ」、④「広域的に移動できる幹線道路の便利さ」、⑦「公園・広場などの整備・便利さ」では、いずれの年代においても、①「日用品・食料品などの買い物の便利さ」、②「鉄道・バスなどの公共交通機関の便利さ」では、多くの年代において各重要度評価平均値を下回る結果となりました。

<<環境分野>>

【各重要度評価平均値】

10代平均：1.54 20代平均：1.30 30代平均：1.21 40代平均：1.17
50代平均：1.15 60代平均：1.21 70歳以上：1.10



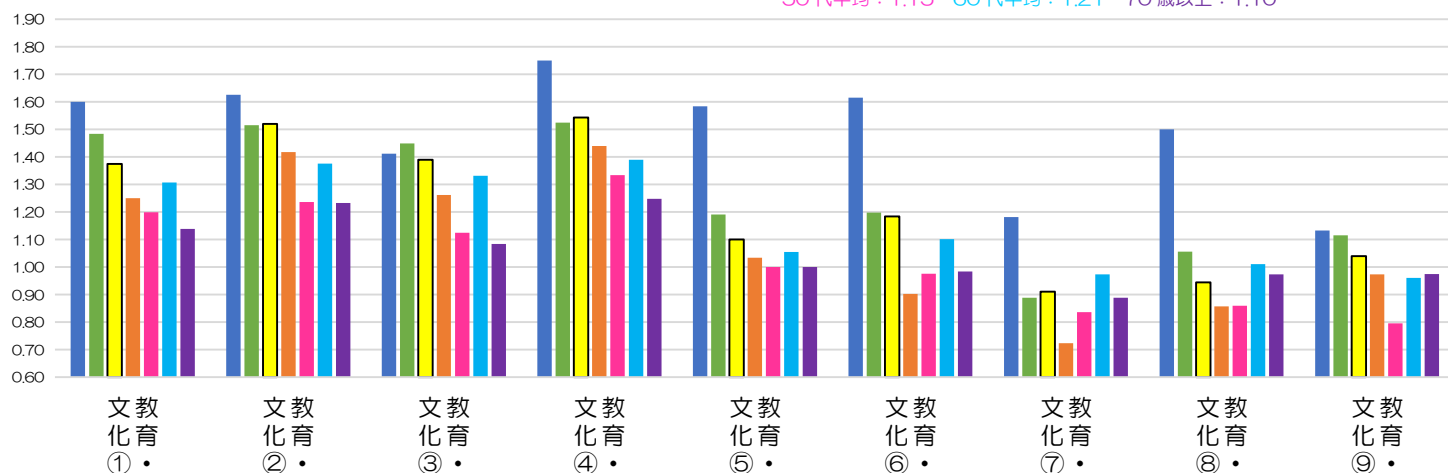
⑦「省エネルギーや太陽光発電等再生可能エネルギーの促進」では、いずれの年代においても、③「生活排水の処理（下水道整備等）による水質の保全」、⑥「ごみの減量化や再資源化（リサイクル）」では、多くの年代において各重要度評価平均値を上回る結果となりました。

一方、②「市街地周辺農地の保全」、④「公園や緑地など緑の豊かさ」、⑤「まち並みや景観の保全」では、いずれの年代においても、①「海・川など水辺の豊かさなど自然環境の保全」では、多くの年代において各重要度評価平均値を下回る結果となりました。

<<教育・文化分野>>

【各重要度評価平均値】

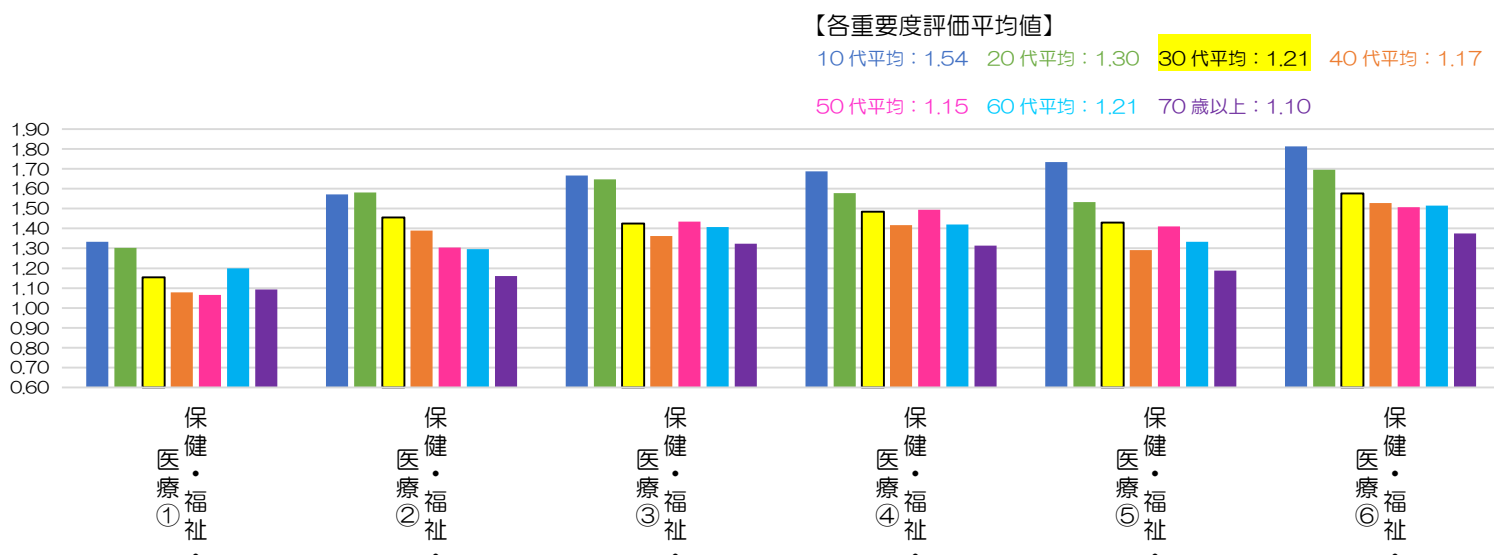
10代平均：1.54 20代平均：1.30 30代平均：1.21 40代平均：1.17
50代平均：1.15 60代平均：1.21 70歳以上：1.10



①「幼稚園など幼児教育の充実」、②「小中学校教育の充実」、④「幼稚園，学校等における安全対策」の3項目では、いずれの年代においても、③「高校・大学・専門学校教育の充実」では、多くの年代において各重要度評価平均値を上回る結果となりました。

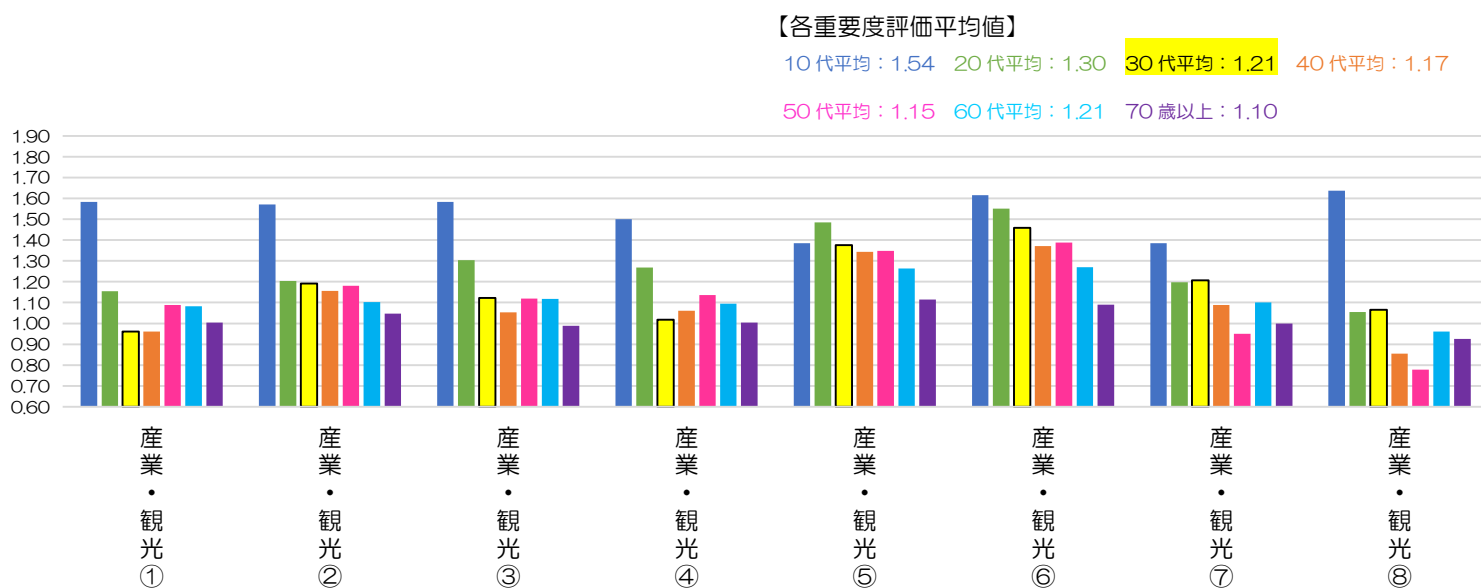
一方、⑦「芸術・文化の振興（文化施設，芸術・文化活動等）」、⑧「文化財の保全・活用，伝統芸能の継承」、⑨「スポーツの振興（スポーツ施設，スポーツ活動等）」の3項目では、いずれの年代においても、⑤「生涯学習の充実（公民館，図書館等）」、⑥「人権教育の充実」では、10代を除く年代において各重要度評価平均値を下回る結果となりました。

<<保健・福祉・医療分野>>



①「健康づくり事業の充実」を除く、②「保育や子育て相談など子育て支援の充実」、③「高齢者福祉の充実」、④「介護サービスの充実」、⑤「障がい者の自立支援や社会参加」、⑥「医療体制の充実」の5項目では、いずれの年代においても各重要度評価平均値を上回る結果となりました。

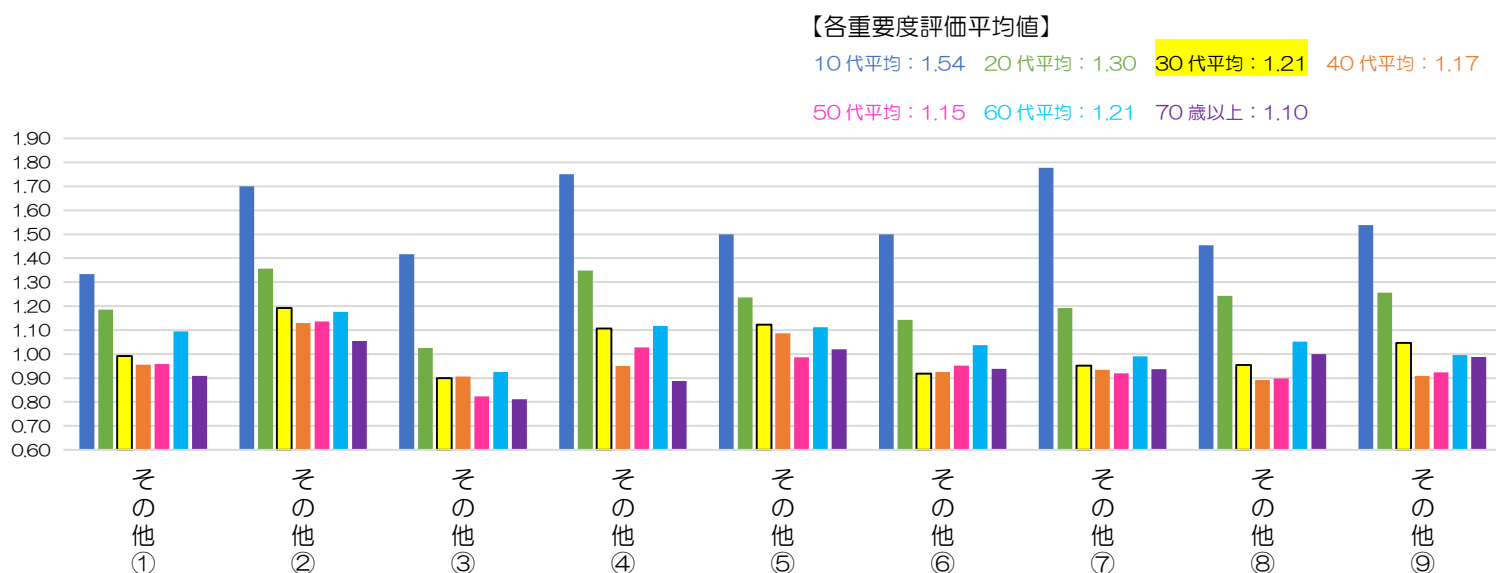
<<産業・観光分野>>



⑤「中小企業の活性化」、⑥「労働環境の充実」では、多くの年代において各重要度評価平均値を上回る結果となりました。

一方、④「企業誘致の推進」では、いずれの年代においても、①「農林水産業の振興」、②「地産地消の推進」、③「商業やサービス産業の活性化」、⑦「観光振興による地域活性化」、⑧「モータースポーツの振興による地域活性化」では、多くの年代において各重要度評価平均値を下回る結果となりました。

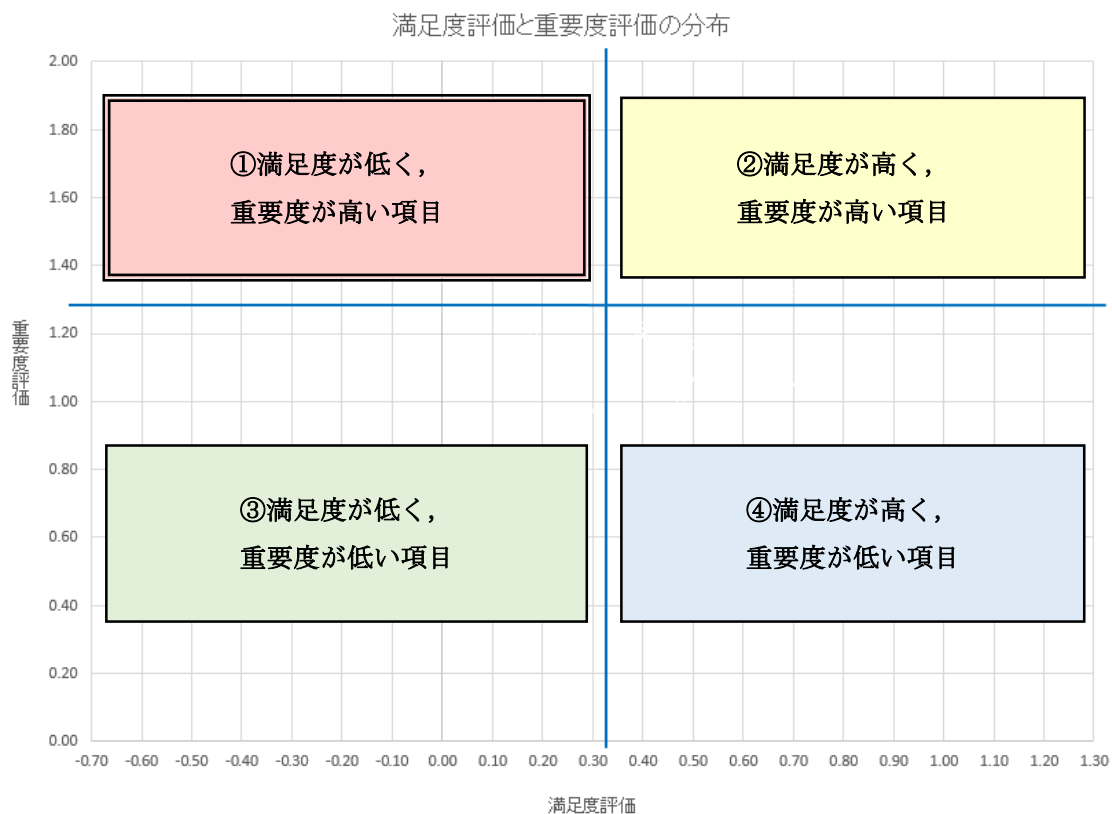
<<その他分野>>



①「男女共同参画社会の実現」、③「国際交流の推進，多文化共生社会の推進」、⑤「市政や地域に関する情報発信の充実」、⑥「住民参加によるまちづくりの推進」、⑧「近隣市町との連携強化（広域行政の推進）」では，いずれの年代においても各重要度評価平均値を下回る結果となりました。

また，②「人権の尊重」、④「高度情報化時代への対応（情報通信ネットワークの充実）」では，10代・20代を除く年代において，⑦「NPO，ボランティアなど市民活動の支援」、⑨「市外における知名度の向上（シティセールスやPRの強化）」では，10代を除く年代において各重要度評価平均値を下回る結果となりました。

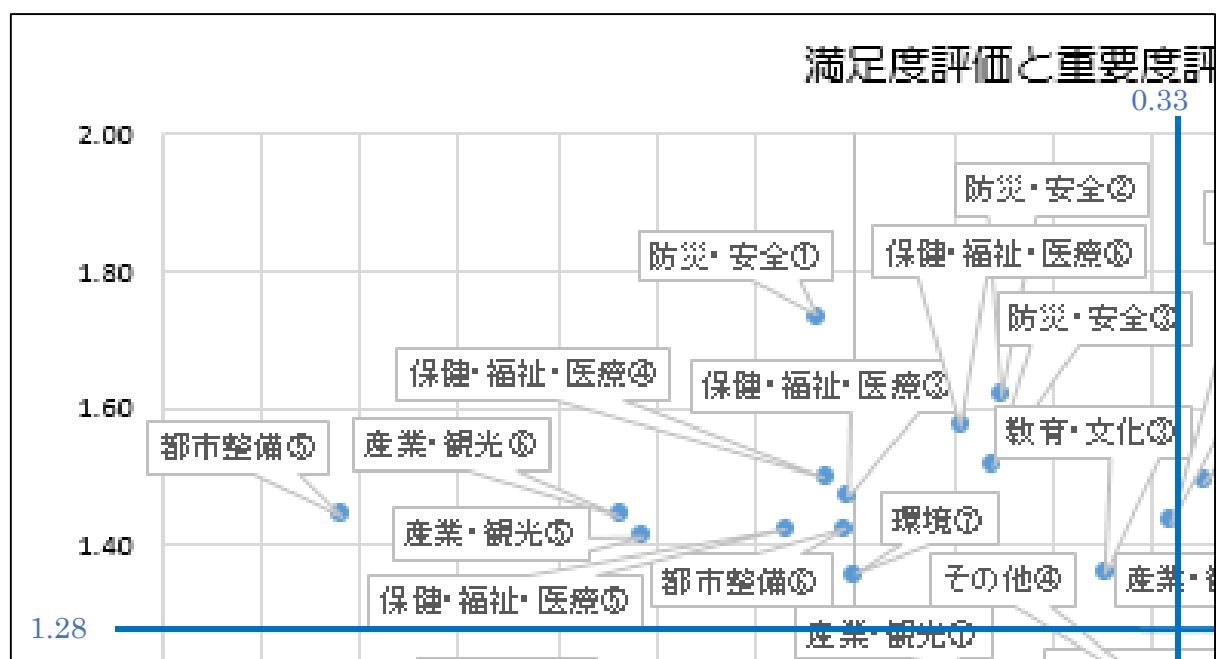
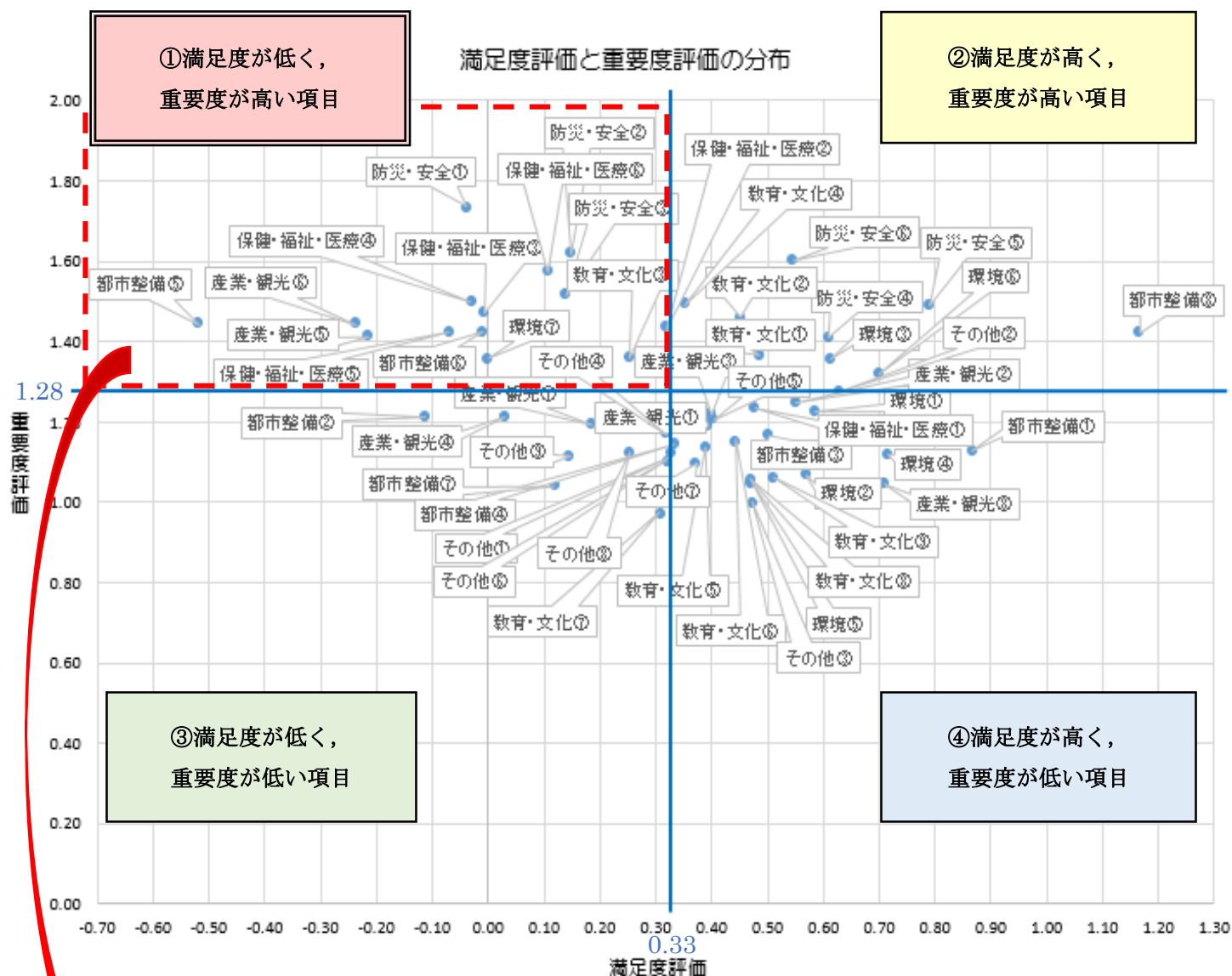
(4) 満足度及び重要度評価のグラフ化について



満足度及び重要度における評価得点に基づき、縦軸を重要度評価、横軸を満足度評価とした散布図を作成しました。

散布図では、満足度及び重要度評価得点について、それぞれの平均点を基準（青色の実線）としています。基準により分類された4つの範囲において、「満足度が低く、重要度が高い」に分類される項目は、市民が改善を求める意識が強い取組と考えることができます。

各項目の評価得点に基づき、散布図に当てはめたところ、次のとおりでした。



範囲	項目	内容
① 満足度が低く、重要度が高い項目 (14 項目)	防災・安全①	地震・水害など自然災害からの安全性確保（防災・減災対策）
	防災・安全②	暴力や犯罪などからの安全性確保（防犯対策）
	防災・安全③	交通安全確保（交通事故防止等）
	都市整備⑤	高齢者等すべての人が移動しやすい環境の整備（道路や公共施設のバリアフリー化等）
	都市整備⑥	雨水排水施設の整備（河川改修等）
	環境⑦	省エネルギーや太陽光発電等再生可能エネルギーの促進
	教育・文化③	高校・大学・専門学校教育の充実
	保健・福祉・医療②	保育や子育て相談など子育て支援の充実
	保健・福祉・医療③	高齢者福祉の充実
	保健・福祉・医療④	介護サービスの充実
	保健・福祉・医療⑤	障がい者の自立支援や社会参加
	保健・福祉・医療⑥	医療体制の充実
	産業・観光⑤	中小企業の活性化
	産業・観光⑥	労働環境の充実
② 満足度が高く、重要度が高い項目 (9 項目)	防災・安全④	公害，防疫（感染症対策）等危機管理体制の充実
	防災・安全⑤	火災予防，消防体制の充実
	防災・安全⑥	救急体制の充実
	都市整備⑧	水道水の安定供給
	環境③	生活排水の処理（下水道整備等）による水質の保全
	環境⑥	ごみの減量化や再資源化（リサイクル）
	教育・文化①	幼稚園など幼児教育の充実
	教育・文化②	小中学校教育の充実
③ 満足度が低く、重要度が低い項目 (9 項目)	教育・文化④	幼稚園，学校等における安全対策
	都市整備②	鉄道・バスなどの公共交通機関の便利さ
	都市整備⑦	公園・広場などの整備・便利さ
	教育・文化⑦	芸術・文化の振興（文化施設，芸術・文化活動等）
	産業・観光④	企業誘致の推進
	産業・観光⑦	観光振興による地域活性化
	その他④	高度情報化時代への対応（情報通信ネットワークの充実）
	その他⑥	住民参加によるまちづくりの推進
	その他⑧	近隣市町との連携強化（広域行政の推進）
	その他⑨	市外における知名度の向上（シティセールスやPRの強化）

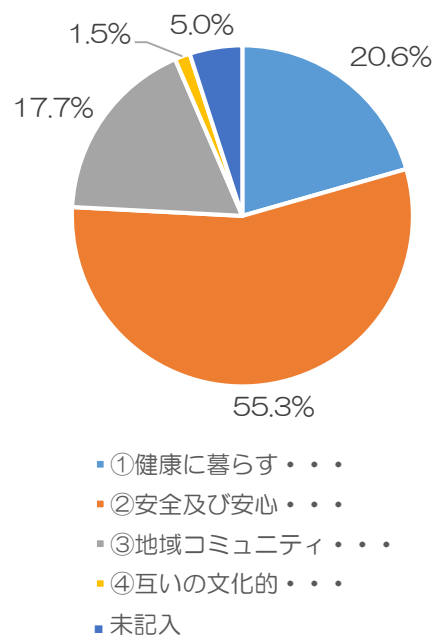
範囲	項目	内容
④ 満足度が高く、重要度が低い項目 (21 項目)	都市整備①	日用品・食料品などの買い物の便利さ
	都市整備③	身近な生活道路の便利さ
	都市整備④	広域的に移動できる幹線道路の便利さ
	環境①	海・川など水辺の豊かさなど自然環境の保全
	環境②	市街地周辺農地の保全
	環境④	公園や緑地など緑の豊かさ
	環境⑤	まち並みや景観の保全
	教育・文化⑤	生涯学習の充実（公民館，図書館等）
	教育・文化⑥	人権教育の充実
	教育・文化⑧	文化財の保全・活用，伝統芸能の継承
	教育・文化⑨	スポーツの振興（スポーツ施設，スポーツ活動等）
	保健・福祉・医療①	健康づくり事業の充実
	産業・観光①	農林水産業の振興
	産業・観光②	地産地消の推進
	産業・観光③	商業やサービス産業の活性化
	産業・観光⑧	モータースポーツの振興による地域活性化
	その他①	男女共同参画社会の実現
	その他②	人権の尊重
	その他③	国際交流の推進，多文化共生社会の推進
	その他⑤	市政や地域に関する情報発信の充実
	その他⑦	NPO，ボランティアなど市民活動の支援

1 2 - 1. まちづくりの視点について

【まちづくりの視点 構成比】

項目	回答数	構成比
①健康に暮らすことのできるまち	325	20.6%
②安全及び安心を実感できるまち	873	55.3%
③地域コミュニティが充実し、豊かな人間関係が育まれるまち	280	17.7%
④互いの文化的違いを認め合う多文化共生のまち	23	1.5%
未記入	79	5.0%
合計	1,580	100.0%

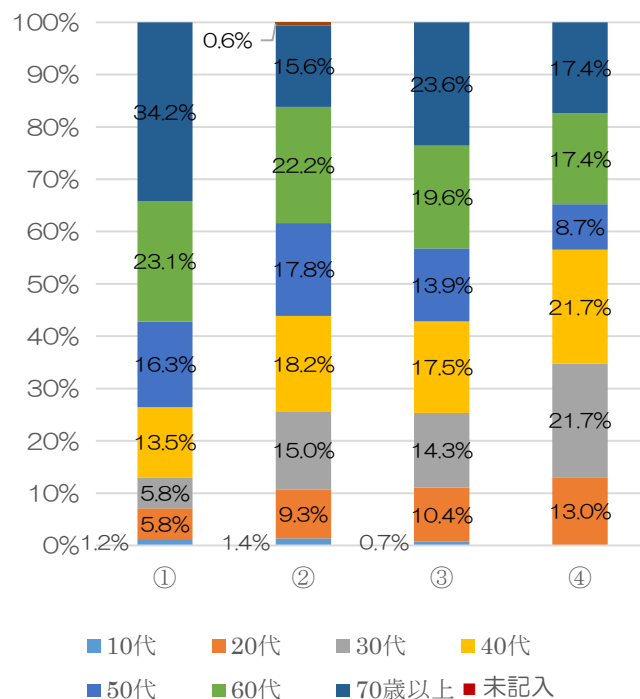
まちづくりの視点



1 2 - 2. まちづくりの視点について (年代別構成)

年代	①健康に暮らす…	②安全及び安心…	③地域コミュニティ…	④互いの文化的…
10代	4(22.2)	12(66.7)	2(11.1)	0(0.0)
20代	19(14.3)	81(61.4)	29(22.0)	3(2.3)
30代	19(9.7)	131(67.2)	40(20.5)	5(2.6)
40代	44(17.1)	159(61.9)	49(19.1)	5(1.9)
50代	53(21.3)	155(62.2)	39(15.7)	2(0.8)
60代	75(22.9)	194(59.1)	55(16.8)	4(1.2)
70歳以上	111(35.0)	136(42.9)	66(20.8)	4(1.3)
未記入	0	5	0	0
合計	325	873	280	23

まちづくりの視点における年代別構成



※上表の () 内数値は、各年代における回答割合を示す。

※右棒グラフ中の割合は、まちづくりの視点に対する各年代の意見が占める割合を示す。

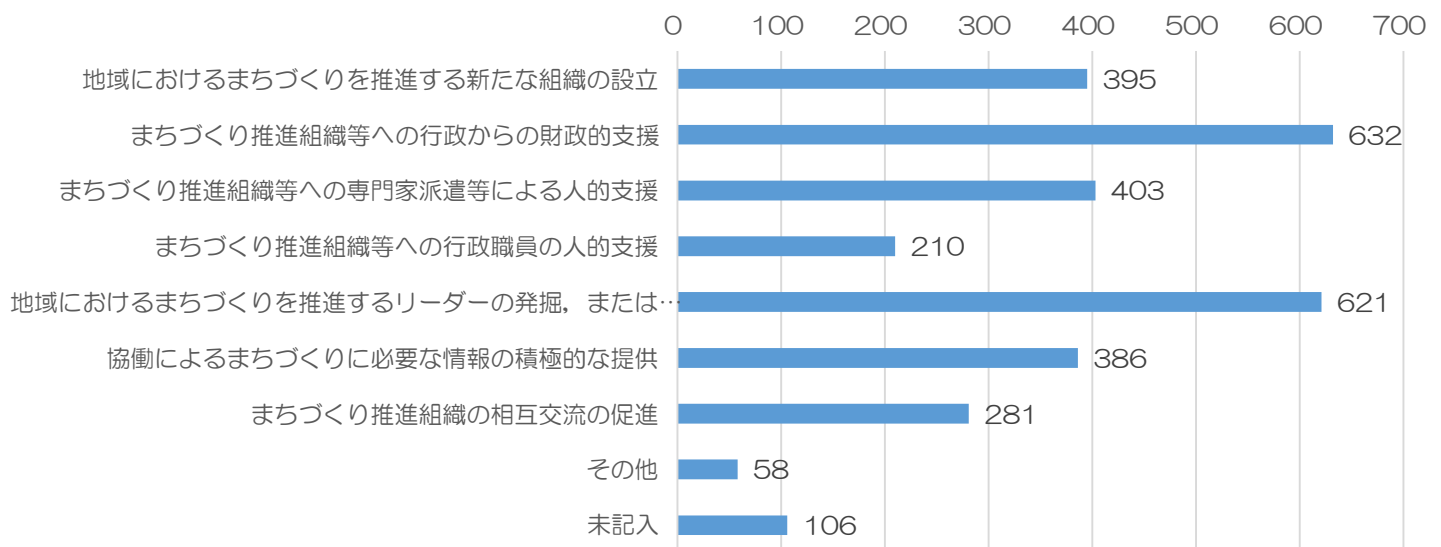
まちづくりの視点については、半数以上の方が「②安全及び安心を実感できるまち」を重要だと回答されました。次に重要な視点は、「①健康に暮らすことのできるまち」でしたが、このうち60%程度を60代以上の方が占めました。

1 3. まちづくりを推進していくために必要なことについて (複数回答)

【まちづくりを推進していくために必要なこと】

項目	回答数
地域におけるまちづくりを推進する新たな組織の設立	395
まちづくり推進組織等への行政からの財政的支援	632
まちづくり推進組織等への専門家派遣等による人的支援	403
まちづくり推進組織等への行政職員の人的支援	210
地域におけるまちづくりを推進するリーダーの発掘, または育成	621
協働によるまちづくりに必要な情報の積極的な提供	386
まちづくり推進組織の相互交流の促進	281
その他	58
未記入	106

まちづくりを推進していくために必要なこと



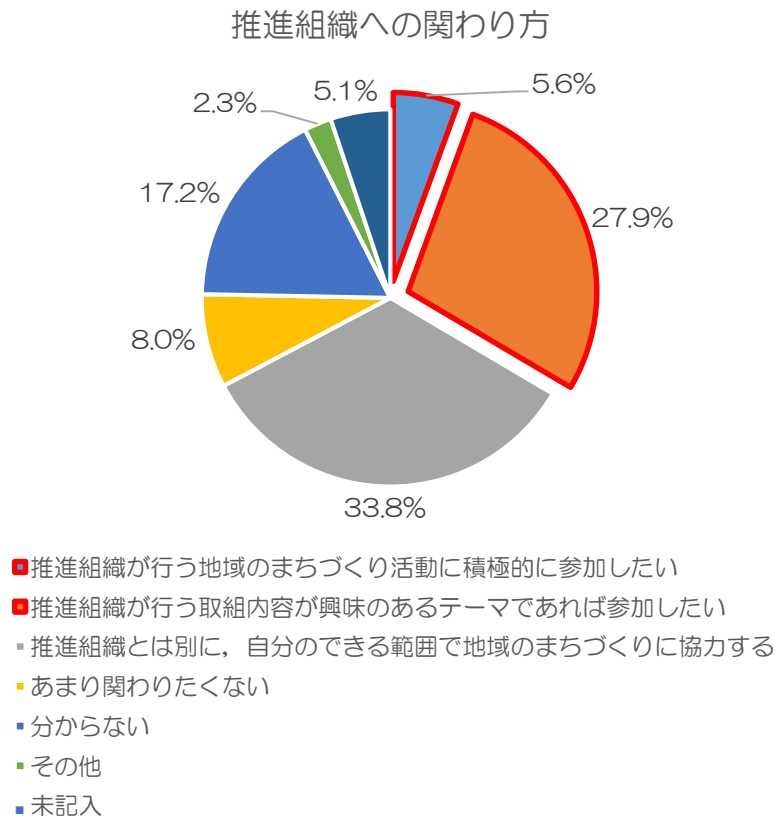
財政的支援とリーダーの発掘または育成が突出して高い数値でした。一方で行政職員の人的支援が低い数値でした。

なお、「その他」の意見としては、自治会・子ども会との提携や、市民全員が参加する仕組み作りが必要などの意見がありました。

1 4－1. 推進組織への関わり方について

【推進組織への関わり方】

	項目	回答数	構成比
(1 4－2)	推進組織が行う地域のまちづくり活動に積極的に参加したい	88	5.6%
(1 4－3)	推進組織が行う取組内容が興味のあるテーマであれば参加したい	441	27.9%
	推進組織とは別に、自分のできる範囲で地域のまちづくりに協力する	534	33.8%
	あまり関わりたくない	127	8.0%
	分からない	272	17.2%
	その他	37	2.3%
	未記入	81	5.1%
	合計	1,580	100.0%

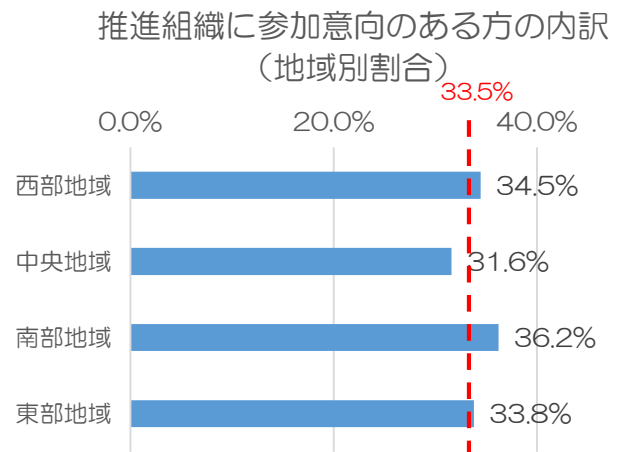


全体の 33.5%の方がまちづくりの推進組織に参加しようとする意向があったほか、自分のできる範囲で地域のまちづくりに協力する意向の市民を加えると、まちづくりに対して何らかの形で関わりと回答した方は全体の 67.3%を占めました。

なお、「その他」の意見としては、興味のあるテーマであれば参加するなどの意見がありました。

1 4－2．推進組織に参加意向のある方の内訳（地域別割合）

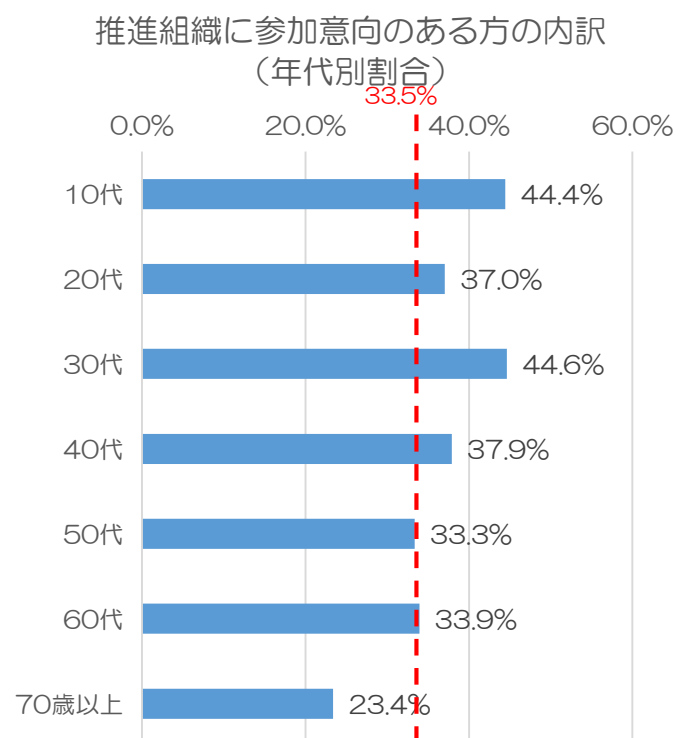
地域	人数	回答数に対する割合
西部地域	92	34.5%
中央地域	152	31.6%
南部地域	113	36.2%
東部地域	146	33.8%
地区不明	26	29.5%
合計	529	33.5%



推進組織への参加意向について、中央地域が最も低い数値となりました。人口規模が大きい地域よりも、小さい地域の方が参加意向は高くなりました。

1 4－3．推進組織に参加意向のある方の内訳（年代別割合）

年代	人数	回答数に対する割合
10代	8	44.4%
20代	50	37.0%
30代	87	44.6%
40代	100	37.9%
50代	85	33.3%
60代	115	33.9%
70歳以上	83	23.4%
未記入	1	5.3%
合計	529	33.5%



年齢が高くなるにつれて推進組織への参加意向が減少傾向にありました。一方で、30代においては、参加意向のある方の割合が一番高い結果となりました。

1 5. 市政全般についての御意見、御提案（一部抜粋）

市政全般についての御意見、御提案を自由形式で記入していただいたところ、全部で 471 人の方から御意見、御提案をいただきました。この中から、新たな中・長期的計画を策定する上で参考となるもの（住みやすさに関する御意見、定住意向に関する御意見、各取組分野における改善の方向性が分かる御意見など）を抽出しました。

ここでは、抽出しました御意見、御提案について、各分野における主な意見を一部抜粋し、年代別に紹介します。

なお、抽出しました御意見、御提案につきましては、鈴鹿市ホームページにおいて全て掲載しています。

【10 代・20 代】

- ・過去と比べるとライフスタイル、人の考え方等多様化しており全てを叶えることは難しいですが、自分の力ではどうすることもできない障がい者の方、高齢者の方を優先的にバックアップすることが大事であると思います。
- ・学校で防災危機管理課から災害のお話を聞いたのですが、地震のことについて地域の人たちにもっとわかってもらいたいと思いました。
- ・救急医療に不安があります。受け入れ拒否が多すぎると親や周りでも言われています。なぜ鈴鹿は市民病院がないのか。
- ・男女共にもう少し働きながら子育てしやすい環境（残業が少なくなる正社員が増えて収入が安定する等）になればいいなと思います。
- ・妊婦に対する支援や、保育園や幼稚園に入りやすい環境の強化をして欲しい。

【30 代・40 代】

- ・子育てが出来る環境を整えて欲しい。保育料の援助とか少しでも家計を緩和できる様にしてもらいたい。消費税を上げる現状において、生活にゆとりがなければ、生きていく希望さえなくなりつつある。鈴鹿市なら子供に対する配慮がここまで出来るという強みを持てたら、それがまちづくりの強みになると私は思う。
- ・少子高齢化とは言え、私の家族は子供 3 人ということで、教育費がたくさん必要で、現行の補助金の額では非常に不安であり、不満です。せめて中学まで充実した補助があれば良いのにとします。
- ・図書館の充実。沢山勉強しに来る子がいてもスペースが少なく、帰らざるをえないのが現実です。場所を増やしてあげてほしいです。勉強できる環境を整えることが大切だと思います。

- ・障がい者への支援をもっと手厚くして頂きたい。少しずつ改善されているが、まだまだ不足だと思う。子育て支援も良いが、少数派に対してもっと目を向け、少しでも生きやすいよう体制づくりをもっとお願いしたい。
- ・救急医療体制の改善をお願いします。平日昼間に次男が発熱し、小児科受診を希望したところ、市内のどの小児科も休診で診てもらえず、紹介サービスの電話案内もあてにならず、中央病院の救急にもことわれ、結局四日市市立病院に入院したことがありました。

【50代・60代】

- ・少子高齢化により財政難に成ると思われるが、新産業の誘致、放棄農地の活用等あるのでは。
- ・南海トラフ大地震が発生すると、鈴鹿市の救援体制は多分海岸部に偏りすぎるのではなかろうか。万が一の場合、被災者は鈴鹿市全域に及ぶであろうから、津波にのみ焦点を当てることのないようあらかじめバランスある対策を立てられるようお願いしたい。
- ・認知症サポート対策を充実していただきたい。介護職の人達が多く働けるようにしてほしいです。
- ・公共交通機関を便利に利用できるようにして欲しい。昼間にバス・電車がなく、車を出せない人は移動できない。
- ・高齢化社会に向けて、もっと高齢者を使って欲しい。障がい者を雇えば会社補助金を出るシステムを高齢者に活用してもいいのでは。

【70歳以上】

- ・低所得者、弱者達の交通の便の向上を図り、行動範囲を広げて欲しい。家族の人に重荷に感じさせないようお願いいたします。
- ・将来の高齢化により、公共交通の整備、老人の交流場所の整備、道路の安全交通整備、自転車・車・歩道の確保など住みやすい鈴鹿市を望みます。
- ・地域まちづくり推進組織の母体は、各地の自治会が主体となることを提案します。理由は、地域の日常の課題を一番良く分かっており、別組織では推進力がマイナスになるからです。自治会は日常のルーティーンが有り多忙だと思うので、自治会毎に課題解決のプロジェクトを編成したらと思います。ただし、事務局としては、各地域の支所が行う。不足時は、本庁よりメンバー選出。
- ・現状の市政で満足していますが、今後は緊縮財政の中で防災と少子高齢化対策を重点課題として取り組んで欲しいと考えます。
- ・国際交流の企画を多く作る。学校教育の中にも取り入れて欲しい。

第3章 参考資料

1 他団体との比較について

本市のまちづくりに関するアンケート調査結果について、相対的に評価を行うことを目的に県内他団体の類似調査結果と比較しました。

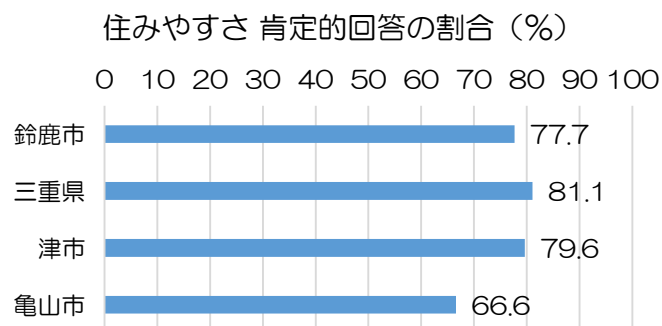
(参考資料)

- ・三 重 県：第3回みえ県民意識調査結果（平成26年実施）
- ・津 市：総合計画後期基本計画策定のための住民意識調査結果（平成24年実施）
- ・四日市市：第41回市政アンケート調査結果（平成25年実施）
- ・亀 山 市：総合計画後期基本計画策定のための市民アンケート調査結果（平成23年実施）

【住みやすさについて】

居住している地域の住みやすさについて問う設問において、「(非常に) 住みやすい」あるいは「どちらかといえば住みやすい」等と回答した『肯定的回答』の割合は次のとおりです。

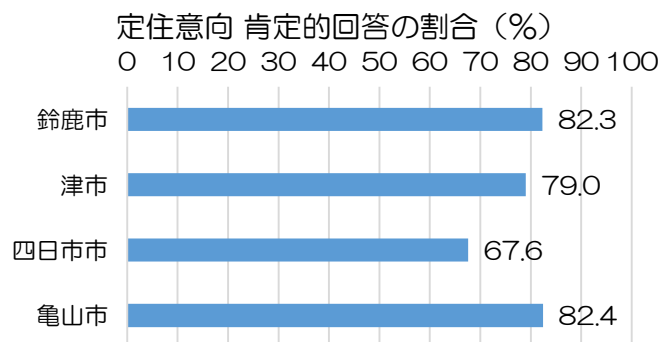
団体名	肯定的回答の割合 (%)
鈴鹿市	77.7
三重県	81.1
津市	79.6
四日市市	該当する設問なし
亀山市	66.6



【定住意向について】

居住している地域における今後の定住意向について問う設問において、「(これから) ずっと住みつづけたい」あるいは「(当面は) できれば住みつづけたい」等と回答した『肯定的回答』の割合は次のとおりです。

団体名	肯定的回答の割合 (%)
鈴鹿市	82.3
三重県	該当する設問なし
津市	79.0
四日市市	67.6
亀山市	82.4



【各分野別項目の満足度・重要度について】

各団体における分野別項目の満足度・重要度について、それぞれの平均値から見た「満足度が低く、重要度が高い」項目は、次のとおりです。

（鈴鹿市）

分野	項目内容
防災・安全	地震・水害など自然災害からの安全性確保（防災・減災対策）
防災・安全	暴力や犯罪などからの安全性確保（防犯対策）
防災・安全	交通安全確保（交通事故防止等）
都市整備	高齢者等すべての人が移動しやすい環境の整備（道路や公共施設のバリアフリー化等）
都市整備	雨水排水施設の整備（河川改修等）
環境	省エネルギーや太陽光発電等再生可能エネルギーの促進
教育・文化	高校・大学・専門学校教育の充実
保健・福祉・医療	保育や子育て相談など子育て支援の充実
保健・福祉・医療	高齢者福祉の充実
保健・福祉・医療	介護サービスの充実
保健・福祉・医療	障がい者の自立支援や社会参加
保健・福祉・医療	医療体制の充実
産業・観光	中小企業の活性化
産業・観光	労働環境の充実

（津 市）

分野	項目内容
防災・安全	災害に強いまちの推進
都市整備	生活道路の整備
都市整備	ユニバーサルデザインのまちづくりの推進
環境	多様な自然環境の保全
環境	環境保全対策の推進
環境	環境への負荷の少ない社会の形成
環境	治水・治山対策の推進
教育・文化	学校教育
教育・文化	青少年の健全育成
教育・文化	人権・平和施策の推進
保健・福祉・医療	地域医療体制の充実
保健・福祉・医療	高齢者福祉の充実
産業・観光	勤労者福祉と雇用の推進
産業・観光	農業の振興
産業・観光	商業の振興
産業・観光	工業の振興
産業・観光	交流拠点の整備
その他	協働のまちづくりの推進
その他	情報公開の推進

(四日市市)

分野	項目内容
防災・安全	災害に強いまちづくり
都市整備	市街地の土地の有効活用
都市整備	公共交通機関の便利さ
都市整備	移動しやすい道路の整備
都市整備	公共施設や道路のバリアフリー化の推進
環境	大気や水質などの環境監視
保健・福祉・医療	保育サービスや子育て支援の充実
保健・福祉・医療	介護保険施設サービスや在宅サービスの充実
保健・福祉・医療	高齢者への地域での見守りや助け合いの推進
産業・観光	企業誘致や競争力強化など産業振興への取り組み
産業・観光	中心商店街の活性化

(亀山市)

分野	項目内容
防災・安全	犯罪防止対策整備
都市整備	バリアフリーのまちづくり
都市整備	鉄道利便
都市整備	バス利便
都市整備	公共施設の充実利用しやすさ
保健・福祉・医療	医療機関が充実
保健・福祉・医療	福祉サービスの充実
保健・福祉・医療	障がい者の教育環境自立支援
保健・福祉・医療	生きがいを持って安心して生活できる
保健・福祉・医療	高齢者、障がい者の勤労支援
産業・観光	働く場の充実
産業・観光	企業活動の活発さ
その他	公平・公正な市政運営

新たな中・長期的計画策定のための市政アンケート調査

【調査ご協力のお願い】

平素は、市政に対してご理解とご協力をいただきありがとうございます。

現在、鈴鹿市では、第5次鈴鹿市総合計画に基づき、政策及び施策等を計画的に進めています。

しかしながら、第5次鈴鹿市総合計画の基本構想（まちづくりのための長期ビジョン）は平成27年度で終了することから、平成28年度からの中・長期的な計画を策定する必要があります。

このため、新たな計画の策定に当たり、市民の皆様のまちづくりに対する満足度や重要度、将来のまちづくりのあり方などについてご意見をいただき参考とするために、アンケート調査を実施させていただきます。

調査票は、市内にお住まいの18歳以上の方から4,000名を無作為に抽出させていただき、送付しております。

なお、調査は無記名で行い、ご回答いただいた内容は統計的に処理し、個人に関わる情報が公表されることは一切ございません。また、調査の目的以外には一切使用いたしませんので、ご回答いただいた方にご迷惑をおかけすることはありません。

お忙しいところ大変恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成26年6月

鈴鹿市長 末松 則子

【調査票の記入方法】

- 1 ご本人がご回答ください。なお、記入が困難な場合は、代わりの方がご本人のお答えをお聞きの上、代理で記入をお願いします。お名前を書きいただく必要はありません。
- 2 質問番号にそって、全部の質問にお答えください。
- 3 お答えは、あてはまる番号に○印をつけてください。その他の場合は、具体的な内容を（ ）に記入してください。
- 4 調査票に不明な点がございましたら下記までお問い合わせください。

勝手ながら、ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れて、

6月24日（火）までにご返送下さいますようお願いいたします。切手は不要です。

鈴鹿市 企画財務部 企画課

Tel 059-382-9038（直通）Fax 059-382-9040

電子メール kikaku@city.suzuka.lg.jp

それぞれあてはまるものに○印をつけてください。

①性 別 1. 男 2. 女

②年 代 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代
5. 50代 6. 60代 7. 70歳以上

③一緒に住んでいるあなたのご家族を教えてください。（複数選択可）

1. 配偶者 2. 子 3. 親 4. 孫
5. 祖父母 6. 兄弟姉妹 7. その他（ ）

④職 業 等 1. 自営業（農林水産業） 2. 自営業（商工業，サービス業，建設業等）
3. 会社員 4. 公務員・団体職員
5. パート・内職 6. 学生
7. 家事専念 8. 無職 9. その他

⑤通勤通学されている方にお聞きします。どこへ通われていますか。

1. 鈴鹿市内 2. 三重県内 3. 県 外

⑥あなたの居住地区は。

1. 国府地区 2. 庄野地区 3. 加佐登地区 4. 牧田地区
5. 石薬師地区 6. 白子地区 7. 稲生地区 8. 飯野地区
9. 河曲地区 10. 一ノ宮地区 11. 箕田地区 12. 玉垣地区
13. 若松地区 14. 神戸地区 15. 栄地区 16. 天名地区
17. 合川地区 18. 井田川地区 19. 久間田地区 20. 椿地区
21. 深伊沢地区 22. 鈴峰地区 23. 庄内地区 24. どの地区に含まれるかわか
らない

⑦あなたは鈴鹿市に通算してどれくらい住んでいますか。

1. 1年未満 2. 1～5年未満 3. 5～10年未満 4. 10年以上

それぞれあてはまるものに○印をつけてください。

【問１】 現在鈴鹿市にお住まいの理由をお聞かせください。（複数回答可）

- | | | |
|---------------|---------------|--------------|
| 1. 生まれたところだから | 2. 通勤通学に便利だから | 3. 結婚したため |
| 4. 子どもの教育の都合で | 5. 親や家族の都合で | 6. 自然環境が良いから |
| 7. 勤務地になったから | 8. その他（ | ） |

【問２】 鈴鹿市は住みやすいところだと思いますか。

- | | |
|--------------|------------------|
| 1. 非常に住みやすい | 2. どちらかといえば住みやすい |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば住みにくい |
| 5. 非常に住みにくい | |

【問３】 現住所にこれからも住みつづけたいと思いますか。

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. ずっと住みつづけたい | 2. できるだけ住みつづけたい |
| 3. できれば市内の他の場所に転居したい | 4. できれば市外に転出したい |
| 5. すぐにでも市外に転出したい | |

【問4】 それぞれの項目について、あなたのお考えをお聞かせください。

分野	「現在の満足度」「今後の重要度」それぞれの項目において、該当すると思う欄に○印をつけてください。	現在の満足度					今後の重要度				
		十分満足	まあ満足	どちらでもない	やや不満	まったく不満	非常に重要	やや重要	どちらでもない	さほど重要でない	重要でない
例	地震・水害など自然災害からの安全性確保（防災・減災対策）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
防災・安全	地震・水害など自然災害からの安全性確保（防災・減災対策）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	暴力や犯罪などからの安全性確保（防犯対策）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	交通安全確保（交通事故防止等）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	公害，防疫（感染症対策）等危機管理体制の充実	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	火災予防，消防体制の充実	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	救急体制の充実	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
都市整備	日用品・食料品などの買い物の便利さ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	鉄道・バスなどの公共交通機関の便利さ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	身近な生活道路の便利さ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	広域的に移動できる幹線道路の便利さ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	高齢者等すべての人が移動しやすい環境の整備（道路や公共施設のバリアフリー化等）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	雨水排水施設の整備（河川改修等）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	公園・広場などの整備・便利さ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	水道水の安定供給	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

分野	「現在の満足度」「今後の重要度」それぞれの項目において、該当すると思う欄に○印をつけてください。	現在の満足度					今後の重要度				
		十分満足	まあ満足	どちらでもない	やや不満	まったく不満	非常に重要	やや重要	どちらでもない	さほど重要でない	重要でない
環境	海・川など水辺の豊かさなど自然環境の保全	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	市街地周辺農地の保全	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	生活排水の処理（下水道整備等）による水質の保全	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	公園や緑地など緑の豊かさ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	まち並みや景観の保全	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	ごみの減量化や再資源化（リサイクル）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	省エネルギーや太陽光発電等再生可能エネルギーの促進	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
教育・文化	幼稚園など幼児教育の充実	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	小中学校教育の充実	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	高校・大学・専門学校教育の充実	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	幼稚園、学校等における安全対策	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	生涯学習の充実（公民館、図書館等）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	人権教育の充実	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	芸術・文化の振興（文化施設、芸術・文化活動等）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	文化財の保全・活用、伝統芸能の継承	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	スポーツの振興（スポーツ施設、スポーツ活動等）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
保健・福祉・医療	健康づくり事業の充実	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	保育や子育て相談など子育て支援の充実	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	高齢者福祉の充実	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	介護サービスの充実	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	障がい者の自立支援や社会参加	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	医療体制の充実	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

分野	「現在の満足度」「今後の重要度」それぞれの項目において、該当すると思う欄に○印をつけてください。	現在の満足度					今後の重要度				
		十分満足	まあ満足	どちらでもない	やや不満	まったく不満	非常に重要	やや重要	どちらでもない	さほど重要でない	重要でない
産業・観光	農林水産業の振興	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	地産地消の推進	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	商業やサービス産業の活性化	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	企業誘致の推進	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	中小企業の活性化	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	労働環境の充実	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	観光振興による地域活性化	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	モータースポーツの振興による地域活性化	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
その他	男女共同参画社会の実現※ ₁	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	人権の尊重	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	国際交流の推進，多文化共生社会の推進※ ₂	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	高度情報化時代への対応（情報通信ネットワークの充実）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	市政や地域に関する情報発信の充実	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	住民参加によるまちづくりの推進	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	NPO，ボランティアなど市民活動の支援	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	近隣市町との連携強化（広域行政の推進）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	市外における知名度の向上（シティセールス※ ₃ やPRの強化）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

※₁：男女共同参画社会とは「男女が性別にかかわらず、多様な活動が選択できる社会」のことです。

※₂：多文化共生社会とは「互いの文化的違いを認め合い、誰もがいきいきと暮らせる社会」のことです。

※₃：シティセールスとは、市の魅力や個性を内外に売り込み、人、モノ、財源などまちづくりに必要な資源を獲得するための取組のことです。

【問5-①】 人口減少に伴う財政規模の縮小等により、多様化・高度化する地域のニーズに対して、きめ細やかに応えられるサービスを行政のみで担うことは困難な時代になってきています。このため、今後は市民・市民団体・企業等と行政の適切な役割分担など協働のあり方について考えていく必要があります。鈴鹿市では、市民の皆様や市議会及び市が協力し合い住みやすいまちをつくっていくため、まちづくりの基本原則等となる「鈴鹿市まちづくり基本条例」を平成24年に制定しました。その中では、まちづくりの視点として以下の4つの視点を挙げていますが、あなたが最も重要と考える視点はどれですか。1つお選びください。

1. 健康に暮らすことのできるまち
2. 安全及び安心を実感できるまち
3. 地域コミュニティが充実し、豊かな人間関係が育まれるまち
4. 互いの文化的違いを認め合う多文化共生のまち

【問5－②】 地域別の課題やニーズを反映したまちづくりに関するビジョン（将来の方向性）について、地域住民自らが中心となって作成していく必要性が高まっています。今後、各地域で地域別ビジョンを作成し、それらに基づいたまちづくりを推進していくには、どのようなことが必要であると考えますか。（複数回答可）

1. 地域におけるまちづくりを推進する新たな組織の設立
2. まちづくり推進組織等への行政からの財政的支援
3. まちづくり推進組織等への専門家派遣等による人的支援
4. まちづくり推進組織等への行政職員の人的支援
5. 地域におけるまちづくりを推進するリーダーの発掘，または育成
6. 協働によるまちづくりに必要な情報の積極的な提供
7. まちづくり推進組織の相互交流の促進
8. その他（ ）

1. 推進組織が行う地域のまちづくり活動に積極的に参加したい
2. 推進組織が行う取組内容が興味のあるテーマであれば参加したい
3. 推進組織とは別に、自分のできる範囲で地域のまちづくりに協力する
4. あまり関わりたくない
5. 分からない
6. その他（ ）

63